

『α』専用サポートサイト

製品に関するQ&A、パソコンとの接続方法、使用可能なメモリーカード、アクセサリー互換情報に加えて、撮影方法など写真をもっと楽しみたいときに役立つ情報を掲載しています。

<http://www.sony.jp/support/ichigan/>



ソフトウェアのサポート情報

PlayMemoriesシリーズなどのソフトウェア・アプリケーションに関する情報を掲載しています。

<http://www.sony.jp/support/r/disoft/>

『α』オフィシャルサイト

レンズ交換式デジタルカメラの最新情報、撮影テクニック、アクセサリーなどに関する情報を掲載しています。

<http://www.sony.jp/ichigan-e/>

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などは
ホームページをご活用ください。

<http://www.sony.jp/support/>

使い方相談窓口

フリーダイヤル	0120-333-020
携帯電話・PHS・一部のIP電話	050-3754-9577

修理相談窓口

フリーダイヤル	0120-222-330
携帯電話・PHS・一部のIP電話	050-3754-9599
※取扱説明書・リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。		

FAX(共通) 0120-333-389

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

<http://www.sony.co.jp/>



4564359020

© 2014 Sony Corporation Printed in Thailand

SONY®

α
7 II

レンズ交換式デジタルカメラ

α
7 II

取扱説明書

Eマウント



ヘルプガイド(Web取扱説明書)

Web上のマニュアル「ヘルプガイド」もご覧ください。パソコンやスマートフォンでご覧いただけます。

<http://rd1.sony.net/help/ilc/1450/ja/>

ILCE-7M2

⚠ 警告 安全のために

→ 278～282ページも
あわせてお読みください。

誤った使いかたをしたときに生じる感電や傷害など人への危害、また火災などの財産への損害を未然に防止するため、次のことを必ずお守りください。



「安全のために」の注意事項を守る

定期的に点検する

1年に1度は、電源プラグ部とコンセントの間にほこりがたまっていないか、電源コードに傷がないか、故障したまま使用していないか、などを点検してください。

故障したら使わない

カメラやACアダプター、バッテリーチャージャーなどの動作がおかしくなったり、破損していることに気がついたら、すぐに相談窓口へご相談ください。

万一、異常が起きたら

変な音・
においがしたら
煙が出たら

- ➡ ① 電源を切る
② 電池をはずす
③ 相談窓口に連絡する

裏表紙に相談窓口の連絡先があります。

⚠ 危険 万一、電池の液漏れが起きたら

- ① すぐに火気から遠ざけてください。漏れた液や気体に引火して発火、破裂の恐れがあります。
- ② 液が目に入った場合は、こすらず、すぐに水道水などきれいな水で充分に洗ったあと、医師の治療を受けてください。
- ③ 液を口に入れたり、なめた場合は、すぐに水道水で口を洗浄し、医師に相談してください。
- ④ 液が身体や衣服についたときは、水でよく洗い流してください。

警告表示の意味

この取扱説明書や製品では、次のような表示をしています。

⚠ 危険

この表示のある事項を守らないと、極めて危険な状況が起こり、その結果大けがや死亡にいたる危害が発生します。

⚠ 警告

この表示のある事項を守らないと、思わぬ危険な状況が起こり、その結果大けがや死亡にいたる危害が発生することがあります。

⚠ 注意

この表示のある事項を守らないと、思わぬ危険な状況が起こり、けがや財産に損害を与えることがあります。

注意を促す記号



火災



感電

行為を禁止する記号



禁止



分解禁止



ぬれ手禁止

行為を指示する記号



スラグをコンセントから抜く



指示

電池について

安全のためにの文中の「電池」とは、「バッテリーパック」も含みます。



電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。本書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

目次

安全のために	2
機能別目次	12

はじめに

お使いになる前に必ずお読みください	14
付属品を確認する	19
各部のなまえ	20
本体前面	20
本体後面	21
本体上面/側面	23
本体底面	25
レンズ FE 28–70mm F3.5–5.6 OSS (ILCE-7M2Kに付属)	26
画面表示一覧	27
モニターの画面表示	27

機能一覧

ボタン/ダイヤルで選ぶ機能	31
クイックナビの使いかた	32
操作方法を確認する	34
コントロールホイールの使いかた	34
前ダイヤル/後ダイヤルの使いかた	35
Fn (ファンクション)ボタンで選ぶ	36
Fn (ファンクション)に登録できる機能	37

MENU (メニュー)ボタンで選ぶ設定	38
(撮影設定)	39
(カスタム設定)	44
(ワイヤレス)	49
(アプリケーション)	50
(再生)	51
(セットアップ)	52
カメラ内ガイドを見る	55

準備する

バッテリー (電池) を充電する	56
充電にかかる時間	58
パソコンに接続して充電する	58
バッテリーを取り出す	59
メモリーカード(別売)を入れる	60
使用できるメモリーカード	61
レンズを取り付ける	62
日付と時刻を設定する	65
日時やエリアを確認する/合わせ直す	66
手ブレを抑えてきれいに撮る	67
手ブレ警告表示について	67
手ブレ補正機能を使う	68
正しく構える	69
アイピースカップを取りはずす	70

基本撮影／再生

静止画を撮る	71
動画を撮る	73
再生する	74
静止画と動画を切り換える	75
削除する	76

撮影モードを変える

撮影モードを変える	77
モードダイヤルを回したときに希望のモードを選べるようにする	78
AUTO オートモード	78
SCN シーンセレクション	80
■ スイングパノラマ	83
P プログラムオート	87
A 絞り優先	88
S シャッタースピード優先	89
M マニュアル露出	91
M バルブ撮影	93
撮影モードごとの設定可能機能	95

画面の表示を変える

画面の表示を変える(DISP)	96
使用する画面表示を選ぶ	97
ヒストグラム	99
ライブビューの見えかたを変更する	100

ピントを合わせる

ピントを合わせる	101
オートフォーカス	101
フォーカスロック	103
フォーカスエリア	104
シャッターボタン以外でAFを行う(AFオン)	106
AF 補助光	107
AF微調整	107
■ プリAF	108
位相差AFエリア表示	108
コンティニュアスAFエリア表示	109
マニュアルフォーカス	110
ピントが合った部分を強調表示する (ピーチング)	110
ピント拡大	111

ダイレクトマニュアルフォーカス(DMF)	112
MFアシスト	112
AF/MFコントロール	113
フォーカスセット	114
瞳AF	115

明るさを調整する

露出補正	116
AEロック	119
測光モード	120

ドライブ機能を使う

/ ドライブモードを選ぶ	121
1枚撮影	122
連続撮影	122
セルフタイマー	123
セルフタイマー（連続）	124
連続プラケット/1枚プラケット	125
ホワイトバランスプラケット	127
DROプラケット	127

応用撮影

フラッシュ（別売）を使う	128
ワイヤレスフラッシュ	130
スローシンクロ	131
使用可能なフラッシュモード	132
調光補正	133
FELロック	134
ISO感度を設定する	136
マルチショットノイズリダクション	137
明るさ、コントラストを自動補正する	
(DRO/オートHDR)	138
Dレンジオプティマイザー	138
オートHDR	139

画像の仕上がりを設定する	141
ピクチャーエフェクト	141
クリエイティブスタイル	143
色合いを調整する(ホワイトバランス)	146
色温度・カラーフィルター	148
カスタムホワイトバランス	148
画像サイズを変える	150
画像サイズ	150
パノラマ：画像サイズ	151
画像の横縦比と画質を設定する	152
横縦比	152
画質	152
顔を検出する	154
個人顔登録	156
オートフレーミング	157
スマイルシャッター	159
ズームする	161
光学ズーム以外のズーム機能を使う	161
ズームリングの操作方向を設定する	163
画像ノイズを減らす	164
長秒時ノイズリダクション	164
高感度ノイズリダクション	164
リモコンを使って撮る	166
色空間を設定する	167

動画撮影の設定

動画撮影の設定	168
動画の記録フォーマットについて	169
動画の設定を変更して撮影する	169
記録方式	171
記録設定	172
同時ビデオ記録	173

録音レベル	174
音声レベル表示.....	174
音声出力をヘッドホンで確認する	175
音声出力タイミング	175
音声の記録について	176
あらかじめ設定した画質で撮る (ピクチャープロファイル)	176
タイムコードを設定する(TC/UB設定)	183

再生機能を使う

再生時の機能を使う	187
静止画と動画を切り換える(ビューモード)	187
拡大して見る.....	187
一覧表示で見る	188
回転	190
スライドショー	190
記録画像の回転表示.....	191
保護する(プロテクト)	192
プリント指定する.....	193
画像を選択する.....	193
日付を入れる.....	194
削除する	195
画像選択削除.....	195
まとめて画像を削除する	196
テレビやモニターにつなぐ	197
HDMI設定	199
ブラビア™リンク	201
4K静止画再生.....	202

カメラをカスタマイズする

本体の設定を変更する	203
レンズなしレリーズ	203
オートレビュー	203
グリップライン	203
マーカー設定	204
カスタムキー設定	205
電子先幕シャッター	207
モニター明るさ	208
ファインダー明るさ	208
表示画質	208
パワーセーブ開始時間	209
FINDER/MONITOR	209
APS-Cサイズ撮影	209
レンズ補正を設定する	210
レンズ補正(周辺光量)	210
レンズ補正(倍率色収差)	210
レンズ補正(歪曲収差)	210
メモリーカードへの記録方法を設定する	211
フォーマット	211
ファイル番号	211
フォルダー形式	212
記録フォルダー選択	212
フォルダー新規作成	213
管理ファイル修復	213
アップロード設定(Eye-Fi)	214
好みの設定を登録する	216
本機に設定を登録する	216
メモリーカードに設定を登録する	217
本機のバージョンを確認する	218

Wi-Fiを使う

Wi-Fi機能/NFCワンタッチ機能を使う	219
カメラを無線アクセスポイントに接続する	220

カメラに機能を追加する

アプリケーションをダウンロードして、起動する	221
パソコンの推奨環境(Windows/Mac)	221
アプリケーションをダウンロードする	222
ダウンロードサービスをはじめる	222
アプリケーションをダウンロードする	222
アプリケーションをアンインストールする	223
アプリケーションの並び順を変える	224
PlayMemories Camera Appsのアカウント	
情報を確認する	224
ダウンロードアプリケーションを起動する	225

パソコンで見る

ソフトウェアを使う	226
パソコンの推奨環境を確認する	226
Image Data Converterを使う	226
Image Data Converterをインストールする	227
Image Data Converterガイドを見る	228
PlayMemories Homeを使う	229
PlayMemories Homeをインストールする	230
Remote Camera Controlを使う	231
Remote Camera Controlをインストールする	231
本機とパソコンを接続する	232
USB接続方法を設定する	232
USB接続モードを設定する(USB LUN 設定)	233
パソコンと接続する	233
画像を取り込んで見る(Windows)	234
画像を取り込んで見る(Mac)	235
パソコンとの接続を切断する	236
動画のディスクを作成する	237
動画ディスクの作りかたを選ぶ	237
PlayMemories Homeで使えるディスクの種類 について	238
パソコン以外の機器で動画ディスクを作成する	239

困ったときは／本機について

困ったときは.....	240
警告表示	249
本体のお手入れ	251
イメージセンサーをクリーニングする	252
使用上のご注意	254
海外で使用するには.....	256
メモリーカードについて	257
バッテリーの充電について	259
マウントアダプターについて	261
縦位置グリップ(別売)について	263
ライセンスについて	264
保証書とアフターサービス	265
ヘルプガイドについて	266
撮影可能枚数/時間を確認する	267
バッテリーの使用時間と撮影/再生可能枚数	268
主な仕様	272
安全のために	278
索引.....	283

Wi-Fi機能/NFCワンタッチ機能の詳細については、別紙の「Wi-Fi機能/NFCワンタッチ機能をお使いのお客様へ」またはヘルプガイド(266ページ)をご覧ください。

本書では付属するレンズが異なる機種をまとめて記載しています。
レンズによって、機種名が変わります。

機種名	付属するレンズ
ILCE-7M2	なし
ILCE-7M2K	FE 28-70mm F3.5-5.6 OSS

機能別目次

ここでは、撮影でよく使う機能や、本機の特徴的な機能をピックアップして紹介します。

詳細は、()内のページをご覧ください。

よく使う撮影機能

露出補正(116)

露出を補正して、画像全体の明るさを補正します。

本機では、露出モード「M」でも、ISOがオートなら露出補正が可能です。

ISO感度(136) /マルチショットNR (137)

明るさに対する感度を設定します。

ISO50～25600の範囲で調整可能です。

マルチショットノイズリダクションにすると、最大ISO感度よりも感度を上げることができます。

ホワイトバランス(146)

色合いの調整を行います。

光源に適した色合いにしたり、色温度・カラーフィルターの組み合わせによる微調整も可能です。

ライブモード(121)

1枚撮影、連写、ブラケットなどの目的に合わせて撮影方法を変えることができます。

本機の特徴的な機能

DRO/オートHDR (138)

Dレンジオプティマイザーでは、被写体や背景の明暗の差を細かな領域に分けて分析し、最適な明るさと階調の画像にします。

オートHDRでは、露出の異なる3枚の画像を撮影し、画像を合成することにより階調豊かな画像にします。

クリエイティブスタイル(143)

画像の仕上がりを13種類の画像スタイルから選べます。

選んだスタイルをベースにして、露出補正などの変更も可能です。

マニュアル動画(169)

P、A、S、Mモードでは動画撮影中も露出を自由に調整できます。

ピクチャープロファイル(176)

撮影する画像の発色、階調などの設定を変更できます。

本機の操作方法/カスタマイズ

表示情報(96)

本機はファインダーに目を近づけるとファインダー表示になり、離すとモニター表示になります（お買い上げ時の設定）。コントロールホイールのDISPを押すことで、表示方法を変えることができます。

クイックナビ(32)

ファインダー撮影用画面のときにFnボタンを押すと、モニターが設定画面に移行します。前/後ダイヤル、コントロールホイールを使って直感的な操作が可能です。

カスタマイズ(205)

本機にはお好みの機能を割り当てるカスタムボタンがあります。また、AELボタンなどにも、お好みの機能を割り当てられます。

お使いになる前に必ずお読みください

表示言語について

本機では、日本語のみに対応しています。その他の言語には変更できません。

撮影方法について

本機はモニターを使用して撮影するモニターモードと、ファインダーを使用して撮影するファインダーモードの2通りの撮影方法が可能です。

本機搭載の機能について

- ・本機は1080 60i対応機です。
- ・本機は1080 60pの動画に対応しています。従来の標準的な記録モードがインターレースで記録するのと異なり、1080 60pではプログレッシブで記録します。これにより解像度が増え、滑らかでよりリアルな映像を撮影することができます。

管理ファイル作成について

管理ファイルが作成されていないメモリーカードを本機に挿入し電源を入れると、メモリーカードの一部の容量を使って自動的に管理ファイルを作成するため、次の操作まで時間がかかることがあります。管理ファイルエラーが発生したときは、PlayMemories Home™ですべての画像をパソコンに取り込んでから、本機でメモリーカードをフォーマットしてください。

撮影・再生に際してのご注意

- ・メモリーカードの動作を安定させるために、メモリーカードを本機ではじめてお使いになる場合には、まず、本機でフォーマットすることをおすすめします。

フォーマットすると、メモリーカードに記録されているすべてのデータは消去され、元に戻すことはできません。大切なデータはパソコンなどに保存しておいてください。

- ・長期間、画像の撮影・消去を繰り返しているとメモリーカード内のファイルが断片化(フラグメンテーション)して、動画記録が途中で停止してしまう場合があります。このような場合は、パソコンなどに画像を保存したあと、[フォーマット](211ページ)を行ってください。
- ・必ず事前にためし撮りをして、正常に記録されていることを確認してください。

メモリーカードのバックアップについて

アクセスランプ点灯中に電源を切ったり、バッテリーやメモリーカードを取り出したりすると、メモリーカードのデータが壊れることがあります。データ保護のため必ずバックアップをお取りください。

撮影内容の補償はできません

万一、カメラやメモリーカードなどの不具合により撮影や再生がされなかつた場合、画像などの記録内容の補償については、ご容赦ください。

APS-C用Eマウントレンズでの撮影について

本機は35mmフルサイズのCMOSを搭載していますが、APS-C用Eマウントレンズを使った撮影では、自動的にAPS-Cサイズで記録され、画像サイズが小さくなります（お買い上げ時の設定）。

モニターおよびファインダー、レンズ、イメージセンサーについてのご注意

- モニターやファインダーは、有効画素99.99%以上の非常に精密度の高い技術で作られていますが、黒い点が現れたり、白や赤、青、緑の点が消えないことがあります。これは故障ではありません。これらの点は記録されません。
- モニターを持って本機を持ち運ばないでください。
- 電動ズーム使用時に物や指を引き込まれないように注意してください。
- カメラを太陽など強い光源へ向けないでください。内部の部品が破損するおそれがあります。
- 取りはずしたレンズを通して、太陽や強い光を見ないでください。目に回復不可能なほどの障害をきたすおそれがあります。また故障の原因になります。
- 強力な電波を出すところや放射線のある場所で使わないでください。正しく撮影・再生ができないことがあります。

- 寒いところで使うと、画像が尾を引いて見えることがあります。故障ではありません。また、初めは画面が通常よりも少し暗くなります。本機内部の温度が上がってくると、通常の明るさになります。

- 撮影する前に確認する画像は、実際の撮影結果と異なることがあります。

レンズとアクセサリーについてのご注意

本機には、カメラの特性に適合するよう設計されたソニー製レンズ/アクセサリーのご使用をおすすめします。他社製品と組み合わせて使用した際の性能や、それによって生じた事故、故障につきましては保証いたしかねますので、あらかじめご了承ください。

マルチインターフェースキーについてのご注意

- フラッシュなどのアクセサリーを本機のマルチインターフェースキーに取り付け/取りはずしする場合は、電源を「OFF」にしてから行ってください。取り付けの際は、最後まで差し込んでからネジを締め、本機にしっかりと固定されていることを確認してください。
- シンクロ端子が高電圧な市販フラッシュや、極性が逆の市販フラッシュを使用すると故障の原因になりますので使わないでください。

ファインダーでの撮影について

高解像度、高コントラスト有機ELファインダーを搭載しています。視認性の良いファインダーを実現するため、様々な要素のバランスを重視した設計を行い、広い視野角と、長いアイポイントを実現しています。

- ファインダーの周辺部分の画像が少し歪んで見える場合がありますが、故障ではありません。構図の隅々まで確認して撮影したいときは、モニターも使用してください。
- ファインダーをのぞきながらパンしたり、視線を上下左右に動かすと、ファインダーの画像が歪んだり、色合いが変わって見える場合があります。これはレンズや表示デバイスの特性によるもので、故障ではありません。なるべくファインダーの中央付近を見るようにして撮影してください。
- ファインダーを使用中、目の疲労、疲れ、気分が悪くなる・乗り物酔いに似た症状が出ることがあります。ファインダーを使用するときは、定期的に休憩をとることをおすすめします。必要な休憩の長さや頻度は個人によって異なりますので、ご自身でご判断ください。不快な症状が出たときは、回復するまでファインダーの使用を控え、必要に応じて医師にご相談ください。

長時間撮影についてのご注意

- 本機やバッテリーの温度によっては、カメラを保護するために自動的に電源が切れたり、動画撮影ができなくなることがあります。電源が切れる前や撮影ができなくなった場合は、モニターにメッセージが表示されます。このような場合、本機やバッテリーの温度が充分下がるまで電源を切ったままお待ちください。充分に温度が下がらない状態で電源を入れると、再び電源が切れたり動画撮影ができないことがあります。
- 気温の高い場所では本機の温度上昇が早くなります。
- 本機の温度が上昇すると、画質が低下する場合があります。温度が下がるのを待って撮影されることをおすすめします。
- 本機の表面が熱くなる場合がありますが、故障ではありません。

XAVC S動画とAVCHD動画のパソコンへの取り込みについて

XAVC S動画とAVCHD動画をパソコンに取り込むときは、ソフトウェア PlayMemories Homeを下記からインストールして使用してください。

<http://www.sony.net/pm/>

他機での動画再生に際してのご注意

- 本機は、AVCHD方式の記録にMPEG-4 AVC/H.264のHigh Profileを採用しております。このため、本機でAVCHD方式で記録した動画は次の機器では再生できません。
 - High Profileに対応していない他のAVCHD規格対応機器
 - AVCHD規格非対応の機器
- また、本機は、MP4方式の記録にMPEG-4 AVC/H.264のMain Profileを採用しております。このため、本機でMP4方式で記録した動画はMPEG-4 AVC/H.264の対応機器以外では再生できません。
- ハイビジョン画質(HD)で記録したディスクはAVCHD規格対応機器でのみ、再生できます。
DVDプレーヤーやDVDレコーダーはAVCHD規格に非対応のため、ハイビジョン画質(HD)で記録したディスクを再生できません。また、これらの機器にAVCHD規格で記録したハイビジョン画質(HD)のディスクを入れた場合、ディスクの取り出しができなくなる可能性があります。
- 1080 60pの動画は、対応機器以外では再生できません。
- XAVC Sの動画は、対応機器以外では再生できません。

著作権について

あなたがカメラで撮影したものは、個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示物などの中には、個人として楽しむなどの目的があっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

本書中の画像について

画像の例として本書に掲載している写真はイメージです。本機を使って撮影したものではありません。

本書中のデータについて

性能、仕様に関するデータは特に記載のある場合を除き、すべて常温(25°C)下でのものです。バッテリーについては、充電ランプ消灯まで充電した状態のバッテリーを使用したときのものです。

無線に関連する機能(Wi-Fiなど)を一時的に無効にする

無線に関する機能は、[飛行機モード]で一時的に無効にできます。

認証マークの表示について

本機が対応している認証マークの一部は、本機の画面上で確認することができます。

MENUボタン →  (セットアップ) → [認証マーク表示]を選択してください。

本機の故障などの問題により表示できない場合は、相談窓口にご相談下さい。

機器認定について

本製品は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線局の無線設備として、工事設計認証を受けています。したがって、本製品を使用するときに無線局の免許は必要ありません。ただし、以下の事項を行うと法律に罰せられることがあります。

- ・本製品を分解/改造すること

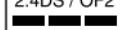
周波数について

本製品は2.4GHz帯で使用できますが、他の無線機器も同じ周波数を使っていきます。他の無線機器との電波干渉を防止するため、下記事項に注意してご使用ください。

この機器のネットワークモードでの使用時の注意事項

本製品の使用周波数は2.4GHz帯です。この周波数帯では電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定の小電力無線局、アマチュア無線局(免許を要する無線局)等(以下「他の無線局」と略す)が運用されています。

- 1.本製品を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
- 2.万一、本製品と「他の無線局」に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用場所を変えるか、電波の発射を停止してください。
- 3.その他、この機器から「他の無線局」に対して有害な電波干渉の実例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、相談窓口へお問い合わせください。相談窓口については、本取扱説明書の裏表紙をご覧ください。

2.4DS / OF2


この無線機器は2.4GHz帯を使用します。変調方式としてDSSS/OFDM変調方式を採用し、与干渉距離は20m以下です。

ワイヤレスLANに関するご注意

紛失や盗難などによって本機に搭載されている接続先への不正アクセスや利用などが行われ、被害や損害が発生しても、弊社では一切の責任を負いかねます。

ワイヤレスLAN 製品ご使用時におけるセキュリティについて

- ハッキングや悪意ある第三者からのアクセス、その他の脆弱性を回避するため、常にセキュアなワイヤレスLANを使用していることを確認してください。
- ワイヤレスLANではセキュリティの設定をすることが非常に重要です。
- セキュリティ対策を施さず、あるいはワイヤレスLANの使用上やむを得ない事情により、セキュリティの問題が発生してしまった場合、弊社ではこれによって生じたあらゆる損害に対する責任を負いかねます。

ワイヤレスLAN機能の使用地域について

本機のWi-Fi機能は日本での利用を前提としています。海外での使用はその国、または地域の電波関連規制等に違反する恐れがあり、当社では一切の責任を負いかねます。

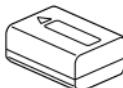
付属品を確認する

万一、不足の場合はお買い上げ店にご相談ください。

()内の数字は個数です。

全機種共通

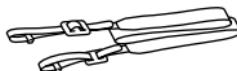
- カメラ(1)
- ACアダプター AC-UD10/
AC-UUD11 (1)
ACアダプターの形状は、国/地域
により異なります。
- リチャージャブルバッテリー
パックNP-FW50 (1)



- マイクロUSBケーブル(1)



- ショルダーストラップ(1)



取り付けかたは24ページをご覧
ください。

- ボディーキャップ(1)(本機に装
着)



- シューキャップ(1)(本機に装
着)
- アイピースカップ(1)(本機に
装着)
- 取扱説明書(1)(本書)
- 保証書(1)
- Wi-Fi機能/NFCワンタッチ機
能をお使いのお客様へ(1)

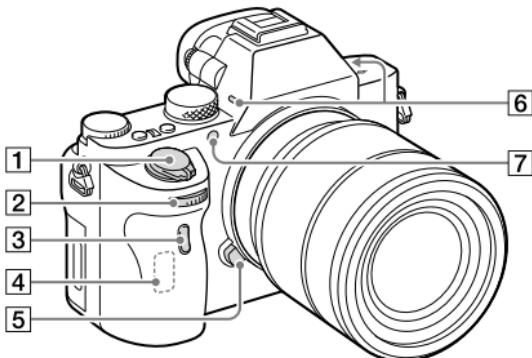
ILCE-7M2K

- FE 28-70mm ズームレンズ
(1)(レンズフロントキャップ、
レンズリリヤキャップ含む) /
レンズフード(1)

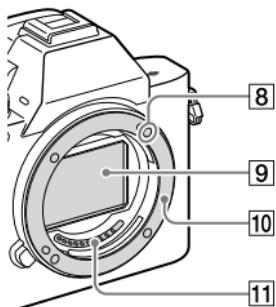
各部のなまえ

()の数字は、参照ページです。

本体前面



レンズをはずしたとき



- ① 電源スイッチ (65) / シャッターボタン (71)
- ② 前ダイヤル (35)
- ③ リモコン受光部
- ④ Wi-Fi受信部(内蔵)

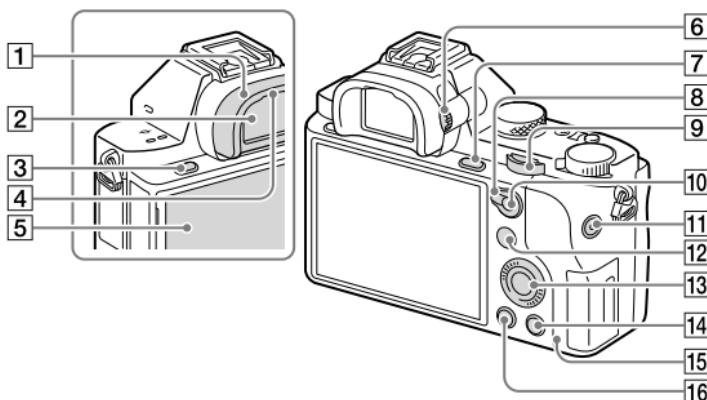
- ⑤ レンズ取りはずしボタン (63)
- ⑥ 内蔵マイク*
- ⑦ AF補助光発光部 (107) / セルフタイマーランプ(123)

- ⑧ マウント標点 (62)
- ⑨ イメージセンサー **
- ⑩ マウント
- ⑪ レンズ信号接点**

* 動画撮影時は手でふさがないようにしてください。ノイズや音量低下の原因になります。

**直接手で触れないでください。

本体後面



① アイピースカップ (70)

② ファインダー

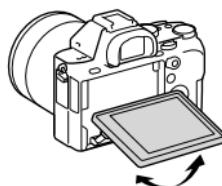
メニュー

③ MENUボタン (38)

④ アイセンサー

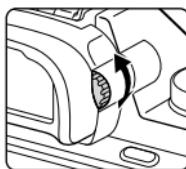
⑤ モニター (27、96)

- モニターを見やすい角度に調整して、自由なポジションで撮影できます。



⑥ 視度調整ダイヤル

- ファインダー内の画像表示がはっきり見えるように、ご自身の視度に合わせてダイヤルを回します。



**⑦ 撮影時 : C3 (カスタム3)ボタン (31)
再生時 : \oplus (拡大)ボタン (187)**

⑧ AF/MF/AEL切換レバー

⑨ 後ダイヤル

⑩ 撮影時：AF/MFボタン/AEL
ボタン (113、119)
再生時： (一覧表示) ボタ
ン (188)

ムービー

⑪ MOVIE (動画) ボタン (73)

ファンクション

⑫ 撮影時：Fnボタン (36、37)

再生時： (スマートフォン
転送) ボタン

- このボタンを押すとスマート
フォン転送画面になります。

⑬ コントロールホイール

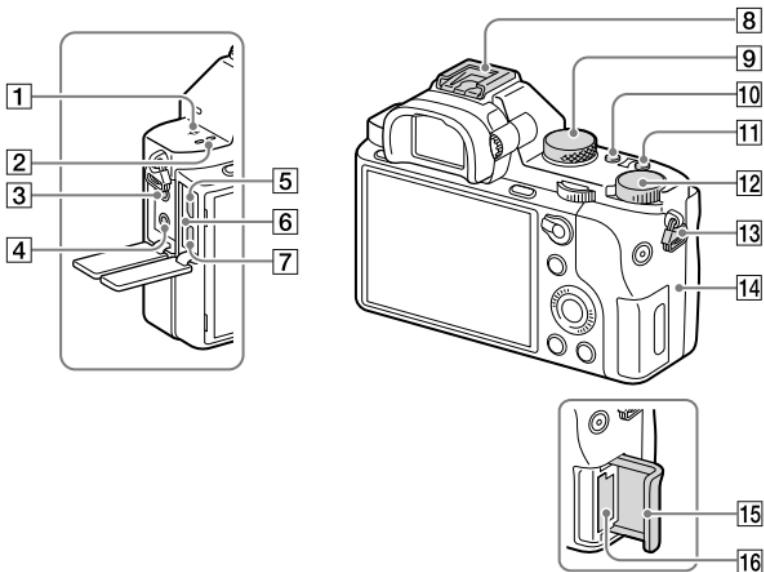
⑭ 撮影時：C4 (カスタム4) ボ
タン (31)

再生時： (削除) ボタン (76)

⑮ アクセスランプ

⑯ ▶(再生) ボタン (74)

本体上面/側面



① イメージセンサー位置表示 (103)

② スピーカー

③ (マイク)端子 (176)

- 外部マイクを接続すると自動的に外部マイクに切り替わります。プラグインパワー対応の外部マイクを使うと、マイクの電源は本機から供給されます。

④ (ヘッドホン)端子 (175)

⑤ マルチ/マイクロUSB端子* (233)

- この端子にはマイクロUSB規格に対応した機器をつなぐことができます。

⑥ 充電ランプ

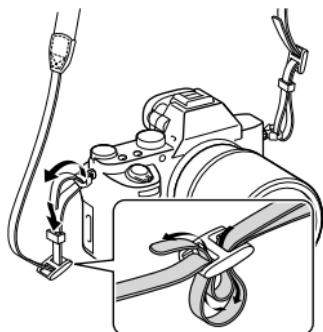
⑦ HDMIマイクロ端子 (197)

⑧ マルチインターフェース
シュー* (128)

- 一部のアクセサリーでは接続時にマルチインターフェースシュー後方からはみ出る場合がありますが、先端まで入っていれば取り付けでています。

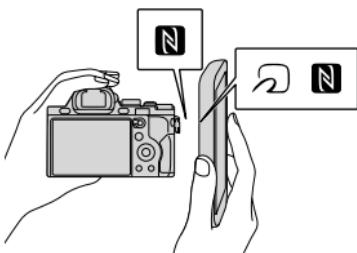
- ⑨ モードダイヤル (77)
- ⑩ C2 (カスタム2)ボタン (31)
- ⑪ C1 (カスタム1)ボタン (31)
- ⑫ 露出補正ダイヤル (116)
- ⑬ ショルダーストラップ取り付け部

- ストラップの両方の先端をそれぞれ取り付けます。



⑭ N (Nマーク) (219)

- NFC機能搭載のスマートフォンと本機を接続するときにタッチします。
一部のおサイフケータイ対応のスマートフォンはNFCに対応しています。詳しくはスマートフォンの取扱説明書をご確認ください。



• NFC (Near Field Communication)は近距離無線通信技術の国際標準規格です。

⑮ メモリーカードカバー (60)

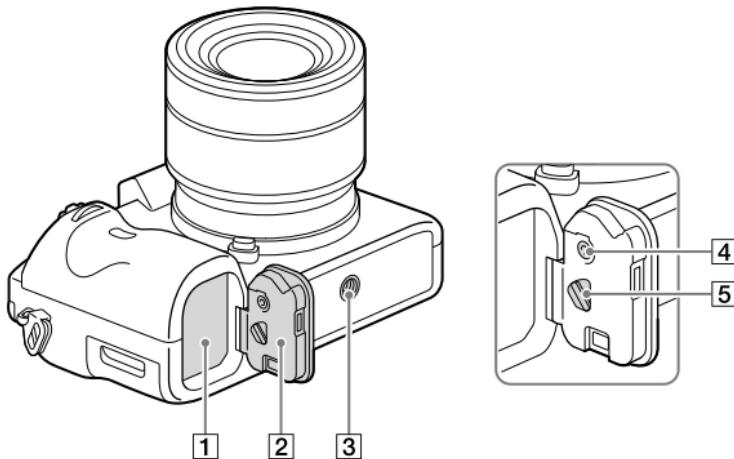
⑯ メモリーカード挿入口

* マルチインターフェースシュー、マルチ/マイクロUSB端子対応アクセサリーについて詳しくは、専用サポートサイトでご確認ください。
<http://www.sony.jp/support/ichigan/>
アクセサリーシュー対応のアクセサリーも使用できます。他社のアクセサリーを取り付けた場合の動作は保証できません。

ni Multi Interface Shoe

Accessory Shoe

本体底面



① バッテリー挿入口 (56)

② バッテリーカバー (56)

③ 三脚ネジ穴

- 三脚を取り付けるときは、ネジの長さが5.5mm未満の三脚を使います。

ネジの長さが5.5mm以上の場合、本機を三脚にしっかりと固定できず、本機を傷つけることがあります。

④ バッテリーカバー取り付けボタン (263)

⑤ バッテリーカバー取りはずしレバー (263)

接続プレートカバー

ACアダプター AC-PW20 (別売)を使うときに使います。バッテリー挿入口に接続プレートを入れ、図のように接続プレートカバーからコードを出します。



- カバーを閉じるときは、コードを挟まないように気をつけてください。

レンズ FE 28-70mm
F3.5-5.6 OSS
(ILCE-7M2Kに付属)



① フォーカスリング

② ズームリング

③ 焦点距離目盛

④ 焦点距離指標

⑤ レンズ信号接点*

⑥ マウント標点

*直接手で触れないでください。

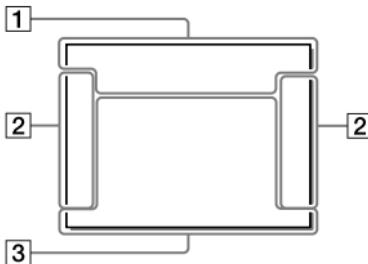
画面表示一覧

モニターの画面表示

お買い上げ時は[全情報表示]になっています。

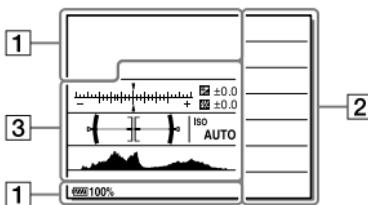
コントロールホイールのDISPを押すと、ファインダーを見ながら撮影するときのモニター表示になったり、ヒストグラムを表示できます(96ページ)。表示内容や表示位置は目安であり、実際とは異なる場合があります。

モニター撮影用

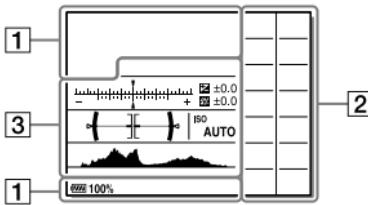


ファインダー撮影用

オートモード/シーンセレクション時



P/A/S/M/スイングパノラマ時

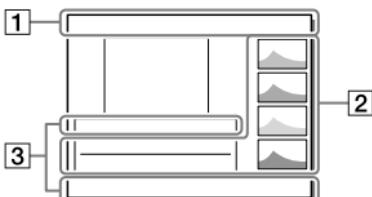


再生時

基本情報画面



ヒストグラム画面



1

表示	意味
	撮影モード(77)
1 [] 2 [] M 1 [] M 2 [] M 3 [] M 4 []	登録番号(216)
	シーン認識マーク(79)
	メモリーカード(60, 257) /アップロード(214)
100	撮影可能枚数
3:2 16:9	静止画の画像横縦比(152)
24M 20M 10M 8.7M 6.0M 5.1M 2.6M 2.2M 	静止画の画像サイズ(150)
RAW RAW+J X.FINE FINE STD	静止画の画質(152)
60p 60i 30p 24p	動画のフレームレート(172)
50	動画の記録設定(172)

表示	意味
100%	バッテリー容量(59)
	バッテリー残量警告(59)
	フラッシュ充電表示(128)
	APS-Cサイズ撮影(209)
	設定効果反映Off(100)
	AF補助光(107)
	NFC有効(219)
	飛行機モード(50)
	動画音声記録オフ(176)
	風音低減オン(176)
	手ブレ補正/手ブレ警告(68)
8mm 8mm	手ブレ補正焦点距離/手ブレ警告(68)
	温度上昇警告
	管理ファイルフル警告(250) /管理ファイルエラー警告(250)
	スマートズーム/全画素超解像ズーム/デジタルズーム(161)
	水準器(98)
CH1 CH2	音声レベル(174)

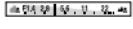
表示	意味
	ビューモード(187)
100-0003	フォルダー番号 – ファイル番号(211)
	プロジェクト(192)
XAVCS AVCHD MP4	動画の記録方式(171)
DPOF	DPOF(プリント)指定(193)
	オートフレーミング(157)
	同時ビデオ記録(173)
-PC-	PCリモート(232)

2

表示	意味
	ドライブモード(121)
10 C3 BRK C BRK S 0.3EV 0.3EV BRK WB BRK DORO Hi Lo	
AUTO SLOW REAR WL	フラッシュモード(128) /赤目軽減(129)
±0.0	調光補正(133)
AF-S AF-C MF DMF	フォーカスモード(101)
	フォーカスエリア(104)

表示	意味
OFF ON ON ON ON	顔検出(154) /スマイルシャッター(159)
	測光モード(120)
35mm	レンズ焦点距離
AWB 0 +1 +2 AWB 7500K A5 G5	ホワイトバランス(オート、プリセット、水中オート、カスタム、色温度、カラーフィルター)(146)
OFF AUTO HDR OFF AUTO HDR	Dレンジオプティマイザー(138) /オートHDR(139)
 Std. ↑ Vivid ↑ Ntr. ↑ Clear ↑ Deep ↑ Light ↑ Port. ↑ Land. ↑ Sunset ↑ Night ↑ Autm. ↑ [B/W] ↑ Sepia ↑ +3 +3 +3	クリエイティブスタイル(143) /コントラスト、彩度、シャープネス
 Toy Pop Pos Pos Rtro Style key Part. Part Part Part. HC BW Soft Mid Proto. Mid High EV Wtrc Plus Mid Min Auto OFF	ピクチャーエフェクト(141)
	スマイル検出感度インジケーター(159)
PP1 ~ PP7 PP OFF	ピクチャープロファイル(176)

3

表示	意味
●ロック オンAF	ロックオンAF用ガイド表示(104)
測光インジケーター (92、126)	
 MM	露出補正(116) / メータードマニュアル(92)
REC 0:12	動画の記録時間(分:秒)
●(○)(○)	フォーカス(71、102)
1/250	シャッタースピード(89)
F3.5	絞り値(88)
ISO400 ISO AUTO	ISO感度(136)
* 	AEロック(119) / FELロック(134)
 1/125 1/250 1/5000 s.	シャッタースピードインジケーター(98)
 f/4.0 1/250 sec.	絞りインジケーター(98)
	ヒストグラム(99)
D-R OFF DRO [HDR] HDR !	Dレンジオプティマイザー(138) / オートHDR/オートHDR画像警告(139)

表示	意味
 	ピクチャーエフェクトエラー(142)
2014-1-1 10:37PM	撮影日時
3/7	画像番号/ビューモード内画像枚数
 REC  STBY	レックコントロール(200)
○	スポット測光サークル(120)
00:00:00:00	タイムコード(時:分:秒:フレーム)(183)

ボタン/ダイヤルで選ぶ機能

下記のボタンを使って、それぞれの機能を設定、または操作できます。各ボタンの配置は「各部のなまえ」をご覧ください(20ページ)。

モードダイヤル(77)	撮影モードを切り換える。
MENUボタン(38)	メニュー画面を表示する。
MOVIEボタン(73)	動画を撮影する。
AF/MFボタン(113) / AELボタン(119) / ボタン(188)	オートフォーカスとマニュアルフォーカスを一時的に切り換える/画面全体の露出を固定する/画像を一覧表示する。
再生時に拡大する。④ボタン(187)	再生時に画像を拡大する。
Fnボタン(32、36、37) / ボタン	Fnボタンを使って設定する機能の設定画面を表示する。[ファインダー撮影用]画面では、クリックナビ画面に入る/再生時に、ボタンを押すことでスマートフォン転送画面に入る。
露出補正ダイヤル(116)	露出補正值を選ぶ。
ボタン(74)	画像を再生する。
ボタン(76)	画像を削除する。
カスタムボタン(205)	よく使う機能のボタンにする。お買い上げ時は下記のボタンが割り当てられている。 C1ボタン：ホワイトバランス C2ボタン：フォーカスセット C3ボタン：フォーカスモード C4ボタン：未設定

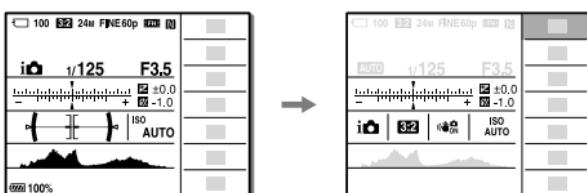
クイックナビの使いかた

ファインダー撮影用画面のとき、変更したい項目をダイレクトに操作できます(クイックナビ)。表示内容や表示位置は目安であり、実際とは異なる場合があります。

1 MENUボタン →  (カスタム設定) → [DISPボタン] → [背面モニター]で[ファインダー撮影用]を選び、[実行]を選び。

2 コントロールホイールのDISPを押して、
[ファインダー撮影用]画面にする(96ページ)。

3 Fnボタンを押してクイックナビ画面にする。
オートモード/シーンセレクション時



P/A/S/M/スイングパノラマ時



4 コントロールホイールの▲/▼/◀/▶を押して、設定する機能を選ぶ。

5 前ダイヤルを回して希望の設定にする。

- 一部の機能は、後ダイヤルを回して微調整値の設定もできます。
- 項目を選んでいるときにコントロールホイール中央の●を押すと、その項目設定用の専用画面になります(36ページ)。
- もう一度Fnボタンを押すと、クイックナビ画面から元の画面に戻ります。

クイックナビで選択可能な機能

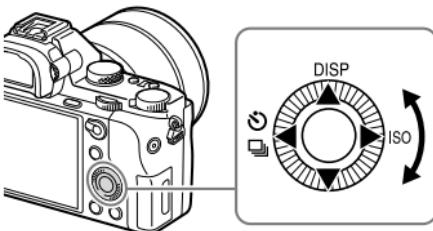
ライブモード	フラッシュモード	調光補正
フォーカスモード	フォーカスエリア	露出補正
ISO感度	測光モード	ホワイトバランス
DRO/オートHDR	クリエイティブスタイル	ピクチャーエフェクト
ピクチャープロファイル	顔検出/スマイルシャッター	画像サイズ
横縦比	画質	手ブレ補正
オートモード	シーンセレクション	ピーリングレベル

ご注意

- クイックナビ画面でグレーになっている項目は、変更できません。
- [クリエイティブスタイル](143ページ)や[ピクチャープロファイル](176ページ)では、専用画面に入らないと操作できない設定もあります。

操作方法を確認する

コントロールホイールの使いかた

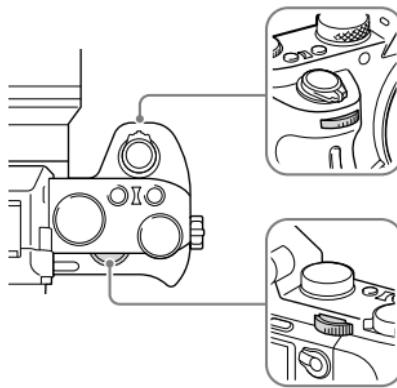


- コントロールホイールを回したり上下左右を押したりすると、選択枠を動かすことができます。選んだ項目は中央の●を押すと決定されます。本書ではコントロールホイールの上下左右を押す動作を▲/▼/◀/▶で表現しています。
- コントロールホイールの▲/◀/▶には下記の機能が割り当てられています。

▲	DISP	画面表示切換(DISP)(96ページ)
▶	ISO	ISO感度(136ページ)
◀	⌚/⌚	ドライブモード(121ページ) • 連続撮影/プラケット • セルフタイマー

- 撮影時の▼/◀/▶/●ボタンと回転操作にはお好みの機能を割り当てられます(205ページ)。
- 再生時に、コントロールホイールを回したり、◀/▶を押したりすると、前/次の画像を表示できます。

前ダイヤル/後ダイヤルの使いかた



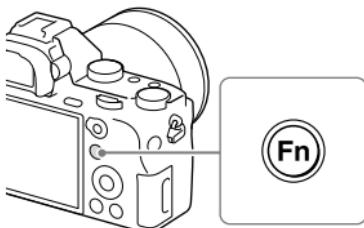
前ダイヤル/後ダイヤルを回して、撮影モードごとに必要な設定を即座に変更できます。

Fn (ファンクション)ボタンで選ぶ

クイックナビ画面以外のとき、撮影時に比較的使用頻度が高い設定、機能を実行します。

1 コントロールホイールのDISPを押して、
[ファインダー撮影用]画面以外にする(96ページ)。

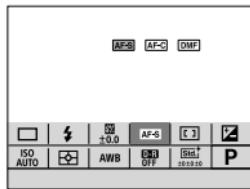
2 Fnボタンを押す。



3 コントロールホイールの▲/▼/◀/▶で設定したい項目を選ぶ。
• 登録できる機能の一覧と、登録方法は37ページをご確認ください。

4 前ダイヤルを回して希望の設定
を選び、コントロールホイール中
央の●を押す。

- 一部の機能は、後ダイヤルを回して設
定値の微調整もできます。



専用画面で設定するには

手順3で、設定した項目を選んで中央
の●を押すと、その項目の専用設定画
面になります。操作ガイドに従って設
定してください。



Fn (ファンクション)に登録できる機能

Fn (ファンクション)ボタンを押したときに表示される機能を選べます。

MENUボタン → (カスタム設定) → [ファンクションメニュー設定] → 希望の場所に機能を設定する。

Fnボタンで設定できる機能は以下の通りです。

ドライブモード	フラッシュモード	調光補正
フォーカスマード	フォーカスエリア	露出補正
ISO感度	測光モード	ホワイトバランス
DRO/オートHDR	クリエイティブスタイル	撮影モード
ピクチャーエフェクト	ピクチャープロファイル	中央ボタン押しロックオンAF
顔検出/スマイルシャッター	美肌効果	オートフレーミング
画像サイズ	横縦比	画質
手ブレ補正	手ブレ補正調整	手ブレ補正焦点距離
録音レベル	ゼブラ	グリッドライン
マーカー表示	音声レベル表示	ピーキングレベル
ピーキング色	未設定	

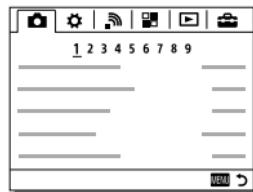
MENU（メニュー）ボタンで選ぶ設定

撮影、再生、操作方法などカメラ全体に関する基本設定を変更したり、機能の実行を行えます。

1 MENUボタンを押して、メニュー画面を表示する。

2 コントロールホイールを回したり、▲/▼/◀/▶を押したりして設定したい項目を選び、中央の●を押す。

- 画面上部のアイコンを選んで、◀/▶を押すと他のメニューへ移動できます。



3 設定値を選択して、中央の●を押して決定する。

タイルメニューを表示するには

MENUボタンを押したときに、タイルメニューを表示するかを設定します。

MENUボタン → (セットアップ) → [タイルメニュー] → [入] を選ぶ。

(撮影設定)

画像サイズ(150)	静止画のサイズを選択する。 (L: 24M/M: 10M/S: 6.0M (3:2のとき) L: 20M/M: 8.7M/S: 5.1M (16:9のとき) L: 10M/M: 6.0M/S: 2.6M (APS-Cサイズ、 3:2のとき) L: 8.7M/M: 5.1M/S: 2.2M (APS-Cサイズ、 16:9のとき))
横縦比(152)	静止画の横縦比を選択する。 (3:2/16:9)
画質(152)	静止画の画質を設定する。 (RAW/Raw+JPEG/エクストラファイン/ ファイン/スタンダード)
パノラマ：画像サイズ (151)	パノラマ画像のサイズを選択する。 (標準/ワイド)
パノラマ：撮影方向 (86)	パノラマの撮影方向を設定する。 (右/左/上/下)
記録方式(171)	動画を記録するときの記録方式を設定す る。 (XAVC S/AVCHD/MP4)
記録設定(172)	動画のサイズを選択する。 (60p 50M/30p 50M/24p 50M (XAVC S のとき) 60i 24M(FX)/60i 17M(FH)/ 60p 28M(PS)/24p 24M(FX)/ 24p 17M(FH) (AVCHDのとき) 1440×1080 12M/VGA 3M (MP4のと き))

同時ビデオ記録(173)	XAVC S動画またはAVCHD動画と、MP4動画を同時に記録するかを設定する。 (入/切)
ドライブモード(121)	連続撮影などの撮影方法を設定する。 (1枚撮影/連続撮影/セルフタイマー / セルフタイマー(連続) / 連続ブラケット/1枚ブラケット/ ホワイトバランスブラケット/ DROブラケット)
フラッシュモード (128)	フラッシュの発光方式を設定する。 (発光禁止/自動発光/強制発光/ スローシンクロ/後幕シンクロ/ ワイアレス)
調光補正(133)	フラッシュの発光量を調整する。 (-3.0EV ~ +3.0EV)
赤目軽減発光(129)	フラッシュ撮影時、目が赤くなるのを軽減する。 (入/切)
フォーカスマード (101)	ピント合わせの方法を選ぶ。 (シングルAF/コンティニュアスAF/ DMF/マニュアルフォーカス)
フォーカスエリア (104)	ピント合わせの位置を選ぶ。 (ワイド/ゾーン/中央/ フレキシブルスポット/ロックオンAF)
フォーカスセット (114)	前ダイヤル、後ダイヤル、コントロールホイールを使ってピント合わせを行う。
AF補助光(107)	暗所でピントを合わせるための補助光を発光する。 (オート/切)

露出補正(116)	画像全体の明るさを補正する。 (-5.0EV ~ +5.0EV)
露出値ステップ幅	シャッタースピード、絞り値、露出補正值の設定幅を設定する。 (0.5段/0.3段)
ISO感度(136)	ISO感度を設定する。 (マルチショットNR/ISO AUTO/ISO 50 ~ ISO 25600)
測光モード(120)	明るさを測る方法を選ぶ。 (マルチ/中央重点/スポット)
ホワイトバランス (146)	撮影場所の光の状況に合わせて画像の色合いを調整する。 (オート/太陽光/日陰/曇天/電球/ 蛍光灯：温白色/蛍光灯：白色/ 蛍光灯：昼白色/ 蛍光灯：昼光色/ フラッシュ /水中オート/ 色温度・カラーフィルター / カスタム1 ~ 3/カスタムセット)
DRO/オートHDR (138)	明るさ、コントラストを自動補正する。 (切/Dレンジオプティマイザー / オートHDR)
クリエイティブスタイル (143)	お好みの画像の仕上がりを選ぶ。 コントラスト、彩度、シャープネスの調整もできる。 (スタンダード/ビビッド/ニュートラル/ クリア/ディープ/ライト/ポートレート/ 風景/夕景/夜景/紅葉/白黒/セピア/ スタイルボックス1 ~ 6)

ピクチャーエフェクト (141)	好みの効果を使って、より印象的でアーティスティックな表現の画像を撮影できる。 (切/トイカメラ/ポップカラー/ポスタリゼーション/レトロフォト/ソフトハイキー/パートカラー/ハイコントラストモノクロ/ソフトフォーカス/絵画調HDR/リッチトーンモノクロ/ミニチュア/水彩画調/イラスト調)
ピクチャープロファイル (176)	撮影する画像の発色、階調などの設定を変更できる。 (切/PP1～PP7)
ズーム(161)	光学ズーム以外のズームの倍率を設定する。
ピント拡大(111)	撮影前の画像を拡大してピントの確認ができる。
長秒時NR (164)	シャッタースピードを1秒以上にした場合のノイズ軽減処理を設定する。 (入/切)
高感度NR (164)	高感度撮影した場合のノイズ軽減処理を設定する。 (標準/弱/切)
中央ボタン押しロックオンAF (105)	撮影画面で中央ボタンを押したとき、被写体を追尾してピントを合わせ続ける機能を設定する。 (切/入)
顔検出/スマイルシャッター (154)	人物の顔を自動でとらえ、ピントや露出を最適にする。笑顔を検出すると自動で撮影する。 (切/入(登録顔優先)/入/スマイルシャッター)

■美肌効果(155)	顔検出時、被写体の美肌効果を設定する。 (入(高、中、低) /切)
■オートフレーミング(157)	人物の顔やマクロ撮影する被写体、またはロックオンAFでとらえた被写体を検出して、撮影するときにシーンを分析して、印象の異なる構図で画像を保存する。 (切/オート)
オートモード(78)	オート撮影の方法を選ぶ。 (おまかせオート/プレミアムおまかせオート)
シーンセレクション(80)	撮影状況に合わせて、あらかじめ用意された設定で撮影する。 (ポートレート/スポーツ/マクロ/風景/ 夕景/夜景/手持ち夜景/ 夜景ポートレート/人物ブレ軽減)
動画(73、168)	撮りたい被写体や効果に合わせて、露出モードを選んで撮影する。 (プログラムオート/絞り優先/ シャッタースピード優先/マニュアル露出)
手ブレ補正(68)	撮影時の手ブレ補正を設定する。 (入/切)
手ブレ補正設定(68)	手ブレ補正の設定をする。 (手ブレ補正調整/手ブレ補正焦点距離)
■色空間(167)	再現できる色の範囲を変更する。 (sRGB/AdobeRGB)
■オートストローキャッター(170)	動画撮影時、被写体が暗いときに自動でシャッタースピードを遅くするかどうかを設定する。 (入/切)
音声記録(176)	動画撮影時、音声記録を行うかどうかを設定する。 (入/切)

録音レベル(174)	録音レベルを調整する。 (0 ~ 31)
音声出力タイミング (175)	動画撮影時の音声出力のタイミングを設定する。 (ライブ/リップシンク)
風音低減(176)	動画撮影時、風音を低減する。 (入/切)
登録呼び出し(217)	[登録] であらかじめ登録した設定を呼び出す。 (1/2/M1 ~ M4)
登録(216)	好みのモード、カメラの設定を登録する。 (1/2/M1 ~ M4)

✿ (カスタム設定)

セブラ(118)	明るさ調整の目安になる縞表示を設定する。 (切/70 ~ 100/100+)
MFアシスト(112)	手動ピント合わせ時に画像を拡大表示する。 (入/切)
ピント拡大時間	拡大表示する時間を設定する。 (2秒/5秒/無制限)
グリッドライン(203)	構図を合わせるための線を表示する。 (3分割/方眼/対角+方眼/切)
マーク表示(204)	動画撮影時に、モニターにマークを表示するかを設定する。 (入/切)

マーカー設定(204)	動画撮影時に表示されるマーカーを設定する。 (センター/アスペクト/セーフティゾーン/ガイドフレーム)
音声レベル表示(174)	音声レベルを画面に表示するかどうかを選択。(入/切)
オートレビュー (203)	撮影したあと、撮った画像を表示するオートレビューの設定をする。 (10秒/5秒/2秒/切)
DISPボタン(97)	コントロールホイールのDISPを押してモニターやファインダーに表示する情報の種別を設定する。 (背面モニター / ファインダー)
ピーキングレベル(110)	マニュアルフォーカス撮影のときに、ピントが合った部分の輪郭を指定された色で強調表示する設定をする。 (高/中/低/切)
ピーキング色(111)	輪郭を強調表示するピーキング表示の色を設定する。 (レッド/イエロー / ホワイト)
露出設定ガイド	撮影画面で露出設定を変更したときに表示するガイドの設定をする。 (切/入)
ライブビュー表示(100)	モニターの表示に、露出補正などの設定値を反映するかどうかを設定する。 (設定効果反映On/設定効果反映Off)
コンティニュアスAFエリア表示(109)	コンティニュアスAF時にフォーカスエリアを表示するかどうかを設定する。 (入/切)

位相差AFエリア表示 (108)	位相差AFのエリア表示を設定します。 (入/切)
図プリAF (108)	シャッターボタンを半押しする前から、自動でオートフォーカスするかしないかを設定する。 (入/切)
ズーム設定(161)	全画素超解像ズーム、デジタルズームを使用するかどうか設定する。 (光学ズームのみ/入：全画素超解像ズーム/ 入：デジタルズーム)
図アイスタートAF	マウントアダプター LA-EA2、LA-EA4（別売）を装着時、電子ビューファインダーをのぞくとオートフォーカスするかどうかを設定する。 (入/切)
FINDER/MONITOR (209)	電子ビューファインダーとモニターの表示切り替え方法を設定する。 (オート/ファインダー /モニター)
レンズなしレリーズ (203)	レンズが装着されていない状態でシャッターが切れるかどうかを設定する。 (許可/禁止)
図シャッター半押しAF	シャッターボタンを半押ししたときに、オートフォーカスによるピント合わせを行うかどうかを設定する。ピント合わせと露出決定を別々に行いたいときに有効。 (入/切)
図シャッター半押しAEL	シャッターボタンを半押ししたときに、露出決定を行うかどうかを設定する。ピント合わせと露出決定を別々に行いたいときに有効。 (オート/入/切)

電子先幕シャッター(207)	電子先幕シャッター機能を使用するかどうかを設定する。 (入/切)
プレミアムオート画像抽出(79)	[プレミアムおまかせオート]時に複数枚撮影した画像をすべて保存するかどうかを設定する。 (オート/切)
露出補正の影響(117)	露出補正值をフラッシュの調光に反映するかどうかを設定する。 (定常光+フラッシュ / 定常光のみ)
露出補正值のリセット(118)	露出ダイヤルが0の状態で電源を切ったとき、現在値を保存するかどうかを設定する。 (保持/リセット)
プラケット順序	露出プラケット、ホワイトバランスプラケットの撮影順序を設定する。 (0 → - → +/ - → 0 → +)
個人顔登録(156)	優先してピントを合わせる人物の登録・編集を行う。 (新規登録/優先順序変更/削除/全て削除)
APS-Cサイズ撮影(209)	APS-Cサイズ相当の範囲を記録するかどうかを設定する。 (入/オート/切)
AF微調整(107)	マウントアダプター LA-EA2、LA-EA4（別売）を装着時、オートフォーカスでのピント位置を微調整する。 (AF微調整設定/調整値/調整値クリア)
レンズ補正(210)	レンズ補正の種類を選ぶ。 (周辺光量補正/倍率色収差補正/歪曲収差補正)

ファンクションメニュー設定 (37)	<p>Fn (ファンクション)ボタンで表示する機能をカスタマイズする。</p> <p>(ドライブモード/フラッシュモード/調光補正/フォーカスモード/フォーカスエリア/露出補正/ISO感度/測光モード/ホワイトバランス/DRO/オートHDR/クリエイティブスタイル/撮影モード/ピクチャーエフェクト/ピクチャープロファイル/中央ボタン押しロックオンAF/顔検出/スマイルシャッター/美肌効果/オートフレーミング/画像サイズ/横縦比/画質/手ブレ補正/手ブレ補正調整/手ブレ補正焦点距離/録音レベル/ゼebra/グリッドライン/マーカー表示/音声レベル表示/ピーキングレベル/ピーキング色/未設定)</p>
カスタムキー設定 (205)	<p>あらかじめキーに機能を設定しておくと、キーを押すだけで設定しておいた機能を実行できる。</p> <p>(コントロールホイール/カスタムボタン1/カスタムボタン2/カスタムボタン3/カスタムボタン4/中央ボタン/左ボタン/右ボタン/下ボタン/AELボタン/AF/MFボタン/フォーカスホールドボタン*)</p> <p>* レンズのフォーカスホールドボタンの機能を設定します。</p>

ダイヤルの設定	撮影モードがMのとき、前ダイヤルと後ダイヤルに、シャッタースピードと絞り値のどちらを割り当てるか設定する。 (■シャッター ■絞り/ ■絞り ■シャッター)
ダイヤル露出補正 (117)	前ダイヤルまたは後ダイヤルで露出補正ができるように設定する。 (切/ ■前ダイヤル/ ■後ダイヤル)
ズームリング操作方向 (163)	ズームリングの回転方向に対して、W/Tの割り当てを設定する。電動ズームレンズで本機能に対応したレンズのみ使用できます。 (左回転(W) /右回転(T)または、右回転(W) /左回転(T))
MOVIE (動画)ボタン (73)	MOVIEボタンの有効/無効を設定します。 (常に有効/動画モードのみ有効)
ダイヤル/ホイールロック	Fnボタンを長押しして、前ダイヤル/後ダイヤル/コントロールホイールを一時的に無効にする機能を設定する。Fnボタンを長押しすることでロックまたはロック解除する。 (入/切)

■ (ワイヤレス)

スマートフォン転送	スマートフォンに画像を表示、転送する。 (カメラから選ぶ/スマートフォンから選ぶ)
パソコン保存	本機の画像をネットワークにつながれたパソコンに転送し、バックアップをとる。
テレビ鑑賞	ネットワークにつながれたテレビで画像を見る。

ワンタッチ(NFC) (219)	ワンタッチ(NFC)にアプリケーションを1つ割り当てる。 撮影時にNFC対応スマートフォンを本機にタッチすると、そのアプリケーションが起動する。
飛行機モード	飛行機などに搭乗するとき、Wi-Fi/NFC機能を使用する設定を一時的にすべて無効にする。 (入/切)
アクセスポイント簡単登録	WPSボタンを押すことで、簡単にアクセスポイントを登録できる。
アクセスポイント手動登録	手動でアクセスポイントを登録できる。
機器名称変更	Wi-Fi Directなどの機器名称を変更する。
MACアドレス表示	本機のMACアドレスを表示する。
SSID・PWリセット	スマートフォン接続の接続情報をリセットする。
ネットワーク設定リセット	すべてのネットワーク設定をリセットする。

■ (アプリケーション)

インターネットでアプリケーションダウンロードサイト

PlayMemories Camera Apps™に接続して、お好みの機能を本機に追加できます。

- 本機には、お手持ちのスマートフォンをカメラのリモコンとして使用できるアプリケーション[スマートリモコン内蔵版]が事前インストールされています。

なお、MENUボタン →  (セットアップ) → [設定リセット] → [初期化]にしても、[スマートリモコン内蔵版]は削除されません。

□ (再生)

機能一覧

削除(195)	画像を削除する。 (画像選択/このフォルダーの全画像/ この日付の全画像)
ビューモード(187)	画像を日付ごとや静止画/動画のフォル ダーコードごとに再生する。 (日付ビュー / フォルダービュー (静止画) / フォルダービュー (MP4) / AVCHDビュー / XAVC Sビュー)
一覧表示(188)	画像を一覧表示する。 (9枚/25枚)
記録画像の回転表示 (191)	縦向きで記録した静止画の再生方法を設 定する。 (オート/マニュアル/切)
スライドショー (190)	画像を連続再生する。 (リピート/間隔設定)
回転(190)	画像を回転する。
④拡大(187)	再生画像を拡大表示する。
4K静止画再生(202)	HDMI接続した4K対応テレビに4K解像度 で静止画を出力する。
プロテクト(192)	画像を誤って消さないように保護(プロテ クト)する。 (画像選択/このフォルダーの全画像/ この日付の全画像/このフォルダーを全て解除/ この日付を全て解除)
プリント指定(193)	メモリーカードの画像にプリント予約 マークを付ける。 (画像選択/全画像解除/印刷設定)

 (セットアップ)

モニター明るさ(208)	モニターの明るさを設定する。 (マニュアル/屋外晴天)
ファインダー明るさ (208)	電子ビューファインダー使用時、電子ビューファインダーの明るさを設定する。 (オート/マニュアル)
ファインダー色温度	ファインダーの色温度を設定する。
音量設定	動画再生時の音量を設定する。
電子音	ピントが合ったときや、セルフタイマー操作時の電子音の有無を設定する。 (入/切)
アップロード設定 (214)	市販のEye-Fiカードを使うときのアップロード通信設定をする。 (入/切)
タイルメニュー (38)	MENUボタンを押したときに、タイルメニューを表示するかを設定する。 (入/切)
モードダイヤルガイド (78)	モードダイヤルガイド(各撮影モードの説明)の表示を設定する。 (入/切)
削除確認画面	削除の確認画面で、[削除]と[キャンセル]のどちらを選択された状態にするかを設定する。 (「削除」が先/「キャンセル」が先)
表示画質(208)	表示画質を設定する。 (高画質/標準)
パワーセーブ開始時間 (209)	省電力モード(パワーセーブ)になるまでの時間を設定する。 (30分/5分/2分/1分/10秒)

クリーニングモード (252)	イメージセンサーをクリーニングする。
デモモード	動画のデモンストレーションの入/切を設定する。 (入/切)
TC/UB設定 (183)	タイムコード(TC)とユーザービット(UB)の設定をする。 (TC/UB表示設定/TC Preset/UB Preset/TC Format/TC Run/TC Make/UB Time Rec)
リモコン(166)	赤外リモコンを使用する/しないを設定する。 (入/切)
HDMI設定 (199)	HDMIに関する設定を行う。 (HDMI解像度/24p/60p出力切換/HDMI情報表示/TC出力/レックコントロール/HDMI機器制御)
USB接続(232)	接続するパソコンやUSB機器に合わせて設定する。 (オート/マスストレージ/MTP/PCリモート)
USB LUN設定(233)	USB接続の機能を制限して互換性を高める。通常は[マルチ]のまま使い、どうしても接続できない場合のみ、[シングル]に設定する。 (マルチ/シングル)
日時設定(66)	時計、日付の設定をする。
エリア設定(66)	本機を使用する場所に適した時刻に設定する。
フォーマット(211)	メモリーカードをフォーマット(初期化)する。

ファイル番号(211)	ファイル番号の付けかたを設定する。 (連番/リセット)
記録フォルダー選択 (212)	静止画と動画(MP4)を記録するフォルダを設定する。
フォルダー新規作成 (213)	静止画と動画(MP4)を記録する新しいフォルダーを作成する。
フォルダー形式(212)	静止画を記録するフォルダーの形式を設定する。 (標準形式/日付形式)
管理ファイル修復 (213)	画像の管理ファイル修復を行い、記録・再生できるようにする。
メディア残量表示	現在撮影可能な動画の時間と静止画の枚数を表示する。
バージョン表示(218)	本機のソフトウェアのバージョンを表示する。
認証マーク表示	本機が対応している認証情報を表示する (表示されるのは認証情報の一部のみになります)。
設定リセット	設定をお買い上げ時の設定に戻す。すべての設定を初期値に戻す場合は、[初期化]を選ぶ。 (初期化/撮影設定リセット)

カメラ内ガイドを見る

[カスタムキー設定]で希望のボタンにカメラ内ガイドの機能を設定します。カメラ内ガイドでは、MENUの機能や設定に関する説明を表示します。

MENUボタン → ⚭(カスタム設定) → [カスタムキー設定] →
希望のボタン → [カメラ内ガイド]を選ぶ。

- MENUボタンを押して、コントロールホイールで説明を見たい項目を選び、[カメラ内ガイド]を設定したボタンを押してください。

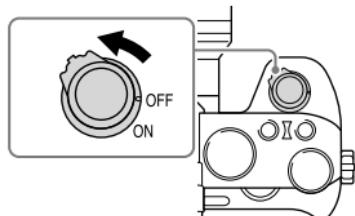
バッテリー（電池）を充電する

初めてお使いになるときは、インフォリチウム™バッテリー NP-FW50 (付属)を必ず充電してください。

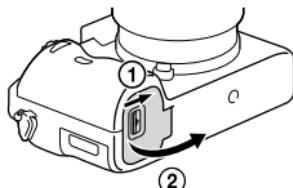
インフォリチウムバッテリーは、使い切らない状態でも充電できます。また、充電が完了していない状態で使用することもできます。

充電したバッテリーは、使わなくとも少しずつ放電しています。撮影機会を逃さないためにも、ご使用前に充電してください。

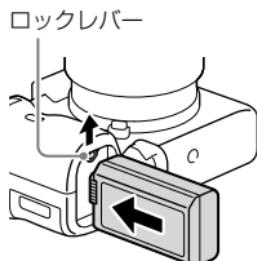
1 電源スイッチを「OFF」にする。



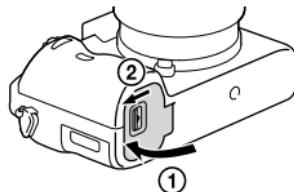
2 カバーのオープンレバーをスライドして、カバーを開ける。



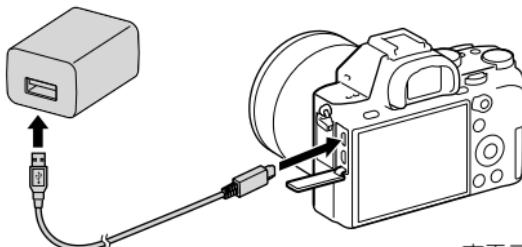
3 バッテリーの端でロックレバーを押しながら入れ、バッテリーがロックされるまで押し込む。



4 カバーを閉じる。



5 本機とACアダプター（付属）をマイクロUSBケーブル（付属）でつなぎ、ACアダプターをコンセントに取り付ける。



カメラの充電ランプがオレンジ色に点灯し、充電が始まる。

- 充電中は、電源スイッチを「OFF」にしてください。
- 充電ランプが点滅した場合は、一度バッテリーを取りはずし、再度装着してください。

充電ランプ

点灯：充電中

消灯：充電終了

点滅：充電エラー、または充電に適した温度範囲外での充電による充電一時待機

ご注意

- ACアダプターをコンセントにつないでもカメラの充電ランプが点滅する場合は、充電に適した温度範囲外にあるため一時待機状態になっています。充電に適した温度範囲に戻れば充電可能です。バッテリーの充電は周囲の温度が10°C～30°Cの環境で行ってください。
- ACアダプターは、手近なコンセントを使用してください。本機を使用中、不具合が生じたときはすぐにコンセントからプラグを抜き、電源を遮断してください。

- お買い上げ直後や長期間バッテリーを放置した場合、一度目の充電では充電ランプが速い点滅になる場合があります。その場合は一度バッテリーを取りはずし、再度充電してください。
- 充電終了直後またはそれに近い状態のバッテリーを未使用のまま、何度も充電を繰り返さないでください。バッテリーの性能に影響します。
- 充電が終わったら、ACアダプターをコンセントから抜いてください。
- 必ずソニー製純正のバッテリー、付属のマイクロUSBケーブル、ACアダプターをお使いください。

充電にかかる時間

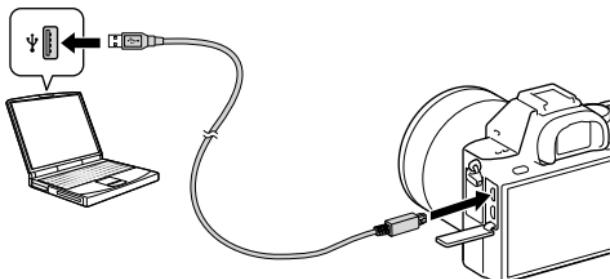
充電にかかる時間は、付属のACアダプターで約150分です。

ご注意

- バッテリー（付属）を使い切ってから、温度25 °Cの環境下で充電したときの時間です。使用状況や環境によっては、長くかかります。

パソコンに接続して充電する

マイクロUSBケーブルを使って、パソコンからの充電も可能です。本機の電源を切った状態でつないでください。



ご注意

- 電源を接続していないノートパソコンと本機を接続した場合、ノートパソコンの電池が消耗していきます。長時間放置しないでください。
- 本機をUSB接続したままパソコンの起動、再起動、スリープモードからの復帰、終了操作を行わないでください。本体が正常に動作しなくなることがあります。これらの操作は、パソコンから本機を取りはずしてから行ってください。
- すべてのパソコンでの動作を保証するものではありません。自作のパソコンや改造したパソコン、ハブ経由での充電は保証できません。また同時に使いになるUSB機器によっては、正常に動作しないことがあります。

バッテリー残量を確認するには

モニターの残量表示マークと%表示で確認してください。

残量						[電池がなくなりました]
	多	→				少

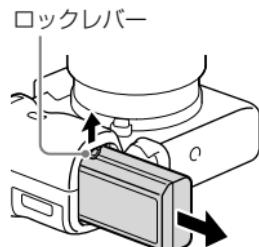
ご注意

- 使用状況や環境によっては、正しく表示されません。

バッテリーを取り出す

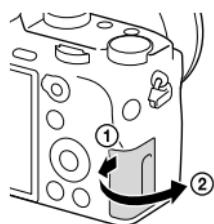
電源を切り、アクセスランプ(22ページ)が点灯していないことを確認し、ロックレバーをずらして、バッテリーを引き出します。

このとき、バッテリーが落下しないよう、注意してください。



メモリーカード(別売)を入れる

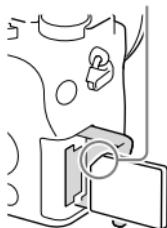
1 メモリーカードカバーをスライドして、カバーを開ける。



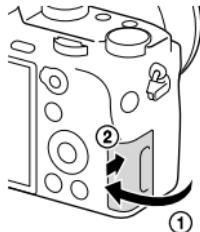
2 メモリーカードを入れる。

- 切り欠き部をイラストの向きに合わせ、「カチッ」と音がするまで奥に差し込む。

切り欠きの向きに注意する



3 カバーを閉じる。



メモリーカードを取り出すには

メモリーカードカバーを開けて、アクセスランプ(22ページ)が点灯していないことを確認し、メモリーカードを1度押します。

使用できるメモリーカード

本機で使用できるメモリーカードは、以下の通りです。ただし、すべてのメモリーカードの動作を保証するものではありません。

対応メモリーカード	静止画	動画	本書での表現
メモリースティック PRO デュオ™	○	○*1	
メモリースティック PRO-HG デュオ™	○	○	
メモリースティック XC-HG デュオ™	○	○	
SDメモリーカード	○	○*2	
SDHCメモリーカード	○	○*2	
SDXCメモリーカード	○	○*2	SDカード

*1 Mark2のみ対応

*2 Class4以上で対応

XAVC Sフォーマットで記録するとき

以下のメモリーカードをお使いください。

- 64GB以上のSDXCメモリーカード(Class 10以上)
- 64GB以上のUHS-I (U1) SDXCメモリーカード
- メモリースティック XC-HG デュオ

ご注意

- メモリースティック XC-HG デュオおよびSDXCメモリーカードに記録した映像は、exFATに対応していないパソコンやAV機器などに、本機とマイクロUSBケーブルで接続して取り込んだり再生することはできません。接続する機器がexFATに対応しているかを事前にご確認ください。

対応していない機器に接続した場合、フォーマット(初期化)を促す表示が出る場合がありますが、決して実行しないでください。内容がすべて失われます。(exFATは、メモリースティック XC-HG デュオおよびSDXCメモリーカードで使用されているファイルシステムです。)

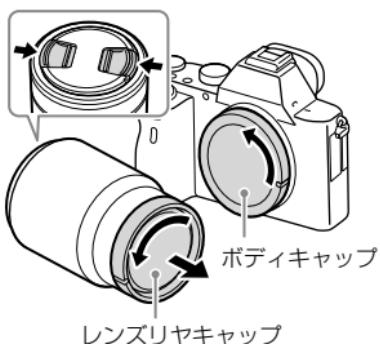
レンズを取り付ける

レンズの取り付け/取りはずしは、本機の電源を「OFF」にしてから行ってください。

1 本機のボディキャップとレンズの後ろのレンズリヤキャップをはずす。

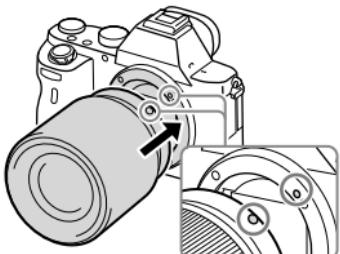
- ・カメラ内部にゴミやほこりが入らないように、ほこりの少ない場所で素早く行う。
- ・撮影するときは、レンズ前面のレンズフロントキャップもはずす。

レンズフロントキャップ



2 レンズと本機の2つの白色の点（マウント標点）を合わせてはめ込む。

- ・ゴミやほこりが入らないよう、マウントを下向きにして取り付ける。



3 レンズを軽く本機に押し付けながら、「カチッ」と音がするまで矢印の方向にゆっくり回す。

- ・レンズを斜めに差し込まない。

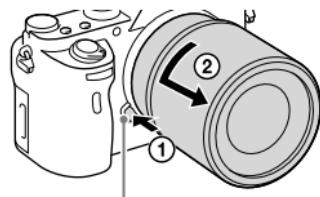


ご注意

- レンズを取り付けるときは、レンズ取りはずしボタンを押さないでください。
- レンズに無理な力を加えないでください。
- Aマウントレンズ(別売)をご使用の場合は、別売のマウントアダプターが必要です。マウントアダプターを使用する場合は、マウントアダプターの取扱説明書もご覧ください。
- フルサイズでの撮影は、フルサイズ対応のレンズを使用してください。
- レンズを取り付けてカメラを持ち運ぶときは、カメラとレンズの両方をしっかりと持ってください。
- ズームやピント合わせなどで繰り出たレンズ部分を持って、カメラを保持しないでください。

レンズを取りはずすには

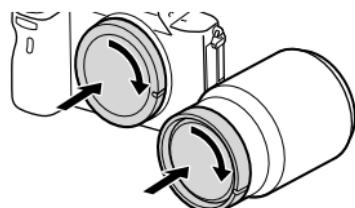
- 1 レンズ取りはずしボタンを押しながら、レンズを矢印の方向に止まるまで回して取りはずす。**



レンズ取りはずしボタン

- 2 本機にボディキャップを、レンズの前後にキャップを取り付ける。**

- キャップは、ほこりを落としてから取り付ける。



レンズ交換時のご注意

レンズ交換の際に、カメラ内にゴミやほこりが入ってイメージセンター（光を電気信号に変える部分）表面に付着すると、撮影条件によつては、ゴミやほこりが画像に写り込むことがあります。

レンズの取り付け/取りはずしを行う際には、ほこりの少ない場所で
すばやく行ってください。

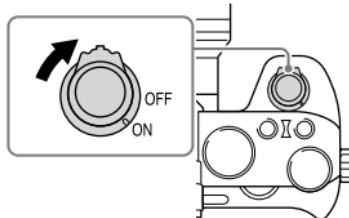
日付と時刻を設定する

初めて電源を入れたときや設定値リセットを行ったあとは、日時設定の画面が表示されます。

1 電源スイッチを「ON」にして、電源を入れる。

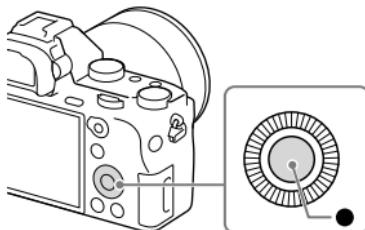
日時設定を要求する画面になる。

- 電源を切るときは、「OFF」にする。



準備する

2 モニターの表示で[実行]が選ばれていることを確認し、コントロールホイール中央の●を押す。



3 [東京/ソウル]が選ばれていることを確認し、中央の●を押す。

4 コントロールホイールの▲/▼を押す、またはホイールを回して設定する項目を選び、中央の●を押す。

5 ▲/▼/◀/▶を押す、またはホイールを回して希望の設定を選び、中央の●を押す。

[サマータイム]：日本では、サマータイムは[切]にする。

[表示形式]：日付表示順を選ぶ。

- [日時]を設定する場合、真夜中は12:00AM、正午は12:00PMとなる。

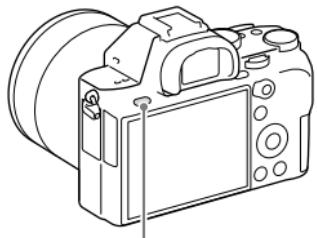
6 手順4、5を繰り返して、すべて設定し、[実行]を選んで中央の●を押す。

日時設定を中止するには
MENUボタンを押します。

日時やエリアを確認する/合わせ直す

日時設定画面は、初めて電源を入れたときや、内蔵バックアップ電池が消耗したときに自動で開きます。2回目以降はメニューで設定してください。

MENUボタン →  (セットアップ)
→ [日時設定] または [エリア設定] を選ぶ。



MENUボタン

ご注意

- 本機には、画像に日付を挿入する機能はありません。PlayMemories Homeを使用すると、日付を入れて保存/印刷できます(229ページ)。

設定した日時の保持について

本機は日時や各種の設定を電源の入/切やバッテリーの有無に関係なく保持するために、充電式バックアップ電池を内蔵しています(255ページ)。

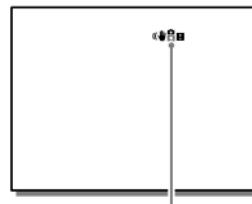
手ブレを抑えてきれいに撮る

「手ブレ」とは、撮影時にカメラが動き、不鮮明な画像になる現象のことです。

手ブレを抑えるには、以下の方法があります。

手ブレ警告表示について

手ブレのおそれがある場合は、
〔手ブレ〕(手ブレ警告)表示が点滅します。
この場合は、三脚、またはフラッシュを使ってください。



〔手ブレ〕(手ブレ警告)表示

準備する

ご注意

- 手ブレ警告表示は、下記の場合は表示されません。
 - 撮影モードが「M」、「S」、動画撮影時
 - 画面表示が「情報表示なし」、「水準器」、「ヒストグラム」のとき(96ページ)

手ブレ補正機能を使う

装着しているレンズによって、最適な手ブレ補正を使って撮影できます。

1 MENUボタン →  (撮影設定) → [手ブレ補正] → [入]を選ぶ。

2 [手ブレ補正設定] → [手ブレ補正調整] → 希望の設定を選ぶ。

オート	レンズから取得した情報をもとに自動で手ブレ補正する。
マニュアル	[手ブレ補正焦点距離]で設定した焦点距離で手ブレ補正する。(8mm ~ 1000mm) • 撮影時のレンズ焦点距離を設定してください。

ご注意

- 電源スイッチを「ON」にした直後やカメラを構えた直後、シャッター ボタンを半押しせずに一気に押し込んだときは、手ブレ補正の効果が得にくいくことがあります。
- 三脚を使う場合には、手ブレ補正機能が誤動作するおそれがあるため、[手ブレ補正]を[切]にしてください。
- レンズから焦点距離などの情報が取得できないときは、手ブレ補正が正しく動作しません。[手ブレ補正調整]を[マニュアル]にして、装着しているレンズに合わせて[手ブレ補正焦点距離]を設定してください。
- レンズから情報を取得できないとき、または[手ブレ補正調整]を[マニュアル]にしているときは、の横に設定している手ブレ補正焦点距離の値が表示されます。
- ソニー製レンズにコンバーターレンズを装着している場合などには、[手ブレ補正調整]を[マニュアル]にして、焦点距離を設定してください。

正しく構える

上半身を安定させて、カメラが動かないように構える。

ファインダーモード時



ファインダーモード時

(縦位置)



モニター mode 時



ポイント①

片手でカメラのグリップを持ち、もう片方の手でレンズの下側を支える。

ポイント②

両足を肩幅に広げて、下半身を安定させる。

ポイント③

脇を軽く締める。

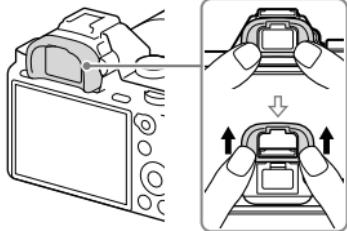
低い姿勢で撮影するときは、膝のうえに、肘などを乗せるなどして、上半身を安定させる。

準備する

アイピースカップを取りはずす

アングルファインダー FDA-A1AM (別売)を取り付けるときなどは、アイピースカップを取りはずします。

アイピースカップの下部に指をおき、上方向にスライドさせる。



ご注意

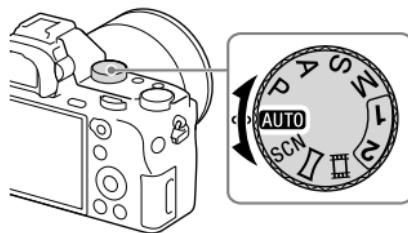
- ・アングルファインダー FDA-A1AM (別売)を取り付けるときは、
⚙(カスタム設定)の[FINDER/MONITOR]で[ファインダー]、[モニター]を
切り換えてください。

静止画を撮る

[オートモード]では、本機が適切だと判断した値で設定され、被写体や環境を選ばずに、手軽に撮影できます。

1 電源スイッチを「ON」にして、電源を入れる。

2 モードダイヤルを **AUTO (オートモード)にする。**



3 ファインダーをのぞいて、本機を構える。

4 被写体の大きさを決める。

ズームレバー搭載レンズの場合：

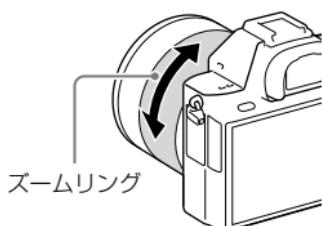
ズームレバーを動かす。

ズームリング搭載レンズの場合：

ズームリングを回す。

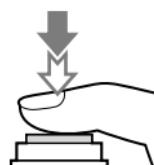
- 単焦点レンズでは、光学ズームはできません。

- 電動ズームレンズでは、光学ズームの倍率を超えると光学ズーム以外のズームへ移行します(161ページ)。



5 シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせる。

ピントが合うと、●または○(フォーカス表示)が点灯する(102ページ)。



6 シャッターボタンを深く押し込んで、撮影する。

[オートフレーミング]が[オート]の場合、人物の顔やマクロ撮影する被写体、またロックオンAFでとらえた被写体を検出して撮影すると、自動的に最適な構図に切り出し(トリミング)した画像が記録される。トリミング前の画像と、トリミングされた画像の2枚が記録される。



動画を撮る

1 MOVIE (動画)ボタンを押して、撮影を開始する。

- お買い上げ時の設定では、[MOVIE (動画)ボタン]が[常に有効]に設定されているため、すべての撮影モードから動画撮影を開始できます。



MOVIE (動画)ボタン

2 もう一度MOVIE (動画)ボタンを押して、撮影を終了する。

ご注意

- 動画撮影中はレンズやカメラの作動音などが記録されてしまうことがあります。[音声記録]を[切]にすると、音声が記録されないようにできます(176ページ)。
- 電動ズームレンズをお使いの場合、動画記録中のズームリングでの作動音が気になるときはズームレバーでの操作をお勧めします。ズームレバーを動かすときは、レバーに軽く指をかけて、レバーをはじかないように操作してください。
- 1回の連続撮影時間は環境温度や本機の使用状態により、撮影可能時間が短くなる場合があります。「動画の連続撮影についてのご注意」(270ページ)を確認してください。
- [!]が表示された場合は、本機の温度が上がっています。本機の電源を切り、温度が下がるのを待ってから撮影してください。
- 連続して撮影している場合は、本機の温度が上昇しやすく、熱く感じることがありますが故障ではありません。また、[しばらく使用できません カメラの温度が下がるまでお待ちください]という表示が出る場合があります。その場合は、本機の電源を切って、本機の温度が下がるのを待ってから撮影してください。
- 動画撮影時、ご使用状況によっては、ショルダーストラップ取り付け部(三角環)の音が記録されることがあります。

再生する

1 ▶ボタンを押す。



2 コントロールホイールの◀/▶で画像を選ぶ。

- 動画を再生する場合は、コントロールホイール中央の●を押す。
- 動画再生中に▼を押すと、操作パネルが表示されます。

操作パネル	できること
▶	再生
⏸	一時停止
▶▶	早送り
◀◀	早戻し
▶▶▶	スロー再生
◀◀◀	スロー逆再生
▶▶⏸	次の動画
⏸◀◀	前の動画
⏸▶▶	コマ送り
◀◀⏸	コマ戻し
▶▶▶▶	音量設定
↶	操作パネルを閉じる

ご注意

- ・本機以外で撮影された動画ファイルは再生できない場合があります。

静止画と動画を切り換える

静止画を再生するには、[ビューモード]を[フォルダービュー（静止画）]に、動画を再生するには、[フォルダービュー（MP4）]、[AVCHDビュー]または[XAVC Sビュー]にする必要があります。また、[日付ビュー]を選ぶと、動画と静止画が混在で日付ごとに表示できます。

MENUボタン → □ (再生) → [ビューモード] → 希望のモードを選ぶ。

削除する

一度削除した画像は、元に戻せません。削除してよいか、事前に確認してください。

-
- 1 削除したい画像を表示して、
■ボタンを押す。



- 2 コントロールホイールの▲/▼で[削除]を選び、中央の●を押す。

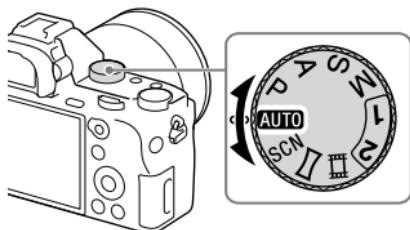
- まとめて画像を削除したいときは、MENUボタン → ▶ (再生) → [削除]を選びます。

ご注意

- プロテクトされている画像は削除できません。

撮影モードを変える

モードダイヤルを回して、希望の撮影モードを選ぶ。



本機には、以下の撮影モードがあります。

AUTO (オートモード)(78)	本機が適切だと判断した値で設定され、被写体や環境を選ばずに、手軽に撮影できる。
P (プログラムオート) (87)	露出(シャッタースピードと絞り)は本機が自動設定するが、その他の設定は自分で調整できる。
A (絞り優先)(88)	絞りを調整し、ピントの合う範囲や背景のぼかし具合を変えて撮影できる。
S (シャッタースピード優先) (89)	シャッタースピードを手動調整し、動くものの表現を変えて撮影できる。
M (マニュアル露出) (91)	露出(シャッタースピードと絞り)を前/後ダイヤルで手動設定する。
1/2 (登録呼び出し) (217)	📷(撮影設定)メニューの[登録]であらかじめ登録した設定を選んで呼び出す。
SCN (シーンセレクション) (80)	撮りたい被写体や環境に合ったモードを選ぶと、被写体に適した設定で撮影できる。
□ (スイングパノラマ) (83)	画像を合成してパノラマ画像を撮影できる。
■ (動画)(169)	動画の撮影設定を変更して撮影する。

モードダイヤルを回したときに希望のモードを選べるようにする

モードダイヤルを回したときに撮影モードの説明を表示して、その撮影モード内の項目を変えることもできます。

1 MENUボタン →  (セットアップ) → [モードダイヤルガイド] → [入] を選ぶ。

2 モードダイヤルで希望の撮影モードを選ぶ。

選んだ撮影モードのガイドが表示される。

3 コントロールホイール中央の●を押す。

変更できる項目がある場合は、コントロールホイールを回したり、▲/▼を押して希望のモードを選ぶ。

AUTO オートモード

1 モードダイヤルを AUTO (オートモード) にする。

2 被写体にカメラを向け、ピントを合わせて撮影する。

 (おまかせオート)	本機が適切だと判断した値で撮影する。
 (プレミアムおまかせオート)	本機が撮影状況を認識して、自動的に設定を行う。必要に応じて連続撮影し、合成や抽出によって最適な画像を保存する。

シーン認識

カメラがシーンを認識すると、シーン認識マークと連続撮影枚数が表示される。[プレミアムおまかせオート]時は、認識したシーンに最適な撮影動作も表示される。

認識シーン：☽(夜景)、

♪(手持ち夜景)、▲(風景)、

¤(逆光&人物)、○(人物)、

❀(三脚夜景)、▣(逆光)、■(マクロ)、

●(夜景&人物)、◎(スポットライト)、

◐(低照度)、◐(赤ちゃん)

撮影動作：連続撮影、スローションクロ、

オートHDR、日中シンクロ、

スローシャッター、手持ち夜景

シーン認識マーク



撮影動作

連続撮影枚数

プレミアムおまかせオート時に連続撮影した画像の保存方法を設定するには

連続撮影した場合に、本機が判断した最適な画像を保存するか、すべての画像を保存するか設定できます。

MENUボタン → ☈(カスタム設定) →

[プレミアムオート画像抽出] → 希望の設定を選ぶ。

モードを切り換えるには

メニューからオート撮影の方法を選べます。

MENUボタン → ☐(撮影設定) → [オートモード] → 希望の設定を選ぶ。

ご注意

- 認識シーンで[手持ち夜景]が選択された場合は、[プレミアムオート画像抽出]を[切]にしても、保存される画像は合成された1枚になります。
- [¤画質]が[RAW]、[RAW+JPEG]のときは撮影動作が制限されます。

SCN シーンセレクション

こんなときに適しています

- 撮影状況に合わせて用意された設定で撮る。

1 モードダイヤルを SCN (シーンセレクション)にする。

2 ピントを合わせて撮影する。

 (ポートレート)	<p>背景をぼかして、人物を際立たせる。肌をやわらかに再現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 背景をよりぼかすには、レンズを望遠側にする。 • レンズに近い方の目にピントを合わせると、いきいきした印象になる。 • 逆光のときは、レンズフードをつけて撮る。 • フラッシュで目が赤くなってしまうときは、赤目軽減機能(129ページ)を使う。
 (スポーツ)	<p>高速なシャッタースピードで動く物が止まったように撮れる。シャッターボタンを押し続けると連続撮影する。</p> <ul style="list-style-type: none"> • シャッターボタンを半押ししたままシャッターチャンスを待つ。

 (マクロ)	<p>花や料理などに近づいて撮ると きに適している。</p> <ul style="list-style-type: none"> マクロレンズ(別売)を使えば、 より近づいて撮影できる。 1 m以内で撮る場合は、フラッシュモードを発 光禁止にする。 近距離撮影では、手ブレ補正の効果を得にくい。 補正の効果が得られないときは三脚を使用す る。 ピントが合う最短距離は変わらない。 	
 (風景)	<p>風景を手前から奥までくっきり と鮮やかな色で撮る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 風景の広大さをより強調する には、レンズを広角側にする。 	
 (夕景)	<p>夕焼けや朝焼けなどの赤を美し く撮る。</p>	
 (夜景)	<p>暗い雰囲気を損なわずに、夜景 を撮る。</p> <ul style="list-style-type: none"> シャッタースピードが遅くな るので、三脚を使う。 明かりの少ない全体的に暗い夜景のときは、写 真がうまく仕上がらないことがある。 	

<p> (手持ち夜景)</p>	<p>三脚を使わずにノイズが少ない夜景を撮る。連写を行い、画像を合成して被写体ブレや手ブレ、ノイズを軽減して記録する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 以下の場合にはノイズを軽減する効果が弱くなる。 <ul style="list-style-type: none"> 動きの大きな被写体 主要被写体とカメラの距離が近すぎる 空、砂浜、芝生など、似たのような模様が続く被写体 波や滝など、常に模様が変化する被写体 蛍光灯など、ちらつきのある光源がある場合、ブロック状のノイズが発生することがある。 	
<p> (夜景ポートレート)</p>	<p>夜景を背景に手前の人を撮る。フラッシュを取り付けて使う。</p> <ul style="list-style-type: none"> シャッタースピードが遅くなるので、三脚を使う。 	
<p> (人物ブレ軽減)</p>	<p>室内で人物撮影する場合、フラッシュを使わずにブレを軽減する。連写を行い、画像を合成して被写体ブレやノイズを軽減して記録する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 以下の場合にはノイズを軽減する効果が弱くなる。 <ul style="list-style-type: none"> 動きの大きな被写体 主要被写体とカメラの距離が近すぎる 空、砂浜、芝生など、似たような模様が続く被写体 波や滝など、常に模様が変化する被写体 蛍光灯など、ちらつきのある光源がある場合、ブロック状のノイズが発生することがある。 	

シーンを切り換えるには

メニューからお好みのシーンを選べます。

MENUボタン → □ (撮影設定) → [シーンセレクション] → 希望の設定を選ぶ。

撮影のテクニック

- より画像の仕上がりにこだわって撮影したい場合は、モードダイヤルを「P」、「A」、「S」、「M」にしてクリエイティブスタイル(143ページ)を使用すると、露出やISOなどの機能を自分で設定して撮影できる。

ご注意

- シーンセレクションでは、露出やISOなど、多くの機能がカメラまかせになり設定変更できなくなります。
- フラッシュは各シーンセレクションモードごとに自動発光/発光禁止が設定されています。この設定を変更することもできます(128、132ページ)。

□スイングパノラマ

こんなときに適しています

- 広大な景色や高層の建築物をそのままの迫力で撮る。

1 モードダイヤルを □ (スイングパノラマ)にする。

2 明るさ、ピントを合わせたい被写体にカメラを向け、シャッターボタンを半押しする。

- 撮影前に前ダイヤル、または後ダイヤルで撮影方向を変更できます。設定できるダイヤルは、[ダイヤル露出補正]の設定によって変わります。

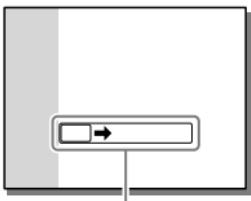
- 3 シャッターを半押しした状態で、構図の端にカメラを向ける。



撮影されない部分

- 4 シャッターボタンを深く押し込む。

- 5 画面に表示されている矢印の方に向に、カメラをガイドの終わりまで動かす。



ガイド

ご注意

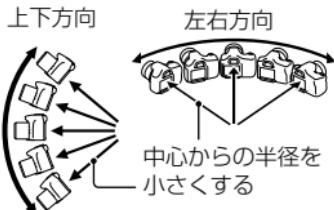
- 一定時間内にパノラマ撮影画角に満たなかった場合、足りない部分はグレーで記録されます。この場合はカメラを速く動かすと最後まで記録されます。
- 複数の画像を合成するため、つなぎ目がなめらかに記録できない場合があります。カメラを前後や左右に傾けないで、まっすぐに動かして撮影してください。
- 暗いシーンでは画像がブレたり、撮影ができない場合があります。
- 蛍光灯など、ちらつきのある光源がある場合、合成された画像の明るさや色合いが一定ではなくなります。
- パノラマ撮影される画角全体と、AE/AFロックしたときの画角とで、明るさやピント位置などが極端に異なる場合、うまく撮影できないことがあります。このようなときは、AE/AFロックする場所を変えて撮影してください。

- 以下の場合はパノラマ撮影に適していません。
 - 動いている被写体
 - 主要被写体とカメラの距離が近すぎる
 - 空、砂浜、芝生など、似たような模様が続く被写体
 - 波や滝など、常に模様が変化する被写体
 - 太陽や電灯など、周囲との明るさの差が大きい被写体
- 以下の場合はパノラマ撮影が中断されることがあります。
 - カメラを動かす速度が速すぎる、または遅すぎる場合
 - ブレすぎた場合
- パノラマ撮影中は連続撮影となり、シャッター音が撮影終了まで鳴り続けます。
- パノラマ撮影では、以下の機能が使用できません。
 - 顔検出/スマイルシャッター
 - オートフレーミング
 - DRO/オートHDR
 - ピクチャーエフェクト
 - ピクチャープロファイル
 - 美肌効果
 - 長秒時NR
 - 高感度NR
 - ロックオンAF
 - 光学ズーム以外のズーム
 - ドライブモード
- パノラマ撮影では、以下の機能は設定値が固定されます。
 - [ISO感度]は[ISO AUTO]に固定
 - [フォーカスエリア]は[ワイド]に固定
 - [フラッシュモード]は[発光禁止]に固定

スイングパノラマ撮影のポイント

一定の速度で円を描くように画面の矢印方向に動かしてください。パノラマ撮影は、止まっている被写体の撮影に適しています。

- ・パノラマ撮影には、広角レンズのご使用をおすすめします。
- ・焦点距離が長いレンズを使用する場合は、広角レンズ使用時よりもゆっくりと動かしてください。
- ・シャッターボタンを半押しして、ピントや露出をロックしてから、カメラを動かしてください。
- ・複雑な形状や景色が画面の端に偏っていると、うまく合成できないことがあります。その場合は、複雑な部分が画面の中央になるように構図を調整して撮影してください。



画像サイズを変更するには

画像サイズは、MENUボタン → (撮影設定) → [パノラマ：画像サイズ] で希望の設定を選べます。

撮影方向を変更するには

カメラを動かす方向を設定します。

MENUボタン → (撮影設定) → [パノラマ：撮影方向] → 希望の設定を選ぶ。

パノラマ画像を見るには(スクロール再生)

パノラマ画像を選び、コントロールホイール中央の●を押す。

- ・もう一度中央の●を押すと一時停止します。一時停止中に▲/▼/◀/▶を押して手動でスクロール再生できます。

P プログラムオート

こんなときに適しています

- 露出はカメラにまかせ、ISO感度、クリエイティブスタイル、Dレンジオプティマイザーなど、好みの設定に変更したい。

1 モードダイヤルを「P」にする。

2 撮影機能を希望の設定にする(101 ~ 167ページ)。

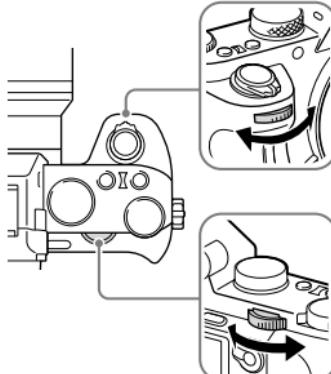
3 ピントを合わせて撮影する。

プログラムシフト

カメラが設定した適性露出のまま、シャッタースピードと絞り値の組み合わせを変更できます。

ピントを合わせた状態で前/後ダイヤルを回し、絞り値とシャッタースピードの組み合わせを選んでください。

撮影モード表示は、「P*」になります。



A 絞り優先

こんなときに適しています

- 被写体だけをくっきりとさせて、前後をぼかしたい。絞りを開けるほど、ピントの合う範囲が狭くなる(被写界深度が浅くなる)。
- 風景の奥行きを表したい。絞り込むほど、ピントの合う範囲が前後に広がる(被写界深度が深くなる)。

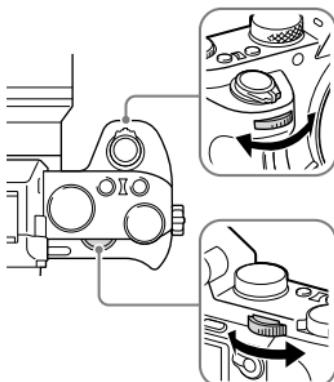
1 モードダイヤルを「A」にする。

2 前/後ダイヤルで、絞り値(F値)を選ぶ。

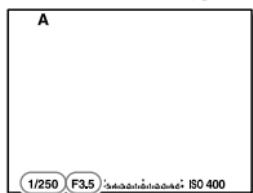
絞り値を小さくする：被写体の前後がぼける。

絞り値を大きくする：被写体の前後までくっきりとピントが合う。

- 設定した絞り値で適正露出にならないと本機が判断した場合は、シャッタースピードが点滅する。この場合は、絞り値を変更する。



ファインダー表示



絞り値(F値)

シャッタースピード

3 ピントを合わせて撮影する。

適正露出になるように、シャッタースピードは自動で設定される。

撮影のテクニック

- 設定した絞り値によっては、シャッタースピードが遅くなる場合がある。シャッタースピードが遅いときは、三脚を使用する。
- 背景をよりぼかしたいときは、望遠レンズや明るいレンズを使う。

S シャッタースピード優先

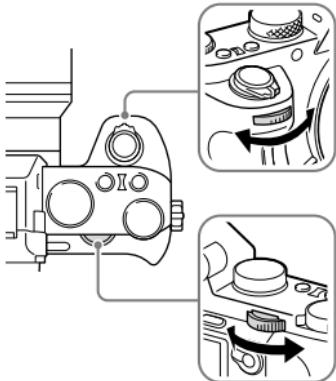
こんなときに適しています

- 一瞬を静止させたように撮りたい。シャッタースピードが速いほど、一瞬の動きを捉える。
- 動きの軌跡を写し、躍動感や流動感を表現したい。シャッター速度が遅いほど、軌跡が写せる。

1 モードダイヤルを「S」にする。

2 前/後ダイヤルでシャッタースピードを選ぶ。

- 設定したシャッタースピードで適正露出にならないと本機が判断した場合は、絞り値が点滅する。この場合は、シャッタースピードを変更する。



ファインダー表示



3 ピントを合わせて撮影する。

適正露出になるように、絞り値が自動的に設定される。

撮影のテクニック

- シャッタースピードを遅くして撮るときは、三脚を使う。
- 室内スポーツを撮影するときは、ISO感度を高くする。

ご注意

- シャッタースピード優先モードでは、 (手ブレ警告)は表示されません。
- ISO感度は高くするほど、ノイズは増えます。
- [長秒時NR]を[入]にしているときは、シャッタースピードを1秒または1秒より遅くして撮影(長時間露光)すると、シャッターを開けていた時間と同時間のノイズ軽減処理をします。処理中は撮影できません。

M マニュアル露出

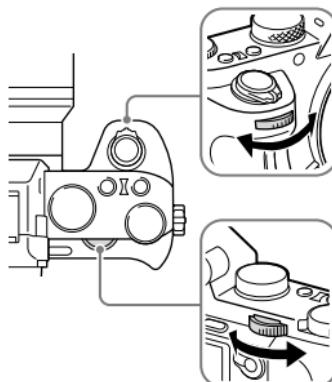
こんなときに適しています

- 絞り値とシャッタースピードの両方を調節して、自分の好みの露出で撮る。

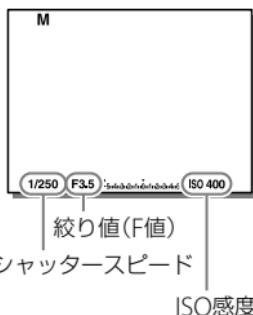
1 モードダイヤルを「M」にする。

2 前/後ダイヤルを回して、シャッタースピードと絞り値を調整する。

- (カスタム設定) → [ダイヤルの設定] で前/後ダイヤルの設定を変更できます。
- マニュアルモードでもISOを[ISO AUTO]に設定できます。ISOを[ISO AUTO]に設定したときには、設定した絞り値とシャッタースピードで適正露出になるようにISO感度が変化します。
- ISOが[ISO AUTO]のとき、設定した値で適正露出にならないと本機が判断した場合は、ISO感度が点滅します。この場合はシャッタースピードまたは絞り値を変更します。



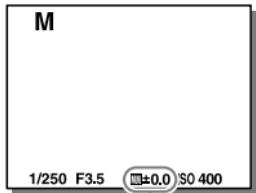
ファインダー表示



3 露出を合わせて撮影する。

- ISO感度を[ISO AUTO]以外にしたときは、メータードマニュアル*で露出値を確認します。
+側：明るく写る
-側：暗めに写る
- * Mモード設定時、適正露光に対するアンダー／オーバーを示します。モニターでは数値で、ファインダーでは測光インジケーターに-2～+2の範囲で表示される。

モニター表示



メータードマニュアル

ファインダー表示



メータードマニュアル

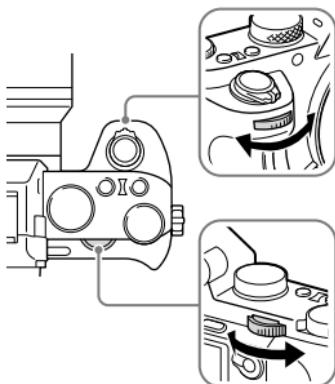
ご注意

- マニュアルモードでは、（手ブレ警告）は表示されません。

マニュアルシフト

設定した露出のまま、シャッタースピードと絞り値の組み合わせを変更できます。

AF/MF/AEL切換レバーをAELにして、AELボタンを押しながら前/後ダイヤルを回し、絞り値とシャッタースピードの組み合わせを選んでください。

AF/MF/AEL切換レバー /
AELボタン

M バルブ撮影

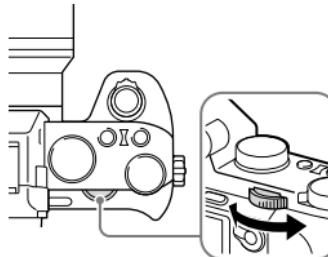
こんなときに適しています

- 花火の光が尾を引くような画像を撮る。
- 星の軌跡を撮る。

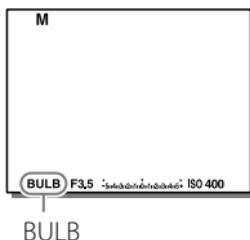
1 モードダイヤルを「M」にする。

2 後部ダイヤルを[BULB]が出るまで左に回す。

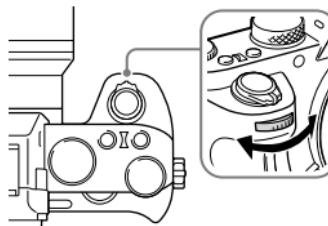
- ISOが[ISO AUTO]のとき、[BULB]に設定すると、ISO感度はISO AUTOの下限値に固定される。



ファインダー表示



3 前部ダイヤルで絞り値(F値)を選ぶ。



4 シャッターボタン半押しでピントを合わせる。

5 必要な時間、シャッターを押し続けて撮影する。

シャッターを押し続けている間、シャッターが開いたままになる。

撮影のテクニック

- 三脚に取り付けて撮影する。
- 打ち上げ花火などのときは、マニュアルフォーカスにしてピントを無限遠にする。無限位置がわからないレンズの場合は、同じような場所に上がる花火であらかじめピントを決めて撮影する。

ご注意

- 露光時間が長いほど、画面内のノイズは目立ちやすくなります。
- 画質を低下させずにバルブ撮影を行うためには、本機の温度が下がった状態で撮影を開始することをおすすめします。
- 撮影後はシャッターが開いていた時間分だけ、ノイズ軽減処理(長秒時ノイズリダクション)が行われます。処理中は撮影できません。画質よりも撮影タイミングを優先する場合は、[長秒時NR]を[切]にしてください(164ページ)。
- 以下の機能を使用しているときは、[BULB]に設定できません。また[BULB]に設定しているときに以下の機能を使うと、シャッタースピードは一時的に30秒になります。
 - [スマイルシャッター]
 - [オートHDR]
 - [マルチショットNR]
 - [ピクチャーエフェクト]の[絵画調HDR]、[リッチトーンモノクロ]
 - [ドライブモード]の[連続撮影]、[セルフタイマー(連続)]、
[連続ブラケット]
- 画像がブレやすくなるため、三脚や、シャッターボタンのロック機能を持つリモートコマンダー* (別売)のご使用をおすすめします。

* リモートコマンダーはマルチ/マイクロUSB端子での接続に対応したものをお使いください。

撮影モードごとの設定可能機能

選んでいる撮影モードによって、設定できない機能があります。

○は選択可能、×は選択不可能を表しています。

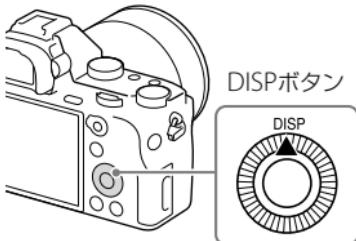
撮影モード		露出補正 (116)	セルフタイマー (123)	連続撮影 (122)	顔検出 (154)	スマイルシャッター (159)	オートフレーミング (157)
AUTO (78)		×	○	○	○	○	○
SCN (80)		×	○	×	○	○	○
		×	×	○	○	○	×
		×	○	×	○	○	○
		×	○	×	×	×	○
		×	○	×	×	×	○
		×	○	×	×	×	○
		×	○	×	×	×	○
		×	×	×	○	×	×
		×	×	×	○	○	○
■ (83)		○	×	×	×	×	×
P (87)		○	○	○	○	○	○
A (88)		○	○	○	○	○	○
S (89)		○	○	○	○	○	○
M (91)		×*	○	○	○	○	○
■■ (169)		○*	×	×	○	×	×

* 撮影モード「M」のときは、ISOが[ISO AUTO]のときのみ露出補正が可能です。

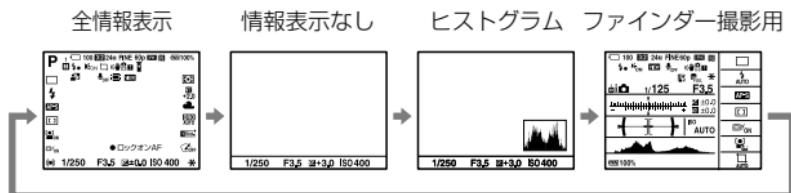
画面の表示を変える(DISP)

撮影情報画面の表示は、お買い上げ時はコントロールホイールのDISPを押すたびに下記のように切り替わります。

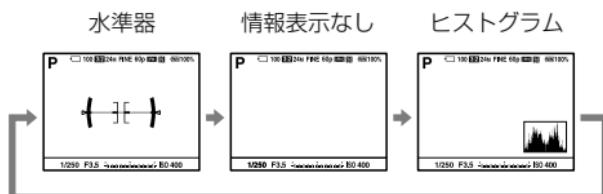
ファインダー表示を変更する場合は、ファインダーをのぞきながらDISPを押してください。



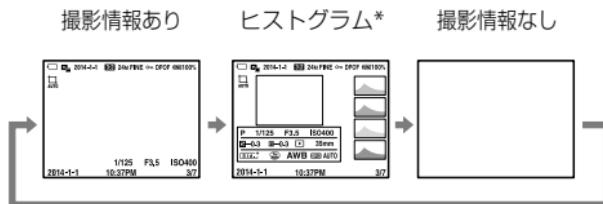
撮影時(モニター)



撮影時(ファインダー)



再生時(モニター／ファインダー)



* 画像に白とびまたは黒つぶれの箇所がある場合、ヒストグラム画面の画像の該当箇所が点滅します(白とび黒つぶれ警告)。

再生時の設定は、オートレビューでも反映されます。

使用する画面表示を選ぶ

使用する画面表示を選ぶことができます。コントロールホイールの DISPを押して画面を切り換えると、選択した画面のみが表示されます。モニターとファインダーは別に設定できます。

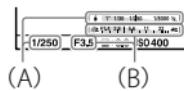
1 MENUボタン → ⚙ (カスタム設定) → [DISPボタン] →
[背面モニター]または[ファインダー]を選ぶ。

2 コントロールホイールの▲/▼/◀/▶で希望の画面を選んで、中央の●を押す。

3 希望の画面を選び、[実行]を選んで中央の●を押す。

グラフィック表示	<p>シャッタースピードと絞り値をグラフィカルに表現し、露出の仕組みをわかりやすくイメージ化して表現する。</p> <p>シャッタースピードインジケーター (A) / 絞りインジケーター (B) のバーが現在の値を指す。</p>
全情報表示	撮影画面にすべての情報を表示する。
情報表示なし	撮影画面に情報を表示しない。
ヒストグラム	ヒストグラムを表示する(99ページ)。
水準器	<p>カメラの前後左右の傾きを指標で示す。水平、平衡状態のときは、表示が緑色になる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 本機を前または後に大きく傾けると、水準器の誤差が大きくなる。 傾きがほぼ補正された状態でも±1°程度の誤差が生じることがある。
ファインダー撮影用*	ファインダーをのぞいて撮影するスタイルに適した表示になる(27ページ)。

* [背面モニター] 時のみ選択可能。

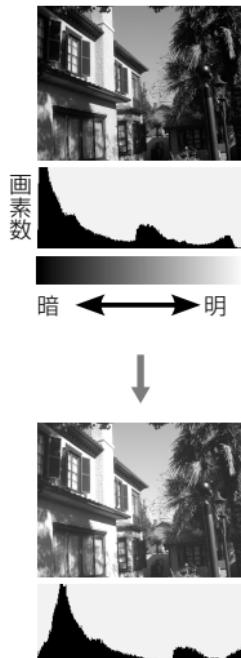


ヒストグラム

ヒストグラムとは輝度分布のことです、どの明るさの画素がどれだけ存在するかを表します。

露出補正をかけると、ヒストグラムもそれに応じて変化します。

ヒストグラムの左右両端のデータは、白とび/黒つぶれした部分があることを表しています。このような部分は、撮影後、画像をパソコンで補正しても再現することはできません。必要に応じて露出補正をしてから撮影してください。



画面の表示を変える

ご注意

- ・ヒストグラムは、撮影結果ではなく、画面で見ている画像のヒストグラムになります。絞り値などにより結果が異なります。
- ・撮影時と再生時のヒストグラムは、下記のとき大きく異なります。
 - フラッシュ発光したとき
 - 夜景などの低輝度な被写体のとき

ライブビューの見えかたを変更する

ライブビューに各種設定を反映させた表示をするかどうかを設定できます。

MENUボタン→ (カスタム設定) → [ライブビュー表示] → 希望の設定を選ぶ。

設定効果反映On	すべての設定を反映させ、撮影結果に近い状態でライブビューを表示する。撮影結果をライブビュー画面で確認しながら撮影する場合に有効。
設定効果反映Off	露出やホワイトバランス、クリエイティブスタイル、ピクチャーエフェクトなどの設定を反映せずにライブビュー表示をする。エフェクトをかけて撮影する場合などにも、見やすい状態でライブビューが表示され、構図確認が容易になる。

ご注意

- 撮影モードが[おまかせオート]、[プレミアムおまかせオート]、[スイングパノラマ]、[動画]、[シーンセレクション]のときは[設定効果反映Off]に設定できません。
- [設定効果反映Off]に設定時は、表示されるライブビューと撮影した画像の明るさなどが一致しません。

撮影のテクニック

- スタジオフラッシュなど他社製フラッシュを使用時には、設定されたシャッタースピードによってライブビューが暗くなる場合がある。ライブビュー表示を[設定効果反映Off]に設定することで、ライブビューが明るく表示され、構図確認が容易になる。

ピントを合わせる

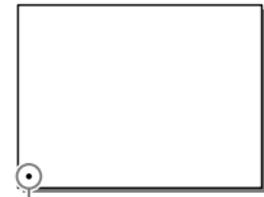
ピント合わせには、オートフォーカスを使う方法と手動で合わせる方法(マニュアルフォーカス)があります。

オートフォーカス

1 MENUボタン →  (撮影設定) → [フォーカスマード] → [シングルAF]または[コンティニュアスAF]を選ぶ。

2 シャッターボタンを半押しして、
ピントの状態を確認して撮影す
る。

- ピントが合うと、フォーカス表示が●
または○(102ページ)になる。
- 下記のときは、ピントが合ったフォー
カスエリアが緑色になる。
 - [フォーカスマード]が
[シングルAF]のとき
 - [フォーカスマード]が
[コンティニュアスAF]で、
[コンティニュアスAFエリア表示]
が[入]、または[フォーカスエリア]
が[中央]または
[フレキシブルスポット]のとき



フォーカス表示

AF-S (シングルAF)	シャッター ボタン を半押ししてピントが合 うと、ピントはそこで固定される。
AF-C (コンティニュアスAF)	シャッター ボタン を半押ししている間中、ピ ントを合わせ続ける。 <ul style="list-style-type: none"> • ピントが合ったときの電子音は鳴らない。 • フォーカスロックはできない。

撮影のテクニック

- 動きのない被写体では、[シングルAF]を使う。
- 動いている被写体にピントを合わせるときは、
[コンティニュアスAF]を使う。
- ピント合わせに使うフォーカスエリアを選びたいときは、
[フォーカスエリア]で設定する(104ページ)。

フォーカス表示の意味

フォーカス表示	状況
●点灯	ピントが合って固定されている。
(○)点灯	ピントが合っている。被写体の動きに合わせてピント位置が変わる。
(○)点滅	ピント合わせの途中。
●点滅	ピントが合っていない。

ピントが合いにくい被写体

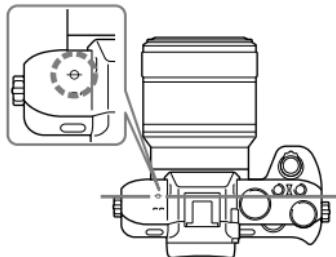
下記のときは、ピントが合いにくい場合があります。

- 被写体が遠くて暗い
- 被写体と背景のコントラストが弱い
- ガラス越しの被写体
- 高速で移動する被写体
- 鏡や発光物など反射、光沢のある被写体
- 点滅する被写体
- 逆光になっている被写体
- フォーカスエリアの中に距離の異なるものが混じっているとき
- ビルの外観など、繰り返しパターンの連続するもの

撮影距離を正確に測るには

本機上面の \ominus マークがイメージセンサー*面の位置となります。本機から被写体までの距離を正確に測るには、この線の位置を参考にしてください。

* イメージセンサー：光を電気信号に変える部分



ご注意

- お使いのレンズの最短撮影距離よりも近いものにはピントが合いません。撮りたいものに近づきすぎていなか、確認してください。

フォーカスロック

1 ピントを合わせたい被写体に
フォーカスエリアを合わせ、
シャッターボタンを半押しする。

- ピントが固定される。
• [フォーカスモード]を[シングルAF]
にする。



2 シャッターボタンを半押しした
まま、撮りたい構図に戻す。



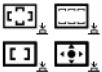
3 シャッターボタンを押し込んで撮影する。

フォーカスエリア

ピント合わせの位置を変更します。

ピントが合いにくいときなどに使います。

MENUボタン →  (撮影設定) → [フォーカスエリア] → 希望の項目を選ぶ。

 (ワイド)	モニター全体を基準に自動でピントを合わせる。
 (ゾーン)	モニター上でピントを合わせたいゾーンの位置を選ぶと、その中で自動でピントを合わせる。
 (中央)	常に中央部のフォーカスエリアでピントを合わせる。
 (フレキシブルスポット)	モニター上の好きなところに測距枠を移動し、非常に小さな被写体や狭いエリアを狙ってピントを合わせる。 フレキシブルスポット画面で、コントロールホイールを回して、測距枠のサイズを変更できる。
 (ロックオンAF)	シャッターボタンを半押しすると、選択されたAFエリアから被写体を追尾する。 フォーカスエリア設定画面でロックオンAFにカーソルを合わせて、◀/▶でロックオンAFの開始エリアを変更できる。 追尾開始エリアをフレキシブルスポットにすると、好きなところに追尾開始エリアを移動することもできる。

ご注意

- 撮影モード[おまかせオート]、[プレミアムおまかせオート]、シーンセレクション時、またはロックオンAF中、スマイルシャッター使用時は[ワイド]に固定され、他のフォーカスエリアに変更できません。
- 連続撮影時やシャッターボタンを一気に押し込んだときなどには、フォーカスエリアが点灯しないことがあります。

位相差AFについて

使用するオートフォーカスエリア内に位相差AF測距点があると、位相差AFとコントラストAFをかけ合わせたオートフォーカスになります。

ご注意

- 絞り値がF9.0以上のときは、位相差AFを使用できません。コントラストAFのみになります。

- 位相差AFは、対応レンズでのみ使用できます。

また、過去にご購入されたレンズなどでは、対応レンズであっても、レンズをアップデートしないと位相差AFが動作しない場合があります。対応レンズは、専用サポートサイトでご確認ください。

<http://www.sony.jp/support/ichigan/>

- マウントアダプター（別売）を使用して、Aマウントレンズ（別売）を装着した場合、本機の位相差AFを使用できません。

中央ボタン押しロックオンAF

被写体が動いても、被写体を追尾し続けます。

1 MENUボタン →  (撮影設定) →
[中央ボタン押しロックオンAF] → [入]を選ぶ。

2 ターゲット枠を被写体に合わせて、コントロールホイール中央の●を押す。

追尾を解除する場合は、もう一度●を押す。

- 被写体を見失っても、再度被写体が現れると発見し復帰することができます。

3 シャッターボタンを押し込み撮影する。

ご注意

- 以下のときは、ロックオンAF機能がうまく働かないことがあります。
 - 動きが速すぎる被写体
 - 小さすぎる、または大きすぎる被写体
 - 被写体と背景が同系色
 - 暗いシーン
 - 明るさが変わるシーン
- 以下のときは、ロックオンAF機能は働きません。
 - 撮影モードが[スイングパノラマ]
 - 撮影モードが[シーンセレクション]の[手持ち夜景]または
[人物ブレ軽減]
 - マニュアルフォーカス
 - デジタルズーム中
- 追尾している被写体が画面から消えると、ロックオンAFは解除されます。
- ロックオンAFを開始すると、[フォーカスエリア]は自動的に[ワイド]に固定されます。
- [中央ボタン押しロックオンAF]を[入]にしているときは、追尾している被写体を見失って一定期間経過後は復帰できないことがあります。

シャッターボタン以外でAFを行う(AFオン)

シャッターボタンを半押ししなくても、他のボタンでピント合わせができます。

オートフォーカスの設定は[フォーカスマード]で設定しているモードになります。

[AFオン]を登録したボタンを押す。

あらかじめ、[カスタムキー設定]でお好みのボタン*の機能に[AFオン]を登録しておく。

* フォーカスホールドボタン、AELボタン、AF/MFボタン、カスタムボタン1、カスタムボタン2、カスタムボタン3、カスタムボタン4、中央ボタンの中から選ぶ。

撮影のテクニック

- シャッターボタンでピント合わせをしたくない場合は、
[図]シャッターハーフ押しAF]を[切]にする。

図AF補助光

暗い場所でピントを合わせるために使う補助光を設定できます。

MENUボタン → (撮影設定) → [図AF補助光] → 希望の設定を選ぶ。

ご注意

- [フォーカスマード]が[コンティニュアスAF]のときは、AF補助光は発光しません。
- マウントアダプター(別売)を使用しているときは、AF補助光は発光しません。

AF微調整

マウントアダプターLA-EA2、LA-EA4(別売)装着時、レンズごとにピント合わせの位置を調整し、登録できます。

この操作は必要な場合のみ行ってください。誤って設定すると、適切にピントが合わせられなくなる場合がありますのでご注意ください。

MENUボタン → (カスタム設定) → [AF微調整] → [AF微調整設定] → [入] → [調整値] → 希望の調整値を選ぶ。

- 値を大きくすると、ピントが合う位置がカメラから遠ざかる。値を小さくすると、ピントが合う位置がカメラに近づく。

ご注意

- ・調整は実際に撮影する環境で行うことをおすすめします。
- ・すでに登録されたレンズを装着しているときには、登録された調整値が表示されます。未登録レンズの場合は[±0]が表示されます。調整値が[−]と表示される場合は、すでに登録したレンズが30種になっており、これ以上登録はできません。新たに登録するには、登録削除するレンズを装着し、調整値を[±0]にするか、[調整値クリア]ですべての登録された調整値をリセットしてください。
- ・[AF微調整]はソニー、ミノルタ、コニカミノルタ製レンズに対応しています。非対応レンズで[AF微調整]を行うと、対応レンズの調整値に影響が出る場合があります。非対応レンズでは調整を行わないでください。
- ・ソニー、ミノルタ、コニカミノルタで同じ仕様のレンズをお使いの場合、個々に[AF微調整]の設定はできません。

【】プリAF

Eマウントレンズ使用時にシャッター半押し前に、カメラが自動でピントを合わせます。

MENUボタン→✿(カスタム設定)→【】プリAF]→[入]を選ぶ。

位相差AFエリア表示

位相差AF測距点を表示するかしないかを設定します。

MENUボタン→✿(カスタム設定)→[位相差AFエリア表示]→希望の設定を選ぶ。

ご注意

- 絞り値がF9.0以上のときは、位相差AFを使用できません。コントラストAFのみになります。
- 位相差AFは、対応レンズでのみ使用できます。

また、過去にご購入されたレンズなどでは、対応レンズであっても、レンズをアップデートしないと位相差AFが動作しない場合があります。対応レンズは、専用サポートサイトでご確認ください。

<http://www.sony.jp/support/ichigan/>

- マウントアダプター（別売）を使用して、Aマウントレンズ（別売）を装着した場合、本機の位相差AFを使用できません。
- 動画撮影時は、位相差AFが動作しません。位相差AF測距点は表示されません。

コンティニュアスAFエリア表示

コンティニュアスAF時に、フォーカスエリアで[ワイド]または[ゾーン]を選んでいるとき、ピントが合ったフォーカスエリアを表示するかしないかを設定します。

MENUボタン → ⚭（カスタム設定）→
[コンティニュアスAFエリア表示] → 希望の設定を選ぶ。

ご注意

- [フォーカスエリア]が[中央]または[フレキシブルスポット]のときは、[コンティニュアスAFエリア表示]の設定にかかわらず、ピントを合わせたあとはエリアの測距枠が緑色に点灯します。

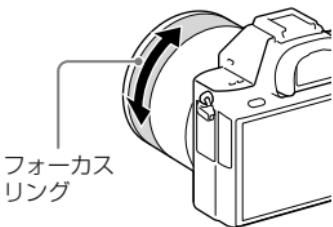
マニュアルフォーカス

オートフォーカスが効きにくいときは、手動でピントを合わせると便利です。

1 MENUボタン →  (撮影設定) → [フォーカスマード] → [マニュアルフォーカス] を選ぶ。

2 レンズのフォーカスリングを左
右に回して、被写体が最もはっきり
見えるようにする。

- フォーカスリングを回すと、ピント位置までの距離の目安が画面に表示されます。マウントアダプター（別売）使用時は、表示されません。



ご注意

- ファインダー使用時は、視度調整が正しくないと、ファインダー上の正確なピントが得られません。

ピントが合った部分を強調表示する(ピーキング)

マニュアルフォーカス撮影のときに、ピントが合った部分の輪郭を指定した色で強調表示します。微細なピント合わせが必要とされるマクロやポートレート撮影に便利です。

ピーキングのレベルとピーキングの色を設定することができます。

MENUボタン →  (カスタム設定) → [ピーキングレベル] → 希望の設定を選ぶ。

ご注意

- 画像のシャープな部分をピントが合ったと判断するため、被写体やレンズによって強調表示効果が異なります。
- HDMI接続時はピーキングが表示されません。

ピーキングの色を設定するには

ピントが合った部分の輪郭を強調するピーキングの色を設定します。

MENUボタン →  (カスタム設定) → [ピーキング色] → 希望の設定を選ぶ。

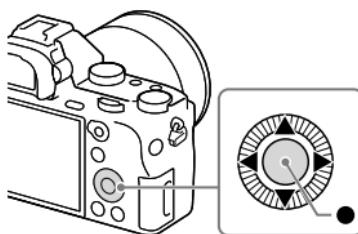
ピント拡大

マニュアルフォーカス時に撮影前の画像を拡大してピントの確認ができます。

1 MENUボタン →  (撮影設定) → [ピント拡大] を選ぶ。

2 コントロールホイール中央の●を押して画像を拡大し、
▲/▼/◀/▶で拡大位置を調整する。

- ズーム倍率は、中央の●を押すたびに下記のように変わります。
フルサイズ時：約5.9倍 → 約11.7倍
APS-Cサイズ時：約3.8倍 → 約7.7倍



3 ピントの確認、調整をする。

-  (削除)ボタンを押すと拡大位置が中央に戻ります。
- シャッター半ボタンを半押しすると、拡大表示は解除されます。
- 拡大表示する時間は、MENUボタン →  (カスタム設定) → [ピント拡大時間] で設定できます(44ページ)。

4 シャッターボタンを押し込み撮影する。

- 拡大表示中にシャッターボタンを押しても撮影できますが、記録される画像は全体表示の範囲になります。
- 撮影後、拡大表示は解除されます。

ダイレクトマニュアルフォーカス(DMF)

オートフォーカスでピントを合わせたあと、手動で微調整できます(ダイレクトマニュアルフォーカス)。

最初からマニュアルフォーカスでピントを合わせるよりもすばやくピント合わせができ、マクロ撮影などに便利です。

1 MENUボタン →  (撮影設定) → [フォーカスマード] → [DMF]を選ぶ。

2 シャッターボタンを半押ししてピントを合わせる。

3 シャッターボタンを半押ししたまま、フォーカスリングを回してピントを調整する。

- フォーカスリングを回すと、ピント位置までの距離の目安が画面に表示されます。マウントアダプター(別売)使用時は、表示されません。

MFアシスト

マニュアルフォーカスマードやダイレクトマニュアルフォーカスマードでピント合わせをするときに、画像を自動で拡大表示してピントを合わせやすくします。

1 MENUボタン →  (カスタム設定) → [MFアシスト] → [入]を選ぶ。

2 フォーカスリングを回してピントを合わせる。

画像が拡大される。拡大倍率は、コントロールホイール中央の●を押すたびに以下のように変わる。

フルサイズ時：約5.9倍 → 約11.7倍

APS-Cサイズ時：約3.8倍 → 約7.7倍

- 拡大表示する時間は、MENUボタン →  (カスタム設定) → [ピント拡大時間]で設定できます(44ページ)。

ご注意

- 動画撮影のとき、[MFアシスト]は使用できません。
- [MFアシスト]は、Eマウントレンズでのみ使用できます。

AF/MFコントロール

撮影中にカメラのホールディングを崩すことなく、オートフォーカスとマニュアルフォーカスを簡単に切り換えることができます(AF/MFコントロール)。

AF/MF/AEL切換レバーをAF/MFに合わせて、AF/MFボタンを押す。

オートフォーカスのとき：一時にマニュアルフォーカスになる。

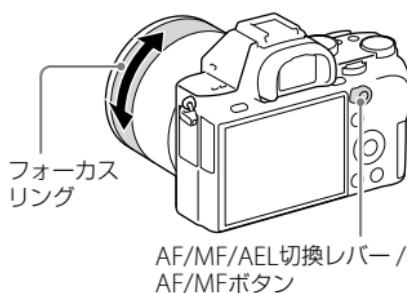
AF/MFボタンを押したまま、

フォーカスリングを回してピントを合わせる。

マニュアルフォーカスのとき：

AF/MFボタンを押している間、一時にオートフォーカスになり、ピントが固定される。

-  (カスタム設定)メニューの[カスタムキー設定] → [AF/MFボタン]で[再押しAF/MFコントロール]を選ぶと、ボタンを押し続けなくても変更したモードを維持できます(205ページ)。



フォーカスセット

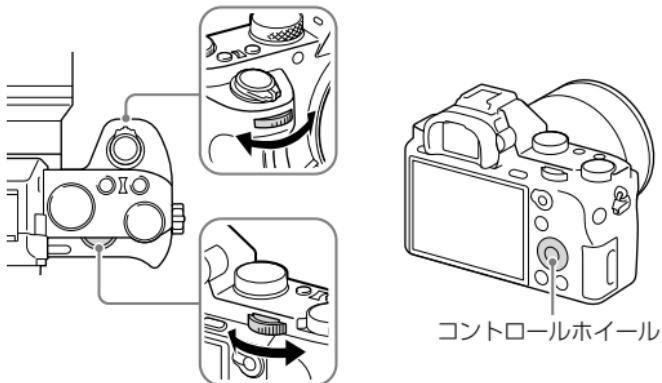
前ダイヤル、後ダイヤルとコントロールホイールでピント合わせに関する設定を行います。

1 MENUボタン →  (撮影設定) → [フォーカスセット] を選ぶ。

2 前ダイヤル、後ダイヤル、コントロールホイールで設定する。

オートフォーカスまたはDMFのとき

コントロールホイールで[フォーカスエリア]を設定し、前/後ダイヤルで[フォーカスエリア]の位置を設定する。

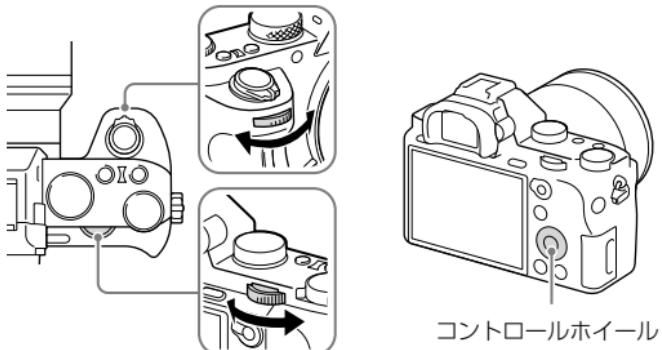


ご注意

- 前/後ダイヤルは、[フォーカスエリア]が以下の設定のときに有効です。
 - ゾーン
 - フレキシブルスポット
 - ロックオンAF : ゾーン
 - ロックオンAF : フレキシブルスポット

マニュアルフォーカスのとき

前ダイヤルかコントロールホイールで拡大位置を縦方向に移動し、後ダイヤルで横方向に移動する。



瞳AF

ボタンを押している間、人物の目にピントを合わせます。目にピントが合うと、一定時間、目に枠が表示されます。

[瞳AF]を登録したボタンを押す。

- お買い上げ時の設定では、[カスタムキー設定]の[中央ボタン]に[瞳AF]が登録されています。他のボタンに登録したいときは、[カスタムキー設定]で設定してください。

ご注意

- 状況によっては、目にピントが合わせられない場合があります。目にピントが合わせられないときは、顔を検出して顔にピントを合わせます。
- 人物の顔を検出できない場合、[瞳AF]は使用できません。
- [フォーカスモード]を[コンティニュアスAF]または[マニュアルフォーカス]に設定しているときなど、状況によっては使用できない場合があります。
- 以下のときは、[瞳AF]がうまく働かないことがあります。
 - メガネ(サングラス)をかけた状態
 - 前髪がかかった状態
 - 低照度、逆光時
 - 目を閉じた状態
 - 影がかかった状態
 - ピントが大きくずれた状態

露出補正

通常は、露出が自動的に設定されます（自動露出）。自動露出で設定された露出値を基準に、+側に補正すると、画像全体を明るく、-側に補正すると、画像全体を暗くできます（露出補正）。

MENUで設定するには

露出補正ダイヤルが0のときに、-5.0EV～+5.0EVの間で設定できます。

1 露出補正ダイヤルを0に合わせる。

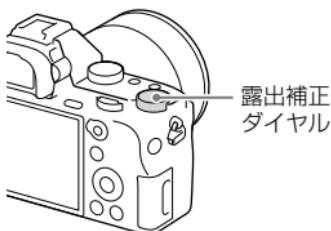
2 MENUボタン →  (撮影設定) → [露出補正] → 希望の設定を選ぶ。

露出補正ダイヤルで設定するには

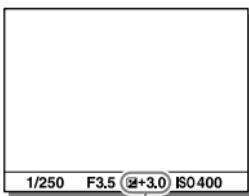
-3.0EV～+3.0EVの間で設定できます。

1 露出補正ダイヤルを回す。

- +（オーバー）側：画像が明るくなる。
- （アンダー）側：画像が暗くなる。

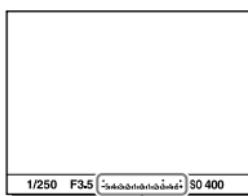


モニター表示



露出補正值

ファインダー表示



露出補正值

2 ピントを合わせて撮影する。

撮影のテクニック

- 撮影した画像を見て補正值を調整する。
- ブラケット撮影機能を使うと、露出値を前後にずらした複数枚の画像が撮影できる(125ページ)。

ご注意

- 撮影モードが[おまかせオート]、[プレミアムおまかせオート]または[シーンセレクション]のときは、露出補正できません。
- 撮影モードが「M」のときは、[ISO AUTO]のときのみ露出補正が可能です。
- 露出補正ダイヤルとメニューの[露出補正]、[ダイヤル露出補正]では、露出補正ダイヤルの設定が優先されます。
- 撮影時に画面で確認できる数値は-3.0EVから+3.0EVまでです。その範囲外に設定した場合は、撮影時の画面では明るさは変わりませんが、記録した画像には反映されます。

前ダイヤルまたは後ダイヤルで露出を補正するには

露出補正ダイヤルが0のときに、前ダイヤルまたは後ダイヤルで露出を補正できます。

-5.0EV～+5.0EVの間で設定できます。

MENUボタン → ⚙ (カスタム設定) → [ダイヤル露出補正] → 希望の設定を選ぶ。

ご注意

- 前ダイヤルまたは後ダイヤルに露出補正を割り当てると、元々割り当てられていた機能は、露出補正を割り当てていないほうのダイヤルで操作できます。

露出補正の影響を変えるには

フラッシュの調光にも反映するか、定常光だけに反映するか設定できます。

MENUボタン → ⚙ (カスタム設定) → [露出補正の影響] → 希望の設定を選ぶ。

[露出補正]を覚えておくには

電源を切ったときに、露出値を0にするか、[露出補正]で設定していた値を覚えておくかを設定できます。

MENUボタン →  (カスタム設定) → [露出補正值のリセット] → 希望の設定を選ぶ。

明るさを確認しながら調節するには

画面に映る画像の中で、設定した輝度レベル部分にしま模様が表示されます。明るさを調節するときの目安にすると便利です。

MENUボタン →  (カスタム設定) → [ゼブラ] → 希望の設定を選ぶ。

AEロック

逆光や窓際などでの撮影で、背景と被写体に大きな明暗の差がある場合は、被写体が適正な明るさになる箇所で測光し、露出を固定して撮影します。被写体の明るさを抑えたいときは被写体よりも明るい箇所で測光し、被写体をより明るくしたいときは被写体よりも暗い箇所で測光し、画面全体の露出を固定します。

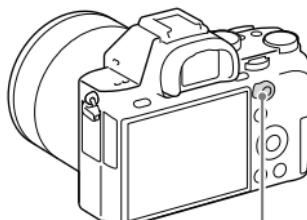
ここでは、測光モードを  (スポット)にして撮る例で説明します。

1 MENUボタン →  (撮影設定) → [測光モード] → [スポット]を選ぶ。

2 露出を合わせる箇所に、ピントを合わせる。

3 AF/MF/AEL切換レバーをAELに合わせ、AELボタンを押して、露出を固定する。

- * (AEロックマーク)が点灯する。
- ・測光インジケーターには、固定された露出を基準にしたスポット測光サークル内の測光値も表示される。



AF/MF/AEL切換レバー/
AELボタン

明るさを調整する

• 1/500 F4.5 ±0.0 ISO 400 (*)

4 AELボタンを押したまま、撮影したい被写体にピントを合わせ、撮影する。

- ・露出値を一定に保ったまま連続で撮影するときは、撮影後もAELボタンを押したままにする。指を離すと露出固定は解除される。
- ・  (カスタム設定)メニューの[カスタムキー設定] → [AF/MFボタン]で[再押しスポットAEL]を選ぶと、ボタンを押し続けなくても変更したモードを維持できる。

測光モード

MENUボタン →  (撮影設定) → [測光モード] → 希望の設定を選ぶ。

 (マルチ)	複数に分割した画面を各エリアごとに測光し、画面全体の最適な露出を決定する。
 (中央重点)	画面の中央部に重点をおきながら、全体の明るさを平均的に測光する。
 (スポット)	中央部のスポット測光サークル内のみで測光を行う。

撮影のテクニック

- 一般的な撮影では、[マルチ]を使う。
- フォーカスエリア内に明暗の差が大きい被写体がある場合は、適正な明るさで写したい被写体の露出をスポット測光で測って、AEロック撮影をする(119ページ)。

ご注意

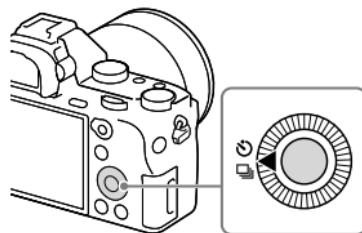
- 以下の場合、測光モードは[マルチ]に固定され、他の測光モードに変更できません。
 - 撮影モードが[おまかせオート]、[プレミアムおまかせオート]または[シーンセレクション]
 - 光学ズーム以外のズームを使用しているとき

♪/□ ドライブモードを選ぶ

1枚撮影、連写、ブラケット撮影など、撮影の目的に合わせて使用してください。

**コントロールホイールの ♪/□
(ドライブモード) → 希望の
モードを選ぶ。**

- コントロールホイールに他の機能が設定されている場合は、MENUボタン →  (撮影設定) → [ドライブモード] → 希望の設定を選ぶ。



□ (1枚撮影) (122)	通常の撮影方法。
□ (連続撮影) (122)	シャッター <button>ボタン</button> を押している間、連続して撮影する。[Hi]または[Lo]から速度を選ぶ。
♪ (セルフタイマー)(123)	10秒セルフタイマーは撮影者も一緒に写真に入るときに、2秒セルフタイマーは撮影の際のカメラブレを和らげるのに使う。
♪c (セルフタイマー (連続))(124)	10秒後にセルフタイマーで指定した枚数を連続撮影する。3枚または5枚から撮影枚数を選ぶ。
BRK C (連続ブラケット)(125)	露出を段階的にずらして、指定した枚数の画像を記録する。
BRK S (1枚ブラケット)(125)	露出を段階的にずらして、指定した枚数の画像を1枚ずつ撮影する。

BRK WB (ホワイトバランスブラケット)(127)	選択されているホワイトバランス、色温度、カラーフィルターの値を基準に、段階的にずらして、合計3枚の画像を記録する。[Lo]または[Hi]からずらす値の幅を選ぶ。
BRK DRO (DROブラケット)(127)	Dレンジオプティマイザーの値を段階的にずらして、合計3枚の画像を記録する。[Lo]または[Hi]からずらす値の幅を選ぶ。

1枚撮影

コントロールホイールの / (ドライブモード) → (1枚撮影) を選ぶ。

ご注意

- 撮影モードが[シーンセレクション]で[スポーツ]を選んでいるときは、1枚撮影できません。

連続撮影

1 コントロールホイールの / (ドライブモード) → (連続撮影) を選ぶ。

2 コントロールホイールの / で希望のモードを選ぶ。

- シャッターボタンを深く押し込んでいる間、撮影が続く。

ご注意

- 以下のは、連続撮影ができません。
 - 撮影モードが[スイングパノラマ]
 - 撮影モードが[シーンセレクション]の[スポーツ]以外
 - [ピクチャーエフェクト]が[ソフトフォーカス]、[絵画調HDR]、[リッチトーンモノクロ]、[ミニチュア]、[水彩画調]、[イラスト調]
 - [DRO/オートHDR]が[オートHDR]
 - [スマイルシャッター]使用時

撮影のテクニック

- 連続撮影中にピントと露出を合わせ続けるには、以下の設定に変更する。
 - [フォーカスマード]を[コンティニュアスAF]にする。
 - [シャッター半押しAEL]を[切]または[オート]にする。

セルフタイマー

1 コントロールホイールの \odot/\square (ドライブモード) →
 \odot (セルフタイマー)を選ぶ。

2 コントロールホイールの◀/▶で希望のモードを選ぶ。
• \odot の横の数値は、現在選択されているセルフタイマーの秒数。

3 ピントを合わせてシャッターボタンを押し込む。

- セルフタイマー作動中は、電子音とセルフタイマーランプで動作状況を知らせる。撮影直前になると、セルフタイマーランプの点滅と電子音が速くなる。

セルフタイマーを中止するには
コントロールホイールの を押す。

セルフタイマーを解除するには
 ボタンを押して (1枚撮影) を選ぶ。

撮影のテクニック

- セルフタイマー作動中の電子音を消すには、[電子音]を[切]にしてください(52ページ)。

セルフタイマー（連続）

1 コントロールホイールの (ドライブモード) → (セルフタイマー（連続）) を選ぶ。

2 コントロールホイールの / で希望のモードを選ぶ。
・ の横の数値は、現在選択されているセルフタイマーの撮影枚数。

3 ピントを合わせてシャッターボタンを押し込む。
・ セルフタイマー作動中は、電子音とセルフタイマーランプで動作状況を知らせる。撮影直前になると、セルフタイマーランプの点滅と電子音が速くなる。

セルフタイマー（連続）を中止するには
コントロールホイールの を押す。

セルフタイマー（連続）を解除するには
 ボタンを押して (1枚撮影) を選ぶ。

連続プラケット/1枚プラケット

露出を段階的にずらして撮影することをプラケット撮影といいます。基準の露出に対して、上下にずらす値の幅(段数)を指定すると、自動的に露出値をずらして合計3枚または5枚の画像を撮影します。



基準となる露出



-に補正



+に補正

1 コントロールホイールの (ドライブモード) → **BRK C**(連続プラケット)または **BRK S**(1枚プラケット)を選ぶ。

2 コントロールホイールの で希望の段数、枚数を選ぶ。

3 ピントを合わせて撮影する。

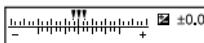
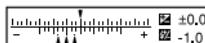
基準の露出は1枚目で設定される。

- ・[連続プラケット]の場合は、撮影が終わるまでシャッターボタンを押し続ける。
- ・[1枚プラケット]の場合は、1枚ずつシャッターボタンを押して撮影する。

ご注意

- 撮影モードが「M」で[ISO AUTO]のときはISO感度を変化させて露出値をずらします。撮影モードが「M」で[ISO AUTO]以外のときは、シャッタースピードを変化させて露出値をずらします。
- 露出値を補正しているときは、補正している露出を基準に、露出をずらして撮影されます。
- 撮影モードが以下の場合は、ブラケット撮影できません。
 - [おまかせオート]
 - [プレミアムおまかせオート]
 - [スイングパノラマ]
 - [シーンセレクション]
- フラッシュ発光時は[連続ブラケット]を選んでいても、調光量をずらして撮影するフラッシュブラケットになります。1枚ずつシャッターボタンを押して撮影してください。

ブラケット撮影時の測光インジケーター

	定常光*ブラケット 段数0.3段 3枚 露出補正±0.0段	フラッシュブラケット 段数0.7段 3枚 調光補正-1.0段
ファインダー		
モニター（ファインダー撮影用のとき）	 (上段に表示)	 (下段に表示)

* 定常光：自然光や電球・蛍光灯など、フラッシュ光以外の総称。フラッシュ光が一瞬だけ光るのに対し、常に一定して存在する光なのでこう呼ばれます。

- ブラケット撮影時には、ブラケット撮影枚数分の指標が測光インジケーターに表示されます。
- ブラケット撮影を開始すると、撮影済みの指標が順に消えていきます。

ホワイトバランスブラケット

1 コントロールホイールの \heartsuit/\spadesuit (ドライブモード) → **BRK WB**(ホワイトバランスブラケット)を選ぶ。

2 コントロールホイールの $\blacktriangleleft/\blacktriangleright$ で希望の設定を選ぶ。

- Loのときは $10MK^{-1}$ *、Hiのときは $20MK^{-1}$ の幅がずれる。

3 ピントを合わせて撮影する。

* MK^{-1} ：色温度変換フィルターの色温度変換能力を示すために用いられる単位(ミレッドと同じ値)。

DROブラケット

1 コントロールホイールの \heartsuit/\spadesuit (ドライブモード) → **BRK DRO**(DROブラケット)を選ぶ。

2 コントロールホイールの $\blacktriangleleft/\blacktriangleright$ で希望の設定を選ぶ。

- LoのときはDROLv1、Lv2、L3の画像が撮影される。HiのときはDROLv1、Lv3、L5の画像が撮影される。

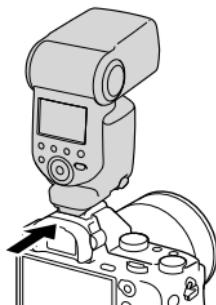
3 ピントを合わせて撮影する。

フラッシュ（別売）を使う

暗い場所での撮影では、フラッシュを使うと被写体を明るく写せ、手ブレを抑えるのにも役立ちます。また逆光などで被写体が暗くなる場合も、フラッシュにより、明るく写せます。フラッシュの使いかたについて詳しくは、フラッシュの取扱説明書をご覧ください。

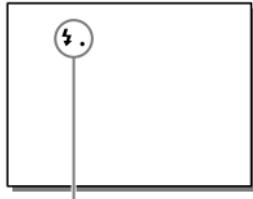
1 シューキャップをはずし、フラッシュ（別売）を取り付ける。

- マルチインターフェースキーに
しっかりと止まるまで、矢印の方向へ差
し込んでからロックする。取り付け
後にロックされていることを確認す
る。



2 フラッシュの電源を入れ、フラッシュの充電が完了したら、撮影す る。

- 点滅：フラッシュ充電中。
- 点灯：フラッシュの充電が完了。
- 暗所での撮影など、オートフォーカス
でピントが合いにくい状況でシャッ
ター ボタンを半押しすると、本機のAF
補助光が発光する。



（フラッシュ充電）表示

3 MENUボタン → （撮影設定）→ [フラッシュモード] → 希望の設定を選ぶ。

- 撮影モードごとの選択可能なフラッシュモードについては、132ページ
をご覧ください。

④ (発光禁止)	発光しない。
AUTO (自動発光)	光量不足/逆光と判断したとき発光する。
⚡ (強制発光)	必ず発光する。
SLOW (スローシンクロ)	必ず発光する。暗い場所ではシャッタースピードを遅くし、フラッシュが届かない背景も明るく撮影する。
⚡ REAR (後幕シンクロ)	露光が終わる直前のタイミングで必ず発光する。
⚡ WL (ワイヤレス)	フラッシュを本機に取り付けて撮影したときよりも被写体に陰影が付いて立体感を出すことができる。

ご注意

- フラッシュ光がレンズでさえぎられて、写真下部に影ができることがあります。レンズフードを取りはずしてください。

撮影のテクニック

- フラッシュ発光時は被写体から1 m以上離れて撮影する。
- 屋内での撮影や夜景撮影時、スローシンクロを使うと、人物と背景が明るく撮れる。
- 後幕シンクロを使って、走っている自転車など、動いている被写体を撮ると、動きの軌跡が自然な感じに撮れる。
- フラッシュ HVL-F60M (別売) /HVL-F43M (別売) /HVL-F32M (別売)を使うとシャッタースピード全域でフラッシュ撮影が可能なハイスピードシンクロ撮影ができる。詳しくは、フラッシュの取扱説明書をご覧ください。

赤目を軽減して撮るには

フラッシュ撮影時に目が赤くなるのを軽減する設定に変更できます。

MENUボタン →  (撮影設定) → [赤目軽減発光] → [入] にする。

ワイヤレスフラッシュ

-
- 1 シューキャップをはずし、HVL-F60M、HVL-F43M、
HVL-F32M、HVL-F20Mを取り付ける(128ページ)。
 - 2 取り付けたフラッシュをワイヤレスコントローラーに設定する。
 - 3 MENUボタン →  (撮影設定) → [フラッシュモード] →
 (ワイヤレス)を選ぶ。
 - 4 ワイヤレス設定した他のフラッシュを本機から離して設置する。
 - 5 テスト発光する場合は、本機のAF/MF/AEL切換レバーをAELにして、AELボタンを押す。
-

ご注意

- ワイヤレスフラッシュ撮影している別のカメラの信号光を、本機で設定したワイヤレスフラッシュが受信してフラッシュが発光してしまう場合は、フラッシュのチャンネルを変更してください。チャンネルの変更について詳しくは、フラッシュの取扱説明書をご覧ください。
- ワイヤレスフラッシュで撮影するには、コントローラーとワイヤレスフラッシュの2台のフラッシュが必要です。

AELボタンの設定について

ワイヤレスフラッシュご使用の際には、 (カスタム設定)の
[カスタムキー設定] → [AELボタン] (205ページ)を、[押す間AEL]に
設定しておくことをおすすめします。

ワイヤレス光量比制御について

対応する複数のフラッシュと組み合わせて、ワイヤレス光量比制御も行えます。詳しくはフラッシュ（HVL-F60M、HVL-F43M）の取扱説明書をご覧ください。

スローシンクロ

スローシンクロでシャッタースピードを遅くして撮ると、被写体だけでなく、背景も明るく撮れます。夜景を背景にしたフラッシュ撮影をする場合などに便利です。

MENUボタン → （撮影設定） → [フラッシュモード] → [スローシンクロ]を選んで、撮影する。

使用可能なフラッシュモード

設定している撮影モードや機能によって、選べるフラッシュモードが異なります。

○は対応可能、×は対応不可能を表しています。

選べないフラッシュモードはグレーで表示されます。

撮影モード		⌚ (発光 禁止)	AUTO (自動 発光)	⚡ (強制 発光)	⚡ SLOW (スロー シンクロ)	⚡ REAR (後幕 シンクロ)	⚡ WL (ワイヤ レス)
AUTO (78)		○	○	○	×	×	×
SCN (80)		○	○	○	×	×	×
		○	×	○	×	×	×
		○	○	○	×	×	×
		○	×	○	×	×	×
		○	×	○	×	×	×
		○	×	×	×	×	×
		○	×	×	×	×	×
		×	×	×	○	×	×
		○	×	×	×	×	×
□ (83)		○	×	×	×	×	×
P (87)		×	×	○	○	○	○
A (88)		×	×	○	○	○	○
S (89)		×	×	○	○	○	○
M (91)		×	×	○	○	○	○
■ (169)		○	×	×	×	×	×

調光補正

フラッシュ撮影時は、露出補正とは別に、フラッシュの発光量を調整することで、フラッシュ光が届く主被写体の露出を変更できます。

MENUボタン →  (撮影設定) → [調光補正] → 希望の数値を選ぶ。

+側：発光量を増やす。

-側：発光量を減らす。

ご注意

- 撮影モードが以下の場合は、調光補正是できません。
 - [おまかせオート]
 - [プレミアムおまかせオート]
 - [スイングパノラマ]
 - [シーンセレクション]
- 被写体がフラッシュ光の最大到達距離(調光距離)付近より遠くにあるときは、オーバー側(+側)の効果が出ないことがあります。また、近接撮影ではアンダー側(-側)の効果が出ないことがあります。

露出補正と調光補正の違い

露出補正では、シャッタースピード・絞り値・ISO感度(AUTOの場合)が変化することによって補正が行われます。

調光補正では、フラッシュの発光量のみが変化します。

FELロック

通常のフラッシュ撮影では被写体が最適露出になるようにフラッシュの発光量が自動的に調整されますが、あらかじめフラッシュの発光量を決めておくことができます。

FEL : Flash Exposure Level (フラッシュ露出レベル)の略

-
- 1 FELロックしたい被写体を中心にして、ピントを合わせる。



- 2 [再押しFELロック]を登録したボタンを押して、発光量を固定する。

- フラッシュがプリ発光する。
- (FELロックマーク)が点灯する。
- あらかじめ、MENUボタン → (カスタム設定) → [カスタムキー設定] → 希望のボタン → [再押しFELロック]を登録しておく。

-
- 3 摂りたい構図にして撮影する。

- FELロックを解除する場合は、もう一度 [再押しFELロック]を登録したボタンを押す。



FELロック対応フラッシュ

- HVL-F60M、HVL-F43M、HVL-F32Mはクリップオン、ケーブル接続したオフカメラ、ワイヤレス(コントローラー/リモート)撮影で使えます。
- HVL-F20Mはクリップオン、ケーブル接続したオフカメラ、ワイヤレス(コントローラー)撮影で使えます。

ご注意

- FELロックに対応していないフラッシュを装着した場合は、エラー表示が出ます。
- AEとFELを両方固定している場合は、が点灯します。

撮影のテクニック

- [押す間FELロック]を設定すると、ボタンを押している間だけ保持できる。
また、[押す間FELロック/AEL]、[再押しFELロック/AEL]に設定すると、以下のときはAEをロックして撮影できる。
 - [フラッシュモード]が[発光禁止]または[自動発光]のとき
 - フラッシュが発光できないとき

ISO感度を設定する

光に対する感度は、ISO感度(推奨露光指数)で表します。数値が大きいほど高感度になります。

MENUボタン →  (撮影設定) → [ISO感度] → 希望の設定を選ぶ。

- ISO感度が高くなるほど、ノイズが増える。
- [マルチショットNR]を選んだ場合は、コントロールホイールの▶で設定画面を表示して、▲/▼で希望の数値を選ぶ。
- 前ダイヤルを回すとコントロールホイールで選ぶのと同様に1/3段ずつ数値を変更できる。後ダイヤルを回すと1段ずつ数値を変更できる。

ご注意

- ISO100未満の領域は、記録できる被写体輝度の範囲(ダイナミックレンジ)が少し狭くなります。
- 撮影モードが以下の場合、ISO感度は[ISO AUTO]に固定され、変更できません。
 - [おまかせオート]
 - [プレミアムおまかせオート]
 - [スイングパノラマ]
 - [シーンセレクション]
- 撮影モードが「P」、「A」、「S」、「M」のとき、ISO感度を[ISO AUTO]にすると、設定された範囲内で自動設定されます。

ISO感度が[ISO AUTO]時に自動設定される範囲を変更するには

[ISO AUTO]を選択したときにコントロールホイールの▶を押して、[ISO AUTO 上限]、[ISO AUTO 下限]を選んで希望の数値を設定する。

マルチショットノイズリダクション

自動的に複数枚の連写を行い、画像を合成し、ノイズを軽減して記録します。

マルチショットノイズリダクションでは最大ISO感度よりも感度を上げることができます。

記録される画像は合成された1枚のみです。

MENUボタン →  (撮影設定) → [ISO感度] →
[マルチショットNR]を選ぶ。

ご注意

- ・  が [RAW]、[RAW+JPEG] のとき、[マルチショットNR] は設定できません。
- ・ ISO 感度が [マルチショットNR] に設定されているとき、フラッシュ、[Dレンジオプティマイザー]、[オートHDR] は使用できません。
- ・ [ピクチャープロファイル] が [切] 以外のとき、[マルチショットNR] は設定できません。

明るさ、コントラストを自動補正する (DRO/オートHDR)

MENUボタン →  (撮影設定) → [DRO/オートHDR] →
希望の設定を選ぶ。

 (切)	DRO/オートHDR機能を使わない。
 (Dレンジオプティマイザー)	被写体や背景の明暗の差を細かな領域に分けて分析し、最適な明るさと階調の画像にする。
 (オートHDR)	露出の異なる3枚の画像を撮影し、適正露出の画像とアンダー画像の明るい部分、オーバー画像の暗い部分を合成することにより階調豊かな画像にする。 適正露出画像と、合成された画像の2枚が記録される。

Dレンジオプティマイザー

1 MENUボタン →  (撮影設定) → [DRO/オートHDR] →
[Dレンジオプティマイザー]を選ぶ。

2 コントロールホイールの◀/▶で最適化レベルを選ぶ。

 (Dレンジオプティマイザー：オート)	本機が自動で調整する。
 (レベル設定) *	撮影画像の階調を、画像の領域ごとに最適化する。Lv1 (弱) ~ 5 (強)で最適化レベルを選ぶ。

* **DRO** と一緒に表示されるLv_は、現在の設定値。

ご注意

- 以下の場合、[Dレンジオプティマイザー]は[切]に固定されます。
 - 撮影モードが[スイングパノラマ]
 - ISO感度が[マルチショットNR]
 - [ピクチャーエフェクト]が[切]以外
 - [ピクチャープロファイル]が[切]以外
- シーンセレクションの[夕景]、[夜景]、[夜景ポートレート]、[手持ち夜景]、[人物ブレ軽減]では、[Dレンジオプティマイザー]は[切]に固定されます。これら以外のシーンセレクションでは[Dレンジオプティマイザー：オート]に固定されます。
- Dレンジオプティマイザー動作時は、ノイズが目立つ場合があります。特に補正効果を強めるとときは、撮影後の画像を確認しながらレベルを選んでください。

オートHDR

1 MENUボタン →  (撮影設定) → [DRO/オートHDR] → [オートHDR]を選ぶ。

2 コントロールホイールの◀/▶で最適化レベルを選ぶ。

HDR AUTO (オートHDR : 露出差オート)	本機が自動で調整する。
HDR (レベル設定) *	被写体の明暗差に応じて露出差を設定する。 1.0Ev (弱) ~ 6.0Ev (強)で最適化レベルを選ぶ。 例：2.0Evでは-1.0Evの画像、適正露出の画像、+1.0Evの画像の3枚が合成される。

* **HDR**と一緒に表示される_Evは、現在の設定値。

撮影のテクニック

- 一度の撮影で3回シャッターが切られるため、以下に注意する。
 - 動きや点滅発光などがない被写体のときに設定する。
 - 構図が変わらないように撮影する。

ご注意

- [オートHDR]は、RAW画像には設定できません。
- 以下の場合、[オートHDR]を設定できません。
 - 撮影モードが[おまかせオート]、[プレミアムおまかせオート]、[スイングパノラマ]または[シーンセレクション]
 - ISO感度が[マルチショットNR]
 - [ピクチャーエフェクト]が[切]以外
 - [ピクチャープロファイル]が[切]以外
- 撮影後、処理が終わるまで次の撮影はできません。
- 被写体の輝度差の状況や撮影環境によっては思い通りの効果を得られないことがあります。
- フラッシュ発光時は、効果がほとんど得られません。
- コントラストが低いシーンや、大きな手ブレ、被写体ブレが発生した場合は、良好なHDR画像が撮影できていないことがあります。カメラがこのような状態を検出した場合は、再生画像に **HDR!** を表示してお知らせします。必要に応じて、構図を変えたり、ブレに注意して撮影し直してください。

画像の仕上がりを設定する

ピクチャーエフェクト

好みの効果を選んで、より印象的でアーティスティックな表現の画像を撮影できます。

MENUボタン →  (撮影設定) → [ピクチャーエフェクト]
→ 希望のモードを選ぶ。

- さらに詳細な設定ができるモードを選んだ場合は、コントロールホイールの◀/▶で希望の設定を選ぶ。

 (切)	効果を使用しない。
 (トイカメラ)	周辺が暗く、シャープ感を抑えた柔らかな仕上がりになる。◀/▶で色合いを設定できる。
 (ポップカラー)	色合いを強調してポップで生き生きとした仕上がりになる。
 (ポスタリゼーション)	原色のみ、または白黒のみで再現されるメリハリのきいた抽象的な仕上がりになる。◀/▶で[白黒]か[カラー]かを選択できる。
 (レトロフォト)	古びた写真のようにセピア色でコントラストが落ちた仕上がりになる。
 (ソフトハイキー)	明るく、透明感や軽さ、優しさ、柔らかさを持ったような仕上がりになる。
 (パートカラー)	1色のみをカラーで残し、他の部分はモノクロに仕上がる。◀/▶で残す色を設定できる。
 (ハイコントラストモノクロ)	明暗を強調することで緊張感のあるモノクロに仕上がる。

 (ソフトフォーカス)	柔らかな光につつまれたような雰囲気の仕上がりになる。◀/▶で効果の強弱を設定できる。
 (絵画調HDR)	絵画のように色彩やディテールが強調された仕上がりになる。3回シャッターが切れる。◀/▶で効果の強弱を設定できる。
 (リッチトーンモノクロ)	階調が豊かでディテールも再現されたモノクロに仕上がる。3回シャッターが切れる。
 (ミニチュア)	ミニチュア模型を撮影したようにボケが大きく、鮮やかな仕上がりになる。◀/▶でボケる位置を設定できる。
 (水彩画調)	にじみやぼかしを加えて水彩画のような効果をつける。
 (イラスト調)	輪郭を強調するなどしてイラストのような効果をつける。◀/▶で効果の強弱を設定できる。

ご注意

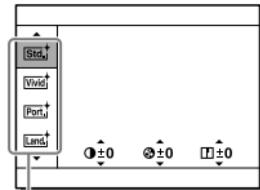
- 光学ズーム以外のズームを使用するとき、ズーム倍率が高くなると[トイカメラ]の効果は弱くなります。
- [パートカラー]のとき、被写体や撮影条件によっては設定した色が残らないことがあります。
- 以下の場合、[ピクチャーエフェクト]を設定できません。
 - 撮影モードが[おまかせオート]、[プレミアムおまかせオート]または[スイングパノラマ]
 - [画質]が[RAW]または[RAW+JPEG]
- [ソフトフォーカス]、[絵画調HDR]、[リッチトーンモノクロ]、[ミニチュア]、[水彩画調]、[イラスト調]のときは、撮影前に効果を確認できません。また、これらのモードでは[ライブモード]は設定できません。
- [絵画調HDR]、[リッチトーンモノクロ]ではコントラストが低いシーンや、大きな手ブレ、被写体ブレが発生した場合に良好な結果が得られない場合があります。カメラがこのような状態を検出した場合は、再生画像に■を表示してお知らせします。必要に応じて、構図を変えたり、ブレに注意して撮影し直してください。

クリエイティブスタイル

13種類の画像スタイルから画像の仕上がりを設定でき、各画像スタイルごとにコントラスト、彩度、シャープネスを微調整できます。カメラまかせで撮影するシーンセレクションと異なり、露出(シャッタースピード/絞り)なども調整できます。

1 MENUボタン → (撮影設定) → [クリエイティブスタイル] を選ぶ。

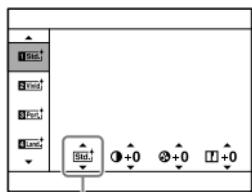
- 13種類のクリエイティブスタイルと、任意に内容を登録できる6つのスタイルボックス(1std.)のように左側に数字が入っているもの)が表示される。



クリエイティブスタイル/
スタイルボックス

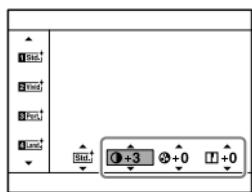
2 コントロールホイールの▲/▼で希望のクリエイティブスタイルまたはスタイルボックスを選ぶ。

- スタイルボックスを選んだときは、▶で右側に移動し、希望のクリエイティブスタイルを選ぶ。
- スタイルボックスを使えば、同じスタイルでも微妙に設定を変えて呼び出すことができる。



スタイルボックスを選んでいるときのみ表示

3 ①(コントラスト)、②(彩度)、 ③(シャープネス)を調整したいときは、◀/▶で希望の項目を選び、▲/▼で値を選ぶ。



Std.[†] (スタンダード)	さまざまなシーンを豊かな階調と美しい色彩で表現する。
Vivid[†] (ビビッド)	彩度・コントラストが高めになり、花、新緑、青空、海など色彩豊かなシーンをより印象的に表現する。
Ntr.[†] (ニュートラル)	彩度・シャープネスが低くなり、落ち着いた雰囲気に表現する。パソコンでの画像加工を目的とした撮影にも適している。
Clear[†] (クリア)	ハイライト部分の抜けがよく、透明感のある雰囲気に表現する。光の煌めき感などの表現に適している。
Deep[†] (ディープ)	濃く深みのある色再現にする。重厚感、存在感など、重みのある表現に適している。
Light[†] (ライト)	明るく、すっきりとした色再現にする。爽快感、軽快感など明るい雰囲気の表現に適している。
Port.[†] (ポートレート)	肌をより柔らかに再現する。人物の撮影に適している。
Land.[†] (風景)	彩度、コントラスト、シャープネスがより高くなり、鮮やかでメリハリのある風景に再現する。遠くの風景もよりくっきりする。
Sunset[†] (夕景)	夕焼けの赤さを美しく表現する。
Night[†] (夜景)	コントラストがやや低くなり、見た目の印象により近い夜景に再現する。
Autm[†] (紅葉)	紅葉の赤・黄をより鮮やかに表現する。
B/W[†] (白黒)	白黒のモノトーンで表現する。

Sepia[†] (セピア)	セピア色のモノトーンで表現する。
1Std.[†] (スタイルボックス 1～6)	お好みの設定を登録する。

● (コントラスト)、◎ (彩度)、□ (シャープネス)は、スタイルボックスごとに調整できます。

● (コントラスト)	+側に設定するほど明暗差が強調され、インパクトのある仕上がりになる。
◎ (彩度)	+側にするほど色が鮮やかになる。一側に設定すれば、控えめで落ち着いた色に再現される。
□ (シャープネス)	解像感を調整できる。+側に設定すれば輪郭がよりくっきりし、一側に設定すればやわらかな表現になる。

ご注意

- 以下の場合、[クリエイティブスタイル]は[スタンダード]に固定され、他のクリエイティブスタイルには変更できません。
 - 撮影モードが[おまかせオート]、[プレミアムおまかせオート]または[シーンセレクション]
 - [ピクチャーエフェクト]が[切]以外
 - [ピクチャーファイル]が[切]以外
- ・ [白黒]、[セピア]を選択しているときは、彩度の調整はできません。

色合いを調整する(ホワイトバランス)

被写体の色合いは、被写体を照らしている光の特性によって異なります。太陽光のもとで白く見えるものを基準にすると、下図のように色合いが変化します。

天候や照明	晴れ 	曇り 	蛍光灯 	電球 
光の特性	白	青みがかる	緑がかる	赤みがかる

画像の色合いが思ったとおりにならなかったときや、意図して色合いを変化させて雰囲気を表現したいときにホワイトバランス機能を使います。

ご注意

- 撮影モードが[おまかせオート]、[プレミアムおまかせオート]または[シーンセレクション]のときは、[ホワイトバランス]は[オート]に固定され、他のホワイトバランスモードに変更できません。
- 水銀灯やナトリウムランプのみが光源の場合、光の特性上、正確なホワイトバランスが得られません。フラッシュを発光して撮影してください。

MENUボタン →  (撮影設定) → [ホワイトバランス] → 希望の設定を選ぶ。

AWB (オート)	光源が自動判別され、適した色合いになる。
☀(太陽光)	
◐(日陰)	
☁(曇天)	
☽(電球)	
祟-1 (蛍光灯：温白色)	被写体を照らしている光源を選ぶと、選んだ光源に適した色合いになる(プリセットホワイトバランス)。
祟0 (蛍光灯：白色)	• コントロールホイールの▶で、微調整画面が表示され、必要に応じて色合いを微調整できる。▲/▼/◀/▶で好みの色合いに設定する(148ページ)。
祟+1 (蛍光灯：昼白色)	
祟+2 (蛍光灯：昼光色)	
WB(フラッシュ)	
AWB 魚(水中オート)	

撮影のテクニック

- 選んだ設定で思いどおりの色が出ないときは、ホワイトバランスブラケット撮影を行う(127ページ)。

色温度・カラーフィルター

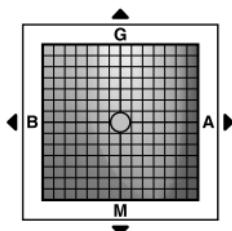
希望の色温度を選び、色温度とカラーフィルターの組み合わせで色合いの微調整ができます。

1 MENUボタン → **(撮影設定)** → [ホワイトバランス] → [色温度・カラーフィルター] を選ぶ。

2 コントロールホイールの▶を押して、▲/▼で色温度を設定する。

3 ▶を押して微調整画面を表示し、
▲/▼/◀/▶で好みの色合いに設定する。

◀でブルー (B) 方向、▶でアンバー (A) 方向に微調整できる。
▲でグリーン (G) 方向、▼でマゼンタ (M) 方向に微調整できる。



ご注意

- ナトリウム灯/水銀灯の光源下ではカスタムホワイトバランスの使用をおすすめします。

カスタムホワイトバランス

複数の種類の光源で照明されている場合などで、より正確に白さを表現したいときは、カスタムホワイトバランスの使用をおすすめします。3つの設定を登録できます。

1 MENUボタン → **(撮影設定)** → [ホワイトバランス] → [カスタムセット] を選ぶ。

-
- 2 白く写したいものが中央部のフォーカスエリア付近を覆うようにカメラを構えて、コントロールホイール中央の●を押す。シャッター音がして、取り込んだ値(色温度とカラーフィルター)が表示される。
-

3 ◀/▶で登録番号を選び、中央の●を押す。

登録したカスタムホワイトバランス値が設定された状態で、撮影情報画面に戻る。

- この操作で登録したカスタムホワイトバランス値は、次に別の値が登録されるまで保持される。
-

ご注意

- [カスタムWB設定エラー]というメッセージが表示されたときは、値が想定外であることを表します(鮮やかな色の被写体に向かた場合など)。値は登録され、撮影情報画面の  表示がオレンジ色になります。撮影はできますが、設定し直すことをおすすめします。

登録したカスタムホワイトバランスを呼び出すには

MENUボタン →  (撮影設定) → [ホワイトバランス] → 希望のカスタム登録番号を選ぶ。

- コントロールホイールの▶を押すと、微調整画面が表示され、色合いを微調整できる。

ご注意

- シャッターボタンを押すときにフラッシュを発光させると、フラッシュ光でカスタムホワイトバランスが登録されます。呼び出したあとの撮影でもフラッシュを発光させて撮影してください。

画像サイズを変える

【画像サイズ】

MENUボタン →  (撮影設定) → 【**【画像サイズ】**] → 希望の
サイズを選ぶ。

[横縦比]が3:2のとき

画像サイズ		用途例
L : 24M	6000×4000画素	最高画質で撮影したいとき
M : 10M	3936×2624画素	A3ノビサイズまでの印刷
S : 6.0M	3008×2000画素	A5サイズまでの印刷

[横縦比]が16:9のとき

画像サイズ		用途例
L : 20M	6000×3376画素	ハイビジョンテレビでの再生
M : 8.7M	3936×2216画素	
S : 5.1M	3008×1688画素	

[APS-Cサイズ撮影]が[入]のとき

[横縦比]が3:2のとき		[横縦比]が16:9のとき	
L : 10M	3936×2624画素	L : 8.7M	3936×2216画素
M : 6.0M	3008×2000画素	M : 5.1M	3008×1688画素
S : 2.6M	1968×1312画素	S : 2.2M	1968×1112画素

ご注意

- 【**【画質】**】でRAW画像を選ぶと、RAW画像の画像サイズはL相当となります。画面に画像サイズは表示されません。

パノラマ：画像サイズ

スイング撮影の画像サイズを設定します。[パノラマ：撮影方向] (86ページ)によって、サイズが異なります。

MENUボタン →  (撮影設定) → [パノラマ：画像サイズ]
→ 希望のサイズを選ぶ。

標準	撮影方向 [上] [下] : 3872×2160 撮影方向 [左] [右] : 8192×1856
ワイド	撮影方向 [上] [下] : 5536×2160 撮影方向 [左] [右] : 12416×1856

画像の横縦比と画質を設定する

▣ 横縦比

MENUボタン →  (撮影設定) → [▣横縦比] → 希望の比率を選ぶ。

3:2	通常の横縦比率。
16:9	ハイビジョンテレビ比率。

ご注意

- 撮影モードが[スイングパノラマ]のときは設定できません。

▣ 画質

MENUボタン →  (撮影設定) → [▣画質] → 希望の設定を選ぶ。

RAW(RAW)	ファイル形式：RAW (圧縮Raw形式で記録する) デジタル処理などの加工をしていないファイル形式。専門的な用途に合わせて、パソコンで加工するときに選ぶ。 • 画像サイズは常に最大サイズで固定され、画面には画像サイズは表示されない。
RAW+J (RAW+JPEG)	ファイル形式：RAW (圧縮Raw形式で記録する) +JPEG 上記RAW画像とJPEG画像が同時に記録される。閲覧用にはJPEG画像、編集用にはRAW画像というように、両方の画像を記録したい場合に便利。JPEGの画質は[FINE]になる。

X.FINE (エクストラファイン)	ファイル形式：JPEG 画像がJPEG形式で圧縮されて記録される。 [X.FINE]、[FINE]、[STD]の順で圧縮率が大きくなり、データ量が少なくなる。1枚のメモリーカードに記録できる枚数は増えるが、画質は劣化する。
FINE(ファイン)	
STD (スタンダード)	

ご注意

- 撮影モードが[スイングパノラマ]のときは、[画質]は設定できません。

RAWについて

- 本機で撮影したRAW画像を開くにはImage Data Converterが必要です。このソフトウェアを使えば、RAW画像を開いたあと、JPEGやTIFFのような一般的なフォーマットに変換したり、ホワイトバランス、彩度、コントラストなどを再調整することができます。
 - RAW形式の画像は、DPOF（プリント）指定はできません。
 - RAW形式の画像には、[オートHDR]、[ピクチャーエフェクト]を設定できません。
- 本機で撮影したRAW画像は、1ピクセルに対して14ビットの分解能を持っています。ただし、以下の撮影時は、12ビットの分解能に制限されます。
 - 長秒時ノイズリダクション
 - バルブ撮影
 - 連続撮影（プレミアムおまかせオート時の複数枚連写なども含む）

顔を検出する

カメラが人物の顔を判別し、人物にあわせて、ピントや露出、画像処理、フラッシュの調整をします。

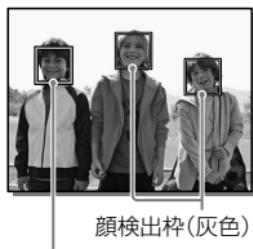
MENUボタン →  (撮影設定) → [顔検出/スマイルシャッター] → 希望の設定を選ぶ。

 OFF (切)	顔検出機能を使わない。
 (入(登録顔優先))	[個人顔登録]で登録した顔を優先して顔検出を行う(156ページ)。
 (入)	登録した顔を優先せずに顔検出を行う。
 (スマイルシャッター)	笑顔を検出して自動撮影する。

顔検出枠について

顔を検出すると、灰色の顔検出枠が表示されます。オートフォーカス可能と判断されると枠が白色になり、シャッターボタンを半押しすると緑色になります。

- シャッターを半押ししたときに、オートフォーカス可能エリアに顔が検出されないときは、ピントを合わせたフォーカスエリアが緑色に表示されます。
- 複数の顔を検出した場合は、優先的に調整する顔を自動で選択し、1か所の顔検出枠が白色になります。それ以外の登録されている顔の検出枠は赤紫色になります。



顔検出枠(灰色)
顔検出枠(白色)

美肌効果の設定をするには

顔検出時、被写体の肌をなめらかに撮影する効果を設定します。

MENUボタン →  (撮影設定) → [☑ 美肌効果] → 希望の設定を選ぶ。

撮影のテクニック

- ・顔検出枠とフォーカスエリアが重なるように構図を工夫する。

ご注意

- ・以下のときは、顔検出機能が使用できません。
 - 撮影モードが[スイングパノラマ]
 - [ピクチャーエフェクト]が[ポスタリゼーション]
 - 光学ズーム以外のズーム使用時
 - ピント拡大時
 - 撮影モードが[シーンセレクション]の[風景]、[夜景]、[夕景]
- ・最大8人の顔を検出できます。
- ・状況によっては、顔が検出されなかったり、顔以外を誤検出することがあります。

個人顔登録

顔情報を登録しておくと、登録した顔を優先して顔検出を行うことができます。

1 MENUボタン → ⚙ (カスタム設定) → [個人顔登録] → [新規登録] を選ぶ。

2 登録したい顔をガイド枠内に合わせて、シャッターボタンを押して登録する顔を撮影する。

3 [実行] を選び、中央の●を押す。

- ・ 最大8人の顔を登録できる。
- ・ 明るい場所で、正面を向いた顔を撮影する。帽子やマスク、サングラスなどで顔が隠れると、正しく登録できないことがある。

登録した顔の優先順を変更するには

複数の顔を登録したときは登録した順で優先順位が設定されます。優先順を変更することができます。

MENUボタン → ⚙ (カスタム設定) → [個人顔登録] → [優先順序変更] → 優先順を変更する顔と変更先を選ぶ。

登録した顔を削除するには

登録した顔を削除できます。

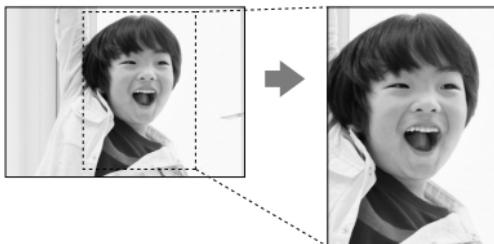
MENUボタン → ⚙ (カスタム設定) → [個人顔登録] → [削除] → 削除する顔を選ぶ。

- ・ [全て削除] を選ぶと、すべての顔をまとめて削除できます。

ご注意

- ・ [削除]を行っても、カメラ内に登録した顔のデータが残っています。カメラ内からも削除したい場合は、[全て削除]を行ってください。

オートフレーミング



人物の顔やマクロ撮影する、またロックオンAFでとらえた被写体を検出して撮影すると、自動的に最適な構図に切り出し(トリミング)された画像が記録されます。トリミング前の画像と、トリミングされた画像の2枚が記録されます。

トリミングされた画像は、オリジナル画像と同じ画像サイズで記録されます。

- 撮影後のオートレビューでは、トリミングされた領域を示す枠が表示される。

MENUボタン → (撮影設定) → [四]オートフレーミング
→ 希望の設定を選ぶ。

- お買い上げ時は、[切]に設定されています。

ご注意

- 撮影モード[スイングパノラマ]、[動画]、[シーンセレクション]の
[手持ち夜景]、[スポーツ]、[人物ブレ軽減]時は使用できません。
- 撮影状況によっては最適な構図でトリミングされない場合があります。
- [画質]が[RAW]、[RAW+JPEG]のときは設定できません。
- 以下の場合、[オートフレーミング]は使用できません。
 - [ドライブモード]が[連続撮影]、[連続ブラケット]、[1枚ブラケット]、
[ホワイトバランスブラケット]、[DROブラケット]
 - ISO感度が[マルチショットNR]
 - [DRO/オートHDR]が[オートHDR]
 - 光学ズーム以外のズーム
 - マニュアルフォーカス
 - [ピクチャーエフェクト]が[ソフトフォーカス]、[絵画調HDR]、
[リッチトーンモノクロ]、[ミニチュア]、[水彩画調]、[イラスト調]

スマイルシャッター

笑顔を検出すると自動で撮影します。

-
- 1 MENUボタン → (撮影設定) → [顔検出/スマイルシャッター] → [入：普通の笑顔] → コントロールホイールの◀/▶で希望のスマイル検出感度を選ぶ。

- (微笑み)、(普通の笑顔)、(大笑い)の3段階で、笑顔を検出する感度を変更できる。
- スマイルシャッター作動中は、画面にスマイル検出感度インジケーターが表示される。

2 笑顔を待つ。

笑顔を検出し、ピントが合い、スマイルレベルがインジケーターの◀を超えると、自動で撮影される。

- スマイルシャッターの対象となる顔を認識するとオレンジ色の顔検出枠が表示され、ピントの合っている顔検出枠が緑色になる。
- [オートフレーミング]を[オート]にしていると、最適な構図を決めて自動的にトリミングされる。



顔検出枠(オレンジ色)
スマイル検出感度インジケーター

-
- 3 終了するときは、MENUボタン → (撮影設定) → [顔検出/スマイルシャッター] → [スマイルシャッター]以外を選ぶ。
-

撮影のテクニック

- 笑顔にピントを合わせるには、顔検出枠とフォーカスエリアが重なるようにする。
- 前髪が目にかかるないようにし、目は細めにする。
- 帽子やマスク、サングラスなどで顔が隠れないようにする。
- カメラに対して正面を向き、なるべく水平になるようにする。
- 口をあけてしっかり笑う。歯が見えているほうが笑顔を検出しやすくなる。
- スマイルシャッター中にシャッターボタンを押しても撮影できる。
撮影後はスマイルシャッターに戻る。

ご注意

- 以下の場合、[スマイルシャッター]は使用できません。
 - 撮影モードが[スイングパノラマ]
 - 動画撮影時
 - 撮影モードが[シーンセレクション]の[手持ち夜景]、[人物ブレ軽減]、[風景]、[夜景]、[夕景]
 - [ピクチャーエフェクト]が[切]以外
- スマイルシャッター使用時、ライブモードは[1枚撮影]のみになります。
- 笑顔が検出されない場合はスマイル検出感度を設定してください。
- 状況によっては笑顔が正しく検出できない場合があります。
- スマイルシャッター中にロックオンAFで顔を追尾させると、その顔だけがスマイル検出の対象になります(105ページ)。

ズームする

レンズの光学ズームよりもさらにズームできます。

光学ズーム以外のズーム機能を使う

光学ズーム以外のズームを使って、ズームレンズによる光学ズームの倍率以上に拡大できます。

電動ズームレンズの場合は、光学ズームの操作のまま光学ズーム以外のズームに移行します。

電動ズームレンズ以外のレンズの場合は、光学ズームで拡大したあとに以下の手順で光学ズーム以外のズームを使います。

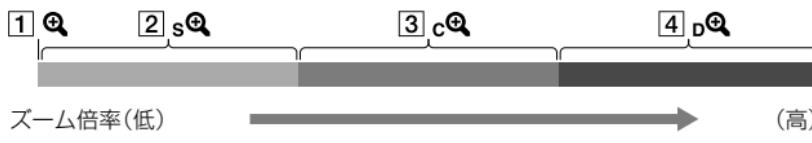
MENUボタン →  (撮影設定) → [ズーム] → 希望の数値を選ぶ。

本機で使用できるズーム

使用するズームは、以下の手順で選べます。

MENUボタン →  (カスタム設定) → [ズーム設定] → 希望の設定を選ぶ。

また、ズーム倍率によってモニターに表示されるアイコンが変わります。



① \textcircled{Q} ：光学ズーム以外のズームなし($\times 1.0$ と表示される)。

② $s\textcircled{Q}$ スマートズーム：画像を部分的に切り出して拡大する。(画像サイズがM、Sのときのみ使用できます。)

③ $c\textcircled{Q}$ 全画素超解像ズーム：より高画質な画像処理により拡大する。
([ズーム設定]が[入：全画素超解像ズーム]または
[入：デジタルズーム]のときに使用できます。)

④ $d\textcircled{Q}$ デジタルズーム：画像処理により拡大する。([ズーム設定]が
[入：デジタルズーム]のときに使用できます。)

設定	画像 サイズ	光学ズームに組み合わせるズーム倍率 (上段フルサイズ撮影時/下段APS-C撮影時)
画像を切り出せる範囲でズームする(画質は劣化しない)。 光学ズームのみ	L	—
	M	約1.5倍 約1.3倍
	S	約2倍 約2倍
画質を優先してズームする。 入:全画素超解像ズーム	L	約2倍 約2倍
	M	約3倍 約2.6倍
	S	約4倍 約4倍
ズーム倍率を優先してズームする。 入:デジタルズーム	L	約4倍 約4倍
	M	約6.1倍 約5.2倍
	S	約8倍 約8倍

ご注意

- 以下の場合は、光学ズーム以外のズームは使用できません。
 - 撮影モードが[スイングパノラマ]のとき
 - [画質]が[RAW]または[RAW+JPEG]のとき
 - [スマイルシャッター]使用時
- 動画撮影中、スマートズームは使えません。
- 光学ズーム以外のズームを使用しているときは、[測光モード]が[マルチ]になります。
- 光学ズーム以外のズームを使用中は下記の機能が使用できません。
 - 顔検出
 - ロックオンAF
 - [オートフレーミング]
- 動画撮影中に光学ズーム以外のズームをする場合、[カスタムキー設定]で希望のボタンに[ズーム]を設定してください。

ズームリングの操作方向を設定する

ズームリングの操作方向とW/Tの割り当てを設定します。

MENUボタン →  (カスタム設定) →
[ズームリング操作方向] → 希望の設定を選ぶ。

左回転(W) /右回転(T)	左回転にW側(ズームアウト)、右回転にT側(ズームイン)を割り当てる。
右回転(W) /左回転(T)	左回転にT側(ズームイン)、右回転にW側(ズームアウト)を割り当てる。

ご注意

- ズームリングの操作方向変更に対応したレンズのみ使用できます。

画像ノイズを減らす

■ 長秒時ノイズリダクション

シャッタースピードを、1秒または1秒より遅くして撮影する(長時間露光)と、シャッターを開けていた時間と同時間のノイズ軽減処理をします。長時間露光時に目立つ粒状ノイズを軽減するためです。処理中はメッセージが表示され、撮影できません。画質を優先する場合は[入]を、撮影タイミングを優先するには[切]を選びます。

MENUボタン →  (撮影設定) → [■長秒時NR] → 希望の設定を選ぶ。

ご注意

- 以下の場合、[■長秒時NR]を[入]にしても、ノイズリダクションは働きません。
 - 撮影モードが[スイングパノラマ]
 - [ドライブモード]が[連続撮影]または[連続プラケット]
 - 撮影モードが[シーンセレクション]の[スポーツ]または[手持ち夜景]
 - ISO感度が[マルチショットNR]
- 撮影モードが[おまかせオート]、[プレミアムおまかせオート]または[シーンセレクション]のときは、[■長秒時NR]を[切]にできません。
- 撮影条件によっては、シャッタースピードが1秒以上でもノイズ軽減処理を行わない場合があります。

■ 高感度ノイズリダクション

すべてのISO感度で作動しますが、特に高感度時に目立つノイズを効果的に低減します。通常は[標準]に設定されており、[弱]、[切]を選ぶこともできます。

MENUボタン →  (撮影設定) → [■高感度NR] → 希望の設定を選ぶ。

ご注意

- 撮影モードが以下の場合は、[高感度NR]は設定できません。
 - [おまかせオート]
 - [プレミアムおまかせオート]
 - [スイングパノラマ]
 - [シーンセレクション]
- RAW画像には[高感度NR]は働きません。

リモコンを使って撮る

ワイヤレスリモートコマンダー RMT-DSLR1(別売)、RMT-DSLR2(別売)のSHUTTERボタン、2SECボタン(2秒後にシャッターを切る)、START/STOPボタン(動画ボタン: RMT-DSLR2のみ)を使って撮影します。リモコンの取扱説明書もあわせてご覧ください。

-
- 1 MENUボタン →  (セットアップ) → [リモコン] → [入] を選ぶ。
 - 2 ピントを合わせ、リモコン発光部を本機のリモコン受光部に向けて撮影する。
-

ご注意

- ワイヤレスリモートコマンダー RMT-DSLR1は動画撮影には対応していません。
- レンズやフードがリモコン受光部をさえぎり、受光を妨げることがあります。受光部をさえぎらない位置から操作してください。

色空間を設定する

色を数値の組み合わせによって表現するための方法、あるいは表現できる色の範囲のことを色空間といいます。画像の用途によって色空間を変更できます。

MENUボタン →  (撮影設定) → [四色空間] → 希望の設定を選ぶ。

sRGB	デジタルカメラの標準となっている色空間。画像調整を行わずに印刷する場合など、一般的な撮影ではsRGBを使う。
AdobeRGB	より広い色再現範囲を持っている色空間。鮮やかな緑色や赤色の多い被写体をプリントする場合に効果がある。 <ul style="list-style-type: none">撮影した画像のファイル名は、“_DSC”で始まる。

ご注意

- AdobeRGBは、カラーマネジメントおよびDCF2.0オプション色空間に対応したアプリケーションソフト、プリンター用です。非対応のソフト、プリンターでは、正しい色での表示、印刷ができないことがあります。
- AdobeRGBで撮影した画像は、AdobeRGB非対応機器で表示すると、低彩度となります。

動画撮影の設定

ここでは、動画の応用的な撮影方法を紹介します。

撮影のテクニック

- ピントを合わせてから、録画を開始する。
- 以下の設定は、静止画撮影のときの設定値をそのまま使用できる。
ISO感度/ホワイトバランス/クリエイティブスタイル/露出補正/
フォーカスエリア/測光モード/顔検出/Dレンジオプティマイザー/
レンズ補正/ピクチャーエフェクト
- ISO感度、露出補正、フォーカスエリアは動画撮影中に設定を変更できる。
- [HDMI情報表示]を[なし]にすると、動画記録中でも撮影情報表示なしで記録画像を出力できる(199ページ)。

ご注意

- モニターの表示がファインダー撮影用の場合、動画撮影を開始すると全情報表示に切り替わります。
- XAVC S動画やAVCHD動画、MP4動画をパソコンに取り込むときは、PlayMemories Homeを使用してください(229ページ)。
- 低感度の動画撮影時、極端に強い光源にカメラを向けると、画面内の高輝度部分が黒っぽく撮影されることがあります。
- 動画の[プログラムオート]モードでは、絞りとシャッタースピードは自動で設定されるため、明るい環境下で高速シャッターとなり、被写体の動きが滑らかに写らない場合があります。他の露出モードにして、絞りやシャッタースピードを調整することで、より滑らかに撮影できる場合があります。
- 動画撮影時のISO感度は、ISO200～25600まで選べます。ISO200よりも小さい設定値の状態で動画撮影を始めると、ISO200に切り替わります。動画撮影を終えると元の設定値に戻ります。
- ISO感度を[マルチショットNR]に設定しているときは、一時的に[ISO AUTO]になります。
- 動画撮影時、[ピクチャーエフェクト]の[ソフトフォーカス]、[絵画調HDR]、[リッチトーンモノクロ]、[ミニチュア]、[水彩画調]、[イラスト調]は設定できません。動画撮影が開始されると一時的に[切]になります。

動画の記録フォーマットについて

本機は、「XAVC S」に対応しています。

XAVC Sとは

高解像度の映像を、MPEG-4 AVC/H.264で高压縮してMP4ファイル形式で記録するフォーマットです。データの容量を一定レベルに抑えながら高画質化することができます。

XAVC S/AVCHD記録フォーマットとその特徴

	XAVC S	AVCHD
ビットレート	約50 Mbps	約28 Mbps*
特長	AVCHDと比べると情報量が多くなるため、より鮮明な画像を記録できます。	パソコン以外の保存機器との互換性に優れています。

- ・ビットレートとは、一定時間あたりの記録データ量です。

* 最大

動画の設定を変更して撮影する

絞りやシャッタースピードなどの設定を変更して、思い通りにコントロールした動画を撮影できます。

1 モードダイヤルを  (動画) にする。

2 MENUボタン →  (撮影設定) → [動画] → 希望の設定を選ぶ。

 P (プログラムオート)	露出(シャッタースピードと絞り)は本機が自動設定するが、その他の調整は自分で調整でき、設定した値は保持される。
 A (絞り優先)	絞りを調整し、ピントの合う範囲や背景のぼかし具合を変えて撮影できる。
 S (シャッタースピード優先)	シャッタースピードを手動調整し、動くものの表現を変えて撮影できる。
 M (マニュアル露出)	露出(シャッタースピードと絞り)を前/後ダイヤルで手動設定する。

オートスローシャッターについて

[オートスローシャッター]を[入]にすると、暗いところまでノイズを抑えた撮影ができます。

[切]にすると暗いところでは[入]のときよりも画像が暗くなりますが、被写体のブレが少なく、動きがよりなめらかに撮影できます。

MENUボタン →  (撮影設定) → [オートスローシャッター] → 希望のモードを選ぶ。

ご注意

- [オートスローシャッター]は、撮影モードがオート、「P」または「A」でISO感度が[ISO AUTO]のときのみ有効です。

Super35mm撮影について

[APS-Cサイズ撮影]を[入]に設定すると、Super35mm画角で撮影できます(209ページ)。

■ 記録方式

MENUボタン →  (撮影設定) → [■記録方式] → 希望のモードを選ぶ。

XAVC S	XAVC S規格の24p/30p/60p動画を記録する。 高ビットレートに対応した記録方式。 音声 : LPCM
AVCHD	AVCHD規格の60i/24p/60p動画を記録する。 ハイビジョンテレビに適した記録方式。 ソフトウェアPlayMemories Homeを使ってブルーレイディスク、またはAVCHDディスク、DVD-Videoディスクを作成できる。 音声 : Dolby Digital
MP4	MP4 (AVC)動画を記録する。WEBアップロードやメールに適した記録方式。 音声 : AAC

ご注意

- [■記録方式]を[XAVC S]にして撮影する場合は、64GB以上のSDXCメモリーカード Class 10以上が必要です(61ページ)。
- [■記録方式]を[XAVC S]または[MP4]にして撮影した動画からはソフトウェアPlayMemories Homeを使っても、ディスクを作成することはできません。

■ 記録設定

ビットレートが高いほど、画質は向上します。

MENUボタン →  (撮影設定) → [■記録設定] → 希望の設定を選ぶ。

[■記録方式]が[XAVC S]のとき

記録設定	ビットレート	説明
60p 50M	約50 Mbps ^{*2}	1920×1080 (60p)の高画質で撮影する。
30p 50M	約50 Mbps ^{*2}	1920×1080 (30p)の高画質で撮影する。
24p 50M	約50 Mbps ^{*2}	1920×1080 (24p)の高画質で撮影する。映画のような雰囲気で記録できる。

[■記録方式]が[AVCHD]のとき

記録設定	ビットレート	説明
60i 24M (FX)	約24 Mbps ^{*1}	1920×1080 (60i)の高画質で撮影する。
60i 17M (FH)	約17 Mbps ^{*2}	1920×1080 (60i)の標準画質で撮影する。
60p 28M (PS)	約28 Mbps ^{*1}	1920×1080 (60p)の最高画質で撮影する。
24p 24M (FX)	約24 Mbps ^{*1}	1920×1080 (24p)の高画質で撮影する。映画のような雰囲気で記録できる。
24p 17M (FH)	約17 Mbps ^{*2}	1920×1080 (24p)の標準画質で撮影する。映画のような雰囲気で記録できる。

[記録方式]が[MP4]のとき

記録設定	ビットレート	説明
1440×1080 12M	約12 Mbps ^{*2}	1440×1080で撮影する。
VGA 3M	約3 Mbps ^{*2}	VGAサイズで撮影する。

*¹最大

*²平均

ご注意

- ・ [記録設定] を[60p 28M(PS)]または[60i 24M(FX)]、[24p 24M(FX)]にして撮影した動画は、PlayMemories HomeでのAVCHDディスク作成時に変換され、そのままの画質でディスクを作成することはできません。変換には時間がかかります。そのままの画質で保存したいときは、ブルーレイディスクに保存してください。
- ・ 60p、24pの動画をテレビで見るときは、60p、24pに対応したテレビが必要です。対応していないテレビの場合、60iとして出力されます。

同時ビデオ記録

XAVC S動画またはAVCHD動画と、MP4動画が同時に記録できます。

MENUボタン → (撮影設定) → [同時ビデオ記録] → 希望の設定を選ぶ。

入	XAVC S動画またはAVCHD動画と、MP4動画を同時に記録する。
切	同時ビデオ記録機能を使わない。

ご注意

- ・ XAVC S動画の [記録設定] を[60p]に設定しているとき、AVCHD動画の [記録設定] を[60p]に設定しているとき、または [記録方式] が [MP4] のときは、[同時ビデオ記録] は[切]になります。
- ・ 動画再生時、[ビューモード] で[日付ビュー]を選択すると、XAVC S動画と MP4動画、AVCHD動画とMP4動画が並んで表示されます。

録音レベル

レベルメーターを見ながら録音レベルを調整できます。

MENUボタン →  (撮影設定) → [録音レベル] → コントロールホイールの◀/▶で希望のレベルを選ぶ。

+側：録音レベルが上がる。

-側：録音レベルが下がる。

リセット：録音レベルを初期値に戻す。

撮影のテクニック

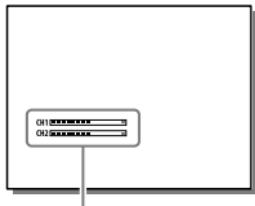
- 大きな音の動画を録画する場合は、録音レベルを低めに設定すると臨場感のある音声が記録できる。小さな音の動画を録画する場合は、録音レベルを高めに設定することで聞きやすい音声で記録できる。

ご注意

- 録音レベルの設定値にかかわらず、リミッターは常に作動しています。
- [録音レベル]は撮影モードが[動画]のときのみ選べます。
- 録音レベルの調整は、内蔵マイクと (マイク)端子入力に対して有効です。

音声レベル表示

音声レベルを画面に表示するかどうかを選びます。



MENUボタン →  (カスタム設定) → [音声レベル表示] → 希望の設定を選ぶ。

ご注意

- 以下の場合には音声レベルが表示されません。
 - [音声記録]が[切]のとき
 - 画面表示が[情報表示なし]になっているとき
- 撮影モードは[動画]にしてください。動画時のみ、記録前に音声レベルの表示ができます。

音声出力をヘッドホンで確認する

- 1** (ヘッドホン)端子にヘッドホンをつなぐ。



(ヘッドホン)端子

- 2** モードダイヤルを (動画)にする。

動画記録時や再生時の音声を確認できる。

音声出力タイミング

音声モニタリング時のエコー対策やHDMI出力時の映像と音声のずれ対策の設定ができます。

MENUボタン → (撮影設定) → [音声出力タイミング] → 希望の設定を選ぶ。

ライブ	音声を遅延なしで出力する。音声モニタリング時、音のずれが気になるときに選択する。
リップシンク	音声を映像と同期させて出力する。映像と音声のずれによる違和感を防ぐ。

音声の記録について

動画撮影中はカメラやレンズの作動音、操作音などが記録されてしまうことがあります。音声を記録しないように設定できます。

MENUボタン →  (撮影設定) → [音声記録] → [切] を選ぶ。

風音を低減するには

内蔵マイクからの入力音声の低域音をカットして、風音を低減できます。

MENUボタン →  (撮影設定) → [風音低減] → [入] を選ぶ。

ご注意

- ・ [風音低減] を[入]に設定すると低い音の一部も低減されてしまう場合があります。風音がない場合は[切]にしてください。
- ・ 別売りのマイク使用時は、[風音低減]の効果が得られません。

あらかじめ設定した画質で撮る (ピクチャープロファイル)

ピクチャープロファイルとは

撮影する画像の発色、階調などの設定を変更できます。

ピクチャープロファイルの内容を変更する

[ガンマ] や [ディテール] などを調節して好みの画質設定を作れます。設定するときは、本機をテレビやモニターにつないで、画像を確認しながら調節してください。

1 MENUボタン→ (撮影設定) → [ピクチャープロファイル] → 変更したいプロファイルを選ぶ。

2 コントロールホイールの▶を押して、項目一覧に移動する。

3 ▲/▼で、変更したい項目を選ぶ。

4 ▲/▼で希望の設定値を選び、中央の●を押す。

ご注意

- ・ 動画と静止画で設定値が共通のため、撮影モードを変更した場合は設定値を調節してください。
- ・ RAW画像を「撮影時の設定」で現像した場合、下記の設定は反映されません。
 - ブラックレベル
 - ブラックガンマ
 - ニー
 - 色の深さ

ピクチャープロファイルのプリセットを使う

本機は[PP1]～[PP7]に撮影条件に合わせた動画用設定値をあらかじめ登録しています。

MENUボタン→ (撮影設定) → [ピクチャープロファイル] → 希望の設定を選ぶ。

PP1	[Movie] ガンマを用いた設定例
PP2	[Still] ガンマを用いた設定例
PP3	[ITU709] ガンマを用いた自然な色合いの設定例
PP4	ITU709規格に忠実な色合いの設定例
PP5	[Cine1] ガンマを用いた設定例
PP6	[Cine2] ガンマを用いた設定例
PP7	[S-Log2] ガンマを用いた設定例

ピクチャープロファイルの項目一覧

ブラックレベル	-15 ~ +15		
ガンマ	Movie/Still/Cine1/Cine2/Cine3/Cine4/ ITU709/ITU709 (800%) /S-Log2		
ブラックガンマ	範囲	広/中/狭	
	レベル	-7 ~ +7	
ニー	モード	オート/マニュアル	
	オート設定	マックスポイント	90% ~ 100%
		感度	高/中/低
	マニュアル設定	ポイント	75% ~ 105%
		スロープ	-5 ~ +5
カラーモード	Movie/Still/Cinema/Pro/ITU709マトリックス/ 白黒 /S-Gamut		
彩度	-32 ~ +32		
色相	-7 ~ +7		

色の深さ	R	-7 ~ +7	
	G	-7 ~ +7	
	B	-7 ~ +7	
	C	-7 ~ +7	
	M	-7 ~ +7	
	Y	-7 ~ +7	
ディテール	レベル	-7 ~ +7	
	調整	モード	オート/ マニュアル
		V/Hバランス	-2 ~ +2
		B/Wバランス	タイプ1 ~ タイプ5
		リミット	0 ~ 7
		クリスピニング	0 ~ 7
		高輝度ディテール	0 ~ 4
コピー			
リセット			

ピクチャープロファイルの項目について

ブラックレベル 黒レベルを設定する。(-15 ~ +15)

ガンマ ガンマカーブを選ぶ。

Movie : 動画用の標準ガンマカーブ

Still : 静止画用の標準ガンマカーブ

Cine1 : 暗部のコントラストをなだらかにし、かつ明部の階調変化をはっきりさせて、落ち着いた調子の映像にする
(HG4609G33相当)。

Cine2 : [Cine1]とほぼ同様の効果が得られるが、編集などにおいてビデオ信号100%以内で扱いたいときは、こちらを選択する(HG4600G30相当)。

Cine3 : [Cine1]、[Cine2]より明部と暗部のコントラストを強め、かつ黒側の階調変化をはっきりさせる。

Cine4 : [Cine3]よりさらに暗部のコントラストを強める。[Movie]より暗部のコントラストは弱く、明部のコントラストは強い。

ITU709 : ITU709相当のガンマカーブ。

ITU709 (800%) : [S-Log2]撮影前提のシーン確認用ガンマカーブ

S-Log2 : [S-Log2]のガンマカーブ。撮影後映像処理を前提とした設定。

ご注意

- ・[ガンマ]を変えると、設定できるISOの範囲が変わります。
- ・ガンマ設定により暗い部分の色ノイズが目立つことがあります、レンズ補正を[切]に設定することで改善する場合があります。
- ・S-Log2ガンマ使用時は他のガンマに比べてノイズが目立ちやすくなります。撮影後映像処理の後でも気になる場合は、明るめに撮影することでノイズを軽減できる場合があります。
ただし、明るく撮影した場合にはその分だけダイナミックレンジは狭くなっています。S-Log2を使用する場合は事前のテストで画質を確認することを強くおすすめします。
- ・[ITU709 (800%)]または[S-Log2]に設定すると、ホワイトバランスのカスタムセットがエラーになることがあります。このようなときは露出を一度明るくしてからカスタムセットを行ってください。
- ・[ITU709 (800%)]または[S-Log2]に設定すると、[ブラックレベル]の設定が無効になります。

ブラックガンマ 低輝度ガンマ補正をする。

範囲 : 補正範囲を選ぶ。(広/中/狭)

レベル : 補正の強さを設定する。(-7 (ブラックコンプレス最大)
～+7 (ブラックストレッチ最大))

二一 被写体の高輝度部分の信号をカメラのダイナミックレンジに収め、白飛びを防ぐため、ビデオ信号を圧縮するポイントやスロープを設定する。

[ガンマ]で[Cine1]、[Cine2]、[Cine3]、[Cine4]、[Still]

[S-Log2]、[ITU709 (800%)]を選択しているときは、

[モード]を[オート]にしていると[二一]は[切]になる。

[モード]を[マニュアル]にすると[二一]の機能を使用できる。

モード：自動/手動設定を選ぶ。

[オート]：ニーポイント、ニースロープを自動で設定する。

[マニュアル]：ニーポイント、ニースロープを手動で設定する。

オート設定：[オート]を選択した場合の設定。

[マックスポイント]：ニーポイントの最大値を設定する。
(90%～100%)

[感度]：感度を設定する。(高/中/低)

マニュアル設定：[マニュアル]を選択した場合の設定。

[ポイント]：ニーポイントを設定する。(75%～105%)

[スロープ]：ニースロープの傾きを設定する。(-5 (傾きが小さい)～+5 (傾きが大きい))

ご注意

- [マニュアル設定]で[スロープ]を+5に設定すると、[二一]は[切]になります。

カラーモード 色の特性を変更する。

Movie：[ガンマ]が[Movie]のときに適した色合い。

Still：[ガンマ]が[Still]のときに適した色合い。

Cinema：[ガンマ]が[Cine1]のときに適した色合い。

Pro：ソニーの業務用カメラの標準画質に近い色合い(ITU709ガンマと組み合わせた場合)。

ITU709マトリックス：ITU709規格に忠実な色合い(ITU709ガンマと組み合わせた場合)。

白黒：彩度を0にし、白黒で撮影する。

S-Gamut：[ガンマ]が[S-Log2]のときに使用する、撮影後映像処理を前提とした設定。

ご注意

- S-Gamutはフィルムカメラに匹敵する広色域を持ったソニー独自のカラー スペースですが、本機のS-Gamut設定はS-Gamutの全色域に対応しているわけではなく、S-Gamut相当の色再現を実現するための設定です。

彩度 色の鮮やかさを設定する。(-32 ~ +32)

色相 色相を設定する。(-7 ~ +7)

色の深さ 色相別に輝度を変更する。濃い色ほど効果が大きく、色のない被写体に対しては効果がない。+側にすると暗くなり、色が深く見える。-側にすると明るくなり、色が浅く見える。[カラー モード]を[白黒]にしたときにも有効です。

R (赤) : -7 ~ +7

G (緑) : -7 ~ +7

B (青) : -7 ~ +7

C (シアン) : -7 ~ +7

M (マゼンタ) : -7 ~ +7

Y (黄) : -7 ~ +7

ディテール [ディテール]を設定する。

レベル : [ディテール]の強さを設定する。(-7 ~ +7)

調整 : 以下の設定値を手動で選ぶ。

[モード] : 自動/手動設定を選ぶ。(オート(自動最適化を行う) / マニュアル(手動詳細設定を行う))

[V/Hバランス] : 垂直(V) DETAIL/水平(H) DETAILのバランスを設定する。(-2 (垂直(V)が強い) ~ +2 (水平(H)が強い))

[B/Wバランス] : 下側(B) DETAIL/上側(W) DETAILのバランスを選ぶ。(タイプ1 (下側(B)が強い) ~ タイプ5 (上側(W)が強い))

[リミット] : [ディテール]のリミットレベルを設定する。(0 (リミットレベルが低い(リミットされやすい)) ~ 7 (リミットレベルが高い(リミットされにくい))))

[クリスピニング]：クリスピニングレベルを設定する。

(0 (クリスピニングレベルが浅い) ~
7 (クリスピニングレベルが深い))

[高輝度ディテール]：高輝度部分の[ディテール]レベルを設定する。(0 ~ 4)

コピー 他のピクチャープロファイル番号に設定をコピーする。

リセット ピクチャープロファイルをお買い上げ時の設定に戻す。

ピクチャープロファイルを他のピクチャープロファイル番号にコピーするには

他のピクチャープロファイル番号に設定をコピーできます。

MENUボタン →  (撮影設定) → [ピクチャープロファイル]
→ [コピー] を選ぶ。

お買い上げ時の設定に戻すには

ピクチャープロファイル番号ごとに取り消せます。すべての設定を一度に取り消すことはできません。

MENUボタン →  (撮影設定) → [ピクチャープロファイル]
→ [リセット] を選ぶ。

タイムコードを設定する(TC/UB設定)

映像に付随するデータとしてタイムコード(TC)とユーザービット(UB)を記録できます。

MENUボタン →  (セットアップ) → [TC/UB設定] →
変更したい設定値を選ぶ。

TC/UB表示設定	カウンター、タイムコード、ユーザービットの表示を設定する。
TC Preset	タイムコードを設定する。
UB Preset	ユーザービットを設定する。
TC Format	タイムコードの記録方式を選ぶ。
TC Run	タイムコードの歩進方法を選ぶ。
TC Make	タイムコードを記録メディアに記録する方法を選ぶ。
UB Time Rec	時刻をユーザービットコードとして記録する/しないを選ぶ。

タイムコードを設定するには

1 MENUボタン →  (セットアップ) → [TC/UB設定] → [TC Preset] を選び、コントロールホイール中央の●を押す。

2 コントロールホイールを回して最初の2桁の数値を選ぶ。

- ・ タイムコードは以下の範囲で設定できます。
[60i] 選択時：00:00:00:00 ~ 23:59:59:29
* 24p設定時は末尾2桁を0 ~ 23のうちの4の倍数のフレームで設定できます。

3 手順2と同様に、他の桁の数値を選び、中央の●を押す。

タイムコードをリセットするには

別売の赤外線リモコン(RMT-845)で、タイムコードリセットを行うことができます。お求めの際は、ソニーのサービスセンターでお買い求めください。

ご注意

- RMT-845では、以下の設定のみ操作できます。それ以外の操作を行うことはできません。
 - タイムコードのリセット
 - 録画スタートストップ

ユーザービットを設定するには

1 MENUボタン →  (セットアップ) → [TC/UB設定] → [UB Preset] を選び、コントロールホイール中央の●を押す。

2 コントロールホイールを回して最初の2桁の数値を選ぶ。

3 手順2と同様に、他の桁の数値を選び、中央の●を押す。

ユーザービットをリセットするには

「ユーザービットを設定するには」の手順2で[リセット]を選び、ユーザービットをリセット(00 00 00 00)します。

TC Format

DF	タイムコードをドロップフレーム*方式で記録する。
NDF	タイムコードをノンドロップフレーム方式で記録する。

* タイムコードは30フレームを1秒として処理されますが、実際のNTSC映像信号のフレーム周波数は約29.97フレーム/秒のため、長時間記録しているうちに実時間とタイムコードにズレが生じてきます。これらを補正してタイムコードと実時間が等しくなるようにしたのがドロップフレームです。ドロップフレームでは毎10分目を除く各分の最初の2フレームが間引かれます。このような補正のないものをノンドロップフレームと呼びます。

ご注意

- 1080/24pで記録するときは、[NDF]に固定されます。

TC Run

タイムコードの歩進を選びます。

Rec Run	記録中のみタイムコードが歩進する。 最後に記録した画像上のタイムコードに連続して記録する。
Free Run	本機の操作に関係なく、連続してタイムコードが歩進する。

ご注意

- [Rec Run] モードで歩進する場合でも、以下のときはタイムコードが不連続になることがあります。
 - 記録方式を切り換えたとき
 - 記録メディアを取りはずしたとき

TC Make

Preset	新たに設定したタイムコードを記録メディアに記録する。
Regenerate	記録メディアに最後に記録されたタイムコードを読み取り、その値に連続するように記録する。 [TC Run] の設定に関係なく、タイムコードは [Rec Run] モードで歩進する。

再生時の機能を使う

静止画と動画を切り換える(ビューモード)

再生方法を選びます。

MENUボタン → □(再生) → [ビューモード] → 希望のモードを選ぶ。

日付ビュー	日付ごとに撮影した画像を表示する。
フォルダービュー (静止画)	静止画のみをフォルダーごとに表示する。
フォルダービュー (MP4)	動画(MP4)のみをフォルダーごとに表示する。
AVCHDビュー	AVCHD動画のみを表示する。
XAVC Sビュー	XAVC S動画のみを表示する。

拡大して見る

静止画再生中に、画像の一部を拡大できます。写真のピントの具合を確認したいときなどに使います。

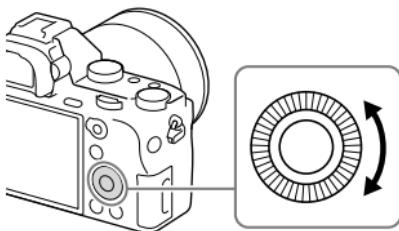
1 拡大したい画像を表示して、

⊕ボタンを押す。



2 コントロールホイールを回して希望の大きさに拡大する。

- 前/後ダイヤルを回すと、同じ拡大倍率のまま、前後の画像に切り替えられる。同じ構図で複数枚撮ったとき、ピントの合い具合を比較できる。



3 コントロールホイールの▲/▼/◀/▶で、拡大表示する場所を選ぶ。

拡大再生を終了するには

MENUボタンまたは、コントロールホイール中央の●を押すと、拡大前の画像に戻ります。

一覧表示で見る

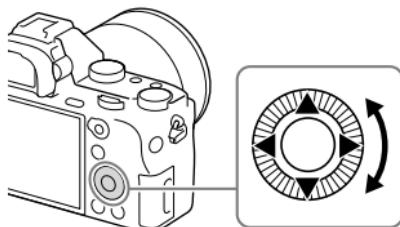
再生時、同時に複数の画像を表示できます。

1 ボタンを押す。

一覧表示画面になる。



2 コントロールホイールの▲/▼/◀/▶を押したり、コントロールホイールを回したりして、画像を選ぶ。



1枚再生画面表示に戻るには

表示したい画像を選んでいる状態で、コントロールホイール中央の●を押します。

表示枚数を切り換えるには

一覧表示画面で表示される枚数を変更できます。

MENUボタン → □ (再生) → [一覧表示] → 希望の設定を選ぶ。

再生表示を変更するには

コントロールホイールで左側のバーを選び、▲/▼で前/次のページを表示できます。また、左側のバーを選んでコントロールホイール中央の●を押すと、カレンダー画面、またはフォルダー選択画面になり、日付、またはフォルダーを選べます。アイコンを選んでビューモードを切り換えることもできます(187ページ)。



回転

1 回転したい画像を表示して、MENUボタン → □ (再生) → [回転] を選ぶ。

2 コントロールホイール中央の●を押す。

画像が左へ回転する。さらに回転させたいときは、手順2を繰り返す。

- 回転した画像は、本機の電源を切ったあとも、回転された状態のまま保持される。

通常再生画面に戻るには

MENUボタンを押す。

ご注意

- 動画は回転できません。
- パソコンに取り込んだ画像は、PlayMemories Homeでは、正しく回転された状態で表示されます。使用するソフトウェアによっては回転していない状態で表示されることがあります。

スライドショー

MENUボタン → □ (再生) → [スライドショー] → [実行] を選ぶ。

撮影した画像を順番に表示する。全画像の表示が終わると自動的に終了する。

- スライドショー再生中に、コントロールホイールの◀/▶で、画像を戻す/送ることができる。
- 一時停止はできない。

途中で終了するには
MENUボタンを押す。

画像を切り換える間隔を変更するには
MENUボタン → □ (再生) → [スライドショー] → [間隔設定] →
希望の秒数を選ぶ。

繰り返し再生するには
MENUボタン → □ (再生) → [スライドショー] → [リピート]
→ [入]を選ぶ。

記録画像の回転表示

画像を再生するときの向きを設定できます。

MENUボタン → □ (再生) → [記録画像の回転表示] → 希望の設定を選ぶ。

オート	本機を回転させると、本機の縦横を判断し、再生している画像が自動で回転します。
マニュアル	縦位置で撮影した画像を縦向きに表示します。また回転機能で表示する向きを設定した場合はその向きに表示します。
切	記録画像を常に横向きに表示します。

保護する(プロテクト)

画像を誤って消さないように保護(プロテクト)します。

1 MENUボタン → □(再生) → [プロテクト] → [画像選択]を選ぶ。

2 コントロールホイールの◀/▶で保護したい画像を選んで、中央の●を押す。

チェックボックスに❖マークが付く。

- 解除するときは、もう一度中央の●を押す。



3 他の画像も保護するときは、手順2を繰り返す。

- 日付、またはフォルダーのチェックボックスを選択すると、日付、またはフォルダー内の画像をまとめて選択することもできる。

4 MENUボタンを押す。

5 ▲/▼で[確認]を選び、中央の●を押す。

画像の保護をまとめて解除するには

表示しているフォルダーごとや日付ごとに、画像の保護をまとめて解除します。

MENUボタン → □(再生) → [プロテクト] → [このフォルダーを全て解除]または[この日付を全て解除]を選ぶ。

ご注意

- [ビューモード]の設定によって、表示される項目が異なります。

プリント指定する

画像を選択する

撮影した静止画を、ご自分のプリンターでプリントする場合やプリント店に依頼する際に、あらかじめどの画像をプリントするかを指定しておくことができます。

指定方法は、下記の手順をご覧ください。

DPOF指定は、印刷後も残ったままとなります。印刷が終了したあとは、解除することをおすすめします。

1 MENUボタン → □(再生) → [プリント指定] → [画像選択] を選ぶ。

2 コントロールホイールの◀/▶で画像を選び、中央の●を押す。

チェックボックスに△マークが付く。

- 解除するときは、もう一度中央の●を押す。

3 他の画像もプリントするときは、手順2を繰り返す。

- 日付、またはフォルダーのチェックボックスを選択すると、日付、またはフォルダー内の画像をまとめて選択することもできる。

4 MENUボタンを押す。

5 ▲/▼で [確認] を選び、中央の●を押す。

ご注意

- RAW画像にはDPOF指定はできません。
- プリントの枚数指定はできません。

日付を入れる

プリントする際に、プリンター側で日付を入れることができます。日付の入る場所(画像内/画像外、サイズなど)は、お使いのプリンターによって異なります。

MENUボタン → □(再生) → [プリント指定] → [印刷設定] → [日付プリント] → [入] → [実行]を選ぶ。

ご注意

- プリンターによっては、日付プリントの機能に対応していないものもあります。

削除する

不要な画像を選んで削除したり、まとめて削除できます。

一度削除した画像は、元に戻せません。削除してよいか、事前に確認してください。

ご注意

- プロテクトされている画像は削除できません。

画像選択削除

1 MENUボタン → □ (再生) → [削除] → [画像選択] を選ぶ。

2 コントロールホイールで削除したい画像を選び、中央の●を押す。

- チェックボックスに△マークが付く。
• 解除するときは、もう一度中央の●を押す。



合計枚数

3 他の画像も削除するときは、手順2を繰り返す。

- 日付、またはフォルダーのチェックボックスを選択すると、日付、またはフォルダー内の画像をまとめて選択することもできる。

4 MENUボタンを押す。

5 コントロールホイールの▲/▼で[確認]を選び、中央の●を押す。

まとめて画像を削除する

表示しているフォルダービュー内または日付内のすべての画像を削除します。

1 MENUボタン → □ (再生) → [削除] →
[このフォルダーの全画像]または[この日付の全画像]を選
ぶ。

2 コントロールホイールの▲/▼で[確認]を選び、中央の●を押
す。

希望のフォルダーまたは日付を表示するには

再生時に▣を押して一覧画面を表示し、コントロールホイールで左
側のバーを選び、▲/▼で希望のフォルダーまたは日付を選びます。

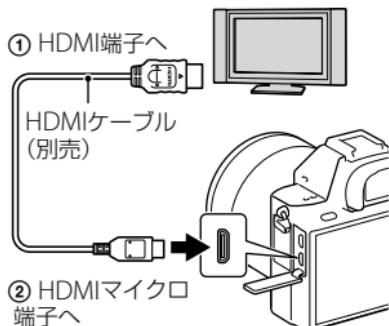
ご注意

- ・[ピューモード]の設定によって、表示される項目が異なります。

テレビやモニターにつなぐ

本機の画像をテレビで見るには、HDMIケーブル(別売)と、HDMI端子のあるハイビジョンテレビが必要です。

1 電源を切った状態で、本機とテレビを接続する。



2 テレビの電源を入れ、入力を切り換える。

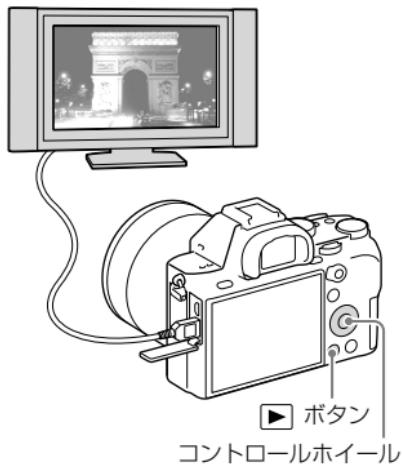
- ・テレビの取扱説明書もあわせてご確認ください。

3 本機の電源を入れる。

撮影した画像がテレビに表示される。

コントロールホイールの◀/▶で画像を選ぶ。

- ・本機のモニターは点灯しません。
- ・再生画面になっていないときは、
▶ボタンを押してください。



ご注意

- HDMIケーブルは、HDMIロゴの付いたもの、またはソニー製のケーブルを推奨します。
- HDMIケーブルは、本機側はHDMIマイクロ端子、テレビ側はテレビの端子にあったタイプのものをお使いください。
- テレビに正しく画面が表示されない場合は、 (セットアップ) の [HDMI設定] → [HDMI解像度] を接続するテレビに合わせて、[1080p] または [1080i] にしてください。
- 一部の機器では正常に動作しない場合があります。
- 本機と接続機器の出力端子同士を接続しないでください。故障の原因になります。

ブラビア プレミアムフォト™について

本機はブラビア プレミアムフォトに対応しています。

ブラビア プレミアムフォトに対応したソニー製テレビにHDMIケーブルで接続出力すると、写真を今までになかった感動の高画質で快適にお楽しみいただけます。

ブラビア プレミアムフォト対応のUSB端子つきソニー製テレビでは、付属のマイクロUSBケーブルでも接続できます。

ブラビア プレミアムフォトとは、写真らしい高精細で微妙な質感や色あいの表現を可能にする機能です。

HDMI設定

HDMIに関する設定を行います。

MENUボタン →  (セットアップ) → [HDMI設定] → 希望の設定を選ぶ。

HDMI解像度	HDMI端子からテレビに出力する解像度を選ぶ。
 24p/60p出力切換	 記録設定]で、[60p 28M(PS)]、[24p 24M(FX)]、[24p 17M(FH)]、[60p 50M]、[24p 50M]を選んでいるときの出力フォーマットを設定する。
HDMI情報表示	HDMI対応テレビ接続時に、テレビ側へ情報表示を行うかを設定する。
 TC出力	HDMIを利用して、他の業務用機器にタイムコードを出力するかどうかを設定する。
 レックコントロール	レックコントロール機能に対応しているレコーダーで使用できる。
HDMI機器制御	ブラビア™リンク対応のテレビと接続した場合、テレビのリモコンで操作するかどうかを設定する。

ご注意

- [TC出力]が[入]のときに、テレビや録画機器に正常に映像が出力されない場合があります。その場合は、[TC出力]を[切]にしてご使用ください。
- HDMI出力した動画をレコーダーで記録する場合には、[音声出力タイミング]を[リップシンク]に設定すると、映像と音声が同期した状態で記録されます。

■ 24p/60p出力切換

【記録設定】で、[60p 28M(PS)]、[24p 24M(FX)]、[24p 17M(FH)]、[60p 50M]、[24p 50M]を選んでいるときの出力フォーマットを設定します。

1 MENUボタン →  (セットアップ) → [HDMI設定] → [HDMI解像度] → [1080p]を選ぶ。

2 【24p/60p出力切換】 → [24p]を選ぶ。

■ TC出力

タイムコード情報をHDMI出力信号に乗せます。画面に出す映像としてではなく、デジタルデータとして伝送し、接続先の機器がそのデータを参照することでタイムデータを知ることができます。

MENUボタン →  (セットアップ) → [HDMI設定] → 【TC出力】 → [入]を選ぶ。

■ レックコントロール

本機と外部レコーダーをつなぐと、本機の操作で外部レコーダーへ録画の開始/停止を行えます。

入	 STBY	外部レコーダーへ記録指示を出せる状態
	 REC	外部レコーダーへ記録指示を出している状態
切	本機の操作で録画を行わない。	

ご注意

- TC出力が[切]のときは、レックコントロールは[切]になります。
-  RECが表示されている場合でも、外部レコーダーが記録できない状態（例えば、メディアに空き容量が無い、バッテリー残量が少ない、外部レコーダーと正しく接続されていない）にあると、外部レコーダーでの記録が正しく行えない場合があります。外部レコーダーで記録を行う際は、外部レコーダーで正しく記録できていることを確認してください。

ブラビア™リンク

本機とブラビアリンクに対応のテレビをHDMIケーブルでつなぐと、テレビのリモコンで操作できます。

1 ブラビアリンクに対応したテレビと本機を接続する(197ページ)。

テレビの入力が自動で切り替わり、本機の画像が表示される。

2 リモコンの「リンクメニュー」ボタンを押す。**3 リモコンのボタンで操作する。****ご注意**

- HDMIケーブルで本機とテレビを接続する場合、操作できる項目が制限されます。
- 2008年以降に発売された「ブラビアリンク(リンクメニュー対応)」に対応したテレビで使用できます。また、リンクメニュー操作はお使いのテレビによって異なります。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。
- 他社のテレビとHDMI接続する場合、テレビのリモコン操作で本機が不要な動きをする場合は、 (セットアップ)の[HDMI設定] → [HDMI機器制御]を[切]にしてください。

4K静止画再生

4K対応テレビに4K解像度で静止画を出力します。

1 本機と4KテレビをHDMIケーブルで接続する(197ページ)。

2 MENUボタン → □(再生) → [4K静止画再生] → [確認]を選ぶ。

ご注意

- 4K対応テレビのみで使用できます。詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

本体の設定を変更する

レンズなしレリーズ

本機を天体望遠鏡に取り付ける場合などは、レンズを取り付けていない状態でもシャッターを切れるように設定します。

MENUボタン → ⚙ (カスタム設定) → [レンズなしレリーズ] → [許可] を選ぶ。

ご注意

- ・天体望遠鏡など、レンズ信号接点を持たないレンズをお使いの場合は、正確な測光が行えません。撮影結果を見て、手動で露出を合わせてください。

オートレビュー

撮影直後に、撮影した画像を確認することができます。その表示時間を変更できます。

MENUボタン → ⚙ (カスタム設定) → [オートレビュー] → 希望の設定を選ぶ。

ご注意

- ・オートレビュー時は、[歪曲収差補正]などの画像処理前の画像を最初に表示したあとに、処理後の画像を表示することがあります。

グリッドライン

構図合わせのための補助線であるグリッドライン表示を設定します。

MENUボタン → ⚙ (カスタム設定) → [グリッドライン] → 希望の設定を選ぶ。

■マークー設定

■マークー表示

入	マークーを表示する。 マークーは記録メディアに記録されません。
切	マークーを表示しない。

■マークー設定

センター	切	センターマークーを表示しない。
	入	画面の中心にマークーを表示する。
アスペクト	切	アスペクト比を表示しない。
	4:3、13:9、14:9、 15:9、1.66:1、 1.85:1、2.35:1	アスペクト比位置にマークーを表示する。
セーフティゾーン	切	セーフティゾーンを表示しない。
	80%、90%	一般的な家庭用テレビで受像できる範囲を選んでマークーを表示する。
ガイドフレーム	切	ガイドフレームを表示しない。
	入	ガイドフレームを表示する。 被写体が水平/垂直になっているかを確認できます。

ご注意

- ・[ピント拡大]、[MFアシスト]中は、マークーを表示できません。
- ・マークー表示は、液晶モニターのみに表示されます(外部に出力することはできません)。
- ・すべてのマークーを同時に表示できます。
- ・[ガイドフレーム]の交差点に被写体を置くと、バランスの良い構図になります。

カスタムキー設定

コントロールホイール/カスタムボタン1/カスタムボタン2/
カスタムボタン3/カスタムボタン4/中央ボタン/左ボタン/右ボタン/
下ボタン/AELボタン/AF/MFボタン/フォーカスホールドボタン*には、
他の機能を割り当てることもできます。

* レンズのフォーカスホールドボタンの機能を設定します。

MENUボタン →  (カスタム設定) → [カスタムキー設定] →
希望のキー → 希望の設定を選ぶ。

割り当てられる機能について

スタンダード ¹⁾	ライブモード	フラッシュモード
調光補正	フォーカスマード	フォーカスエリア
フォーカスセット	露出補正	ISO感度
測光モード	ホワイトバランス	DRO/オートHDR
クリエイティブスタイル	ピクチャーエフェクト	ピクチャープロファイル
顔検出/スマイルシャッター	 美肌効果	 オートフレーミング
手ブレ補正	手ブレ補正調整	手ブレ補正焦点距離
録音レベル	 画像サイズ	 横縦比
 画質	カメラ内ガイド ³⁾	登録
押す間AEL ²⁾	再押しAEL	押す間スポットAEL ²⁾
再押しスポットAEL	押す間FELロック ²⁾	再押しFELロック
押す間FELロック/AEL ²⁾	再押しFELロック/AEL	押す間AF/MFコントロール ²⁾
再押しAF/MFコントロール	中央ボタン押しロックオンAF	瞳AF ²⁾
AFオン ²⁾	フォーカスホールド ²⁾	絞りプレビュー ²⁾
撮影結果プレビュー ²⁾	ズーム	ピント拡大
モニターミュート	ゼブラ	グリッドライン
 マーカー表示切換	音声レベル表示	ピーキングレベル
ピーキング色	スマートフォン転送	ダウンロードアプリ
登録アプリ一覧	モニター明るさ	TC/UB表示切換
未設定		

- 1) 中央ボタンにのみ設定できます。
- 2) 左ボタン/右ボタン/下ボタンには設定できません。
- 3) 中央ボタン/左ボタン/右ボタン/下ボタンには設定できません。

コントロールホイールには、下記が設定できます。

ISO感度/ホワイトバランス/クリエイティブスタイル/
ピクチャーエフェクト/未設定

カスタムキーでのみ設定できる機能

スタンダード	[フォーカスエリア]と [中央ボタン押しロックオンAF]の設定によって ボタンを押したときにできることが変わります。 <ul style="list-style-type: none"> • [フォーカスエリア]が[ゾーン]、 [フレキシブルスポット]のときボタンを押す と、フォーカスエリアの位置を変更できます。 • [フォーカスエリア]が[ワイド]、[中央]で、 [中央ボタン押しロックオンAF]が[入]のとき ボタンを押すと、 [中央ボタン押しロックオンAF]が起動します。 • [フォーカスエリア]が[ワイド]、[中央]で、 [フォーカスマード]が[マニュアルフォーカス]以 外、[中央ボタン押しロックオンAF]が[切]の ときボタンを押している間、AFを行います。
押す間AEL	ボタンを押している間、AEロックします。
再押しAEL	ボタンを押すと、AEロックします。再度押すと 解除します。
押す間スポットAEL	119ページ
再押しきスポットAEL	119ページ
押す間FELロック	135ページ
再押しFELロック	134ページ
押す間FELロック/AEL	135ページ
再押しFELロック/AEL	135ページ
押す間AF/MFコントロール	113ページ

再押しAF/MFコントロール	113ページ
AFオン	106ページ
フォーカスホールド	ボタンを押している間、フォーカスを固定して撮影します。
絞りプレビュー	ボタンを押している間、撮影時の絞りを反映した画像の確認ができます。
撮影結果プレビュー	ボタンを押している間、撮影時の絞り/シャッター/DROの効果を反映した画像の確認ができます。
モニターミュート	一度押すとモニターを黒画面にします。もう一度押すと黒画面を解除します。
ダウンロードアプリ	221ページ
登録アプリ一覧	225ページ
カメラ内ガイド	55ページ
瞳AF	115ページ

電子先幕シャッター

電子先幕シャッターを使うと、短いレリーズタイムラグで撮影できます。

MENUボタン →  (カスタム設定) → [電子先幕シャッター] → 希望の設定を選ぶ。

ご注意

- 大口径レンズを装着して、高速のシャッタースピードで撮影する場合、被写体や撮影環境によってボケ像が欠けることがあります。その場合は[切]に設定してお使いください。
- ミノルタ/コニカミノルタ製レンズを使用するときは[切]に設定してお使いください。
- 高速のシャッタースピードで撮影する場合、撮影条件によっては画面の明るさにムラが出ることがあります。その場合は[切]に設定してお使いください。

モニター明るさ

モニターの明るさをお好みの明るさに自動調整します。

MENUボタン →  (セットアップ) → [モニター明るさ] → 希望の設定を選ぶ。

ご注意

- 室内で[屋外晴天]にすると明るすぎるため、[マニュアル]に設定してください。

ファインダー明るさ

本機は、被写体の明るさに合わせてファインダーの明るさを自動調整します。

これを手動で変えることもできます。

MENUボタン →  (セットアップ) → [ファインダー明るさ] → [マニュアル] → 希望の設定を選ぶ。

表示画質

表示画質を設定します。

MENUボタン →  (セットアップ) → [表示画質] → 希望の設定を選ぶ。

ご注意

- [高画質]に設定すると、[標準]に設定した場合よりもバッテリーの消費が多くなります。

パワーセーブ開始時間

操作していないときにパワーセーブ(省電力)モードになるまでの時間を設定してバッテリーの消耗を防ぎます。パワーセーブ時でも、シャッターボタン半押しなどの操作をすれば、撮影が再開できます。

MENUボタン →  (セットアップ) → [パワーセーブ開始時間] → 希望の設定を選ぶ。

ご注意

- ・テレビ接続時/リモコンモード時はパワーセーブモードになりません。

FINDER/MONITOR

モニター表示とファインダー表示の自動切り替えを無効にして、モニター表示または、ファインダー表示に固定できます。

MENUボタン →  (カスタム設定) → [FINDER/MONITOR] → [ファインダー]または[モニター]を選ぶ。

APS-Cサイズ撮影

本機は35mmフルサイズに対応していますが、APS-Cサイズでの撮影も可能です。[入]にすると、どのレンズを使ってもAPS-Cサイズで記録されます。

MENUボタン →  (カスタム設定) → [APS-Cサイズ撮影] → 希望の設定を選ぶ。

ご注意

- ・APS-C用レンズを装着して、[APS-Cサイズ撮影]を[切]にすると、撮影がうまくいかないことがあります。
- ・[APS-Cサイズ撮影]を[入]にすると、APS-Cサイズのイメージセンサーで撮影するときと同じ画角になります。

レンズ補正を設定する

レンズの周辺光量低下、倍率色収差、歪曲収差を自動で補正します(自動補正対応レンズのみ)。自動補正対応レンズは、専用サポートサイトでご確認ください。

<http://www.sony.jp/support/ichigan/>

レンズ補正(周辺光量)

使用するレンズによって画面の周辺部が暗くなる場合に、自動で光量を補正します。

お買い上げ時の設定は[オート]になっています。

MENUボタン → ⚙ (カスタム設定) → [レンズ補正] → [周辺光量補正] → 希望の設定を選ぶ。

レンズ補正(倍率色収差)

使用するレンズによって画面周辺部で色ずれが起こる場合に、自動で色ずれを補正します。

お買い上げ時の設定は[オート]になっています。

MENUボタン → ⚙ (カスタム設定) → [レンズ補正] → [倍率色収差補正] → 希望の設定を選ぶ。

レンズ補正(歪曲収差)

使用するレンズによって画面の歪みが起こる場合に、自動で歪みを補正します。

お買い上げ時の設定は[切]になっています。

MENUボタン → ⚙ (カスタム設定) → [レンズ補正] → [歪曲収差補正] → 希望の設定を選ぶ。

メモリーカードへの記録方法を設定する

フォーマット

フォーマットすると、プロテクトしてある画像や登録情報(M1～M4)も含めて、すべてのデータが削除され、元に戻せません。

MENUボタン →  (セットアップ) → [フォーマット] → [実行] を選ぶ。

ご注意

- フォーマット中はアクセスランプが点灯します。点灯中はメモリーカードを抜かないでください。
- メモリーカードのフォーマットは、本機で行ってください。パソコンでメモリーカードのフォーマットを行うと、フォーマットの形式によってはメモリーカードが使えなくなることがあります。
- メモリーカードによっては、フォーマットに数分かかる場合があります。
- バッテリー残量が1%以下のときは、フォーマットできません。

ファイル番号

MENUボタン →  (セットアップ) → [ファイル番号] → 希望の設定を選ぶ。

連番	ファイル番号をリセットせず、9999までファイル番号を続ける。
リセット	新規のフォルダーにファイルを記録する場合にはファイル番号をリセットし、0001から番号を付ける。同一フォルダー内にファイルが存在している場合は、その続きから始まる。

ご注意

- ・[リセット]を行うと、ファイル番号はリセットされます。

フォルダー形式

撮影した静止画は、メモリーカードの中のDCIMフォルダーの下に自動生成されたフォルダーに保存されます。

MENUボタン →  (セットアップ) → [フォルダー形式] → 希望の設定を選ぶ。

標準形式	フォルダーナーが、フォルダーナー番号+MSDCFになる。 例：100MSDCF
日付形式	フォルダーナーが、フォルダーナー番号+年月日(西暦 下1桁月日4桁)になる。 例：10040405 (100フォルダー、2014年4月5日)

ご注意

- ・MP4動画のフォルダー形式は「フォルダーナー番号+ANV01」で固定されます。

記録フォルダー選択

標準形式フォルダーを選択中でフォルダーが2つ以上存在する場合、撮影した画像を保存するフォルダー（記録フォルダー）を選びます。

MENUボタン →  (セットアップ) → [記録フォルダー選択] → 希望のフォルダーを選ぶ。

ご注意

- ・日付形式フォルダー設定中は、記録フォルダーの選択はできません。

フォルダー新規作成

メモリーカードの中に、新しいフォルダーを作成します。
既存番号+1のフォルダーが作成されます。次に撮影する画像は新しく作成したフォルダーに記録されます。静止画用のフォルダーとMP4動画用のフォルダーが同時に作成されます。

MENUボタン →  (セットアップ) → [フォルダー新規作成] を選ぶ。

ご注意

- ・他機で使用していたメモリーカードを本機に入れて撮影すると、自動的に新しいフォルダーが作成される場合があります。
- ・1つのフォルダーファイルに記録できる画像は最大4000枚です。容量を超えると、自動的に新しいフォルダーが作成される場合があります。

管理ファイル修復

パソコンでファイルを操作したなどの原因で、画像を管理しているファイルに何らかの異常が発生すると、メモリーカード内の画像が再生できなくなります。

そのような場合に管理ファイルの修復を行います。

MENUボタン →  (セットアップ) → [管理ファイル修復] → [実行] を選ぶ。

ご注意

- ・充分に充電したバッテリーをお使いください。残量の少ないバッテリーを使用して行うと、データを破損するおそれがあります。

アップロード設定(Eye-Fi)

市販のEye-Fiカードを使って、アップロード機能を使うことができます。

Eye-Fiカードが本機のメモリーカードスロットに入っているとき、自動アップロード機能の設定メニューが表示されます。

MENUボタン →  (セットアップ) → [アップロード設定] → [入] を選ぶ。

通信状態の画面表示

	待機中で、送信画像が無い
	アップロード待機中
	接続中
	アップロード中
	エラー発生

ご注意

- Eye-Fiカードはご使用の前に、無線LANアクセスポイントや転送先を設定してください。詳しくはEye-Fiカードに付属の取扱説明書をご覧ください。
- Eye-Fiカードは一部の国、または地域で販売しています。
- Eye-Fiカードに関する問い合わせは、その製造者・販売者に直接ご確認ください。
- Eye-Fiカードはご購入された国、または地域のみで使用が認められています。使用する国、または地域の法律に従ってお使いください。
- Eye-FiカードはワイヤレスLAN機能を持っています。飛行機の中など、使用を禁止されている場所では、Eye-Fiカードを本機に入れないでください。入っている場合は[アップロード設定]を[切]にしてください。
[アップロード設定]が[切]になっていると画面上に  が表示されます。
- 新しいEye-Fiカードを初めて使うときは、カードをフォーマットする前に、カードに書き込まれているEye-Fiマネージャーのインストールファイルをパソコンにコピーしてください。

- Eye-Fiカードは、ファームウェアを最新版にバージョンアップしてからお使いください。バージョンアップについて詳しくは、Eye-Fiカードに付属の取扱説明書をご覧ください。
- 画像アップロード中はパワーセーブ機能は働きません。
-  (エラー発生)が表示された場合は、メモリーカードを抜き差しするか、電源を入れ直してください。それでも表示される場合は、Eye-Fiカードが壊れている可能性があります。
- 無線LANの通信は他の通信機器の影響を受けることがあります。通信状態が良くないときは、接続先のアクセスポイントに近づいてください。
- アップロードできるファイルについては、Eye-Fiカードに付属の取扱説明書をご覧ください。
- 本機はエンドレスモードに対応していません。Eye-Fiを使用する前に、エンドレスモードは必ずオフに設定してください。

好みの設定を登録する

本機に設定を登録する

よく使うモードや数値の組み合わせを2つまで本機に登録でき、モードダイヤルで簡単に呼び出せます。

1 本機を登録したい設定にする。

2 MENUボタン →  (撮影設定) → [登録] を選ぶ。

3 コントロールホイールの◀/▶で登録先の番号「1」または「2」を選び、中央の●を押す。

- 登録したあとも、設定を変更できます。

登録できる項目

撮影モード	シャッタースピード	絞り
 画像サイズ	 横縦比	 画質
パノラマ：画像サイズ	パノラマ：撮影方向	 記録方式
 記録設定	同時ビデオ記録	ドライブモード
フラッシュモード	調光補正	赤目軽減発光
フォーカスモード	フォーカスエリア	 AF補助光
露出値ステップ幅	ISO感度	測光モード
ホワイトバランス	DRO/オートHDR	クリエイティブスタイル
ピクチャーエフェクト	ピクチャープロファイル	 長秒時NR
 高感度NR	中央ボタン押しロックONAF	顔検出/スマイルシャッター
ISO AUTO上限	ISO AUTO下限	 美肌効果
 オートフレーミング	オートモード	シーンセレクション
動画(マニュアル露出)	手ブレ補正	手ブレ補正調整
手ブレ補正焦点距離	 色空間	 オートスローシャッター
音声記録	録音レベル	音声出力タイミング
風音低減		

登録を呼び出すには

モードダイヤルの「1」、「2」から呼び出したい番号を選んでください。

登録した内容を変更するには

呼び出したあとに希望する設定に変更し、同じ番号に再登録してください。

ご注意

- ・プログラムシフトは登録できません。
- ・一部の機能については、本機のダイヤルの位置と、実際に撮影に使われる設定とが一致しなくなります。本機のモニター情報を元に撮影してください。

メモリーカードに設定を登録する

よく使うモードや数値の組み合わせを4つまでメモリーカードに登録でき、メニューから簡単に呼び出せます。

1 本機を登録したい設定にする。

2 MENUボタン → (撮影設定) → [登録] を選ぶ。

3 コントロールホイールの◀/▶で登録先の番号(M1～M4)を選び、中央の●を押す。

- ・登録したあとも、設定を変更できます。

登録を呼び出すには

モードダイヤルを「1」または「2」にしてから、コントロールホイールの◀/▶で呼び出したい番号を選んでください。

- ・MENUボタン →  (撮影設定) → [登録呼び出し] で呼び出すこともできます。
- ・他の同型名の機種でメモリーカードに登録された設定を、本機で呼び出すこともできます。

本機のバージョンを確認する

お手持ちのカメラのバージョンを表示します。本機のファームウェアのアップデートがリリースされたときなどに確認します。

レンズバージョンアップに対応したレンズを装着すると、レンズのバージョンも表示されます。

MENUボタン →  (セットアップ) → [バージョン表示] を選ぶ。

ご注意

- バッテリー残量が  (残量が3個)以上でないと、アップデートは行えません。充分に充電したバッテリーを使うか、ACアダプター AC-PW20 (別売)の使用をおすすめします。

Wi-Fi機能/NFCワンタッチ機能を使う

本機のWi-Fi機能/NFCワンタッチ機能を使って次のことが行えます。

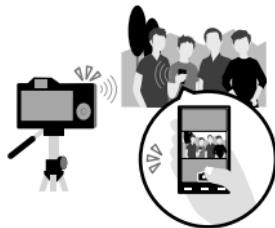
パソコンに画像を保存する



スマートフォンに画像を転送する



スマートフォンをカメラから
リモコンとして使う



テレビで静止画を鑑賞する



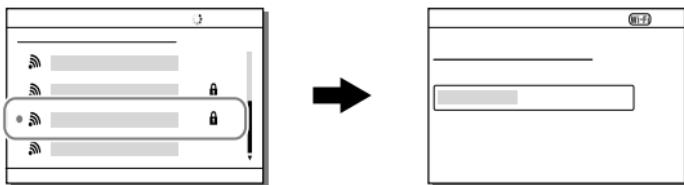
Wi-Fi機能/NFCワンタッチ機能の詳細については、別紙の「Wi-Fi機能/
NFCワンタッチ機能をお使いのお客様へ」またはヘルプガイド(266
ページ)をご覧ください。

カメラを無線アクセスポイントに接続する

お使いの無線アクセスポイントに本機を接続します。お使いの無線アクセスポイントのSSID（アクセスポイントの名称）とパスワードをお手元に準備して操作してください。

1 MENUボタン →  (ワイヤレス) →
[アクセスポイント手動登録] を選ぶ。

2 コントロールホイールの▲/▼で、接続したい無線アクセスポイントを選び、中央の●を押して無線アクセスポイントのパスワードを入力 → [OK] を選ぶ。



ご注意

- 接続できない場合は、無線アクセスポイントの説明書を参照いただきか、管理されている方にお問い合わせください。
- パソコンに画像を保存する場合は、お使いのパソコンに専用のソフトウェアをインストールしてください。

Windowsをお使いの方：PlayMemories Home
<http://www.sony.net/pm/>

Macをお使いの方：Wireless Auto Import（ワイヤレス自動取り込み）
<http://www.sony.co.jp/imsoft/Mac/>

アプリケーションをダウンロードして、起動する

インターネットでアプリケーションダウンロードサイト

 (PlayMemories Camera Apps)に接続して、お好みの機能を本機に追加できます。以下のような機能などを追加できます。

- 多彩なエフェクトで撮影
- ネットワークサービスに直接アップロード

パソコンの推奨環境(Windows/Mac)

アプリケーションをダウンロードして機能を追加するために必要なパソコン推奨環境については、PlayMemories Camera Appsサイト (<http://www.sony.net/pmca/>) でご覧いただけます。

アプリケーションをダウンロードする

ダウンロードサービスをはじめる

1 アプリケーションダウンロードサイトへアクセスする。

<http://www.sony.net/pmca/>

2 画面の指示に従って、サービスアカウントを取得する。

引き続きアプリケーションをダウンロードする場合は、画面の指示に従つて本機にダウンロードする。

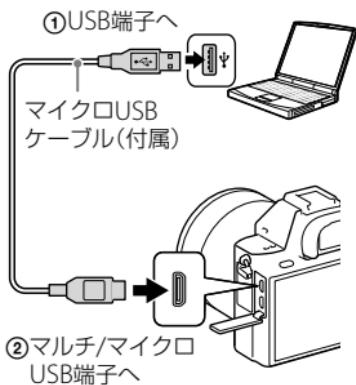
アプリケーションをダウンロードする

1 アプリケーションダウンロードサイトへアクセスする。

<http://www.sony.net/pmca/>

2 お好みのアプリケーションを選び、画面の指示に従って本機にアプリケーションをダウンロードする。

- 画面の指示に従って、パソコンと本機をマイクロUSBケーブル(付属)で接続する。



本機のWi-Fi機能で直接ダウンロードするには

Wi-Fi機能を使って、パソコンを使用せずにダウンロードすることもできます。

MENUボタン →  (アプリケーション) → [アブリ一覧] →  (PlayMemories Camera Apps) を選び、画面の指示に従ってダウンロードする。

- あらかじめサービスアカウントを取得してください。
- MENUボタン →  (ワイヤレス) → [アクセスポイント手動登録] → 接続したいアクセスポイント → [IPアドレス設定]が [マニュアル] になっている場合は [オート] に変更してください。

アプリケーションをアンインストールする

1 MENUボタン →  (アプリケーション) → [アブリ一覧] → [アプリケーション管理] → [管理と削除] を選ぶ。

2 アンインストールするアプリケーションを選ぶ。

3  を選んでアンインストールする。

- アンインストールしたアプリケーションは再度インストールすることができます。詳しくはアプリケーションダウンロードサイトをご覧ください。

アプリケーションの並び順を変える

1 MENUボタン → ■ (アプリケーション) → [アプリ一覧] → [アプリケーション管理] → [並べ替え] を選ぶ。

2 並び順を変えたいアプリケーションを選ぶ。

3 移動先を選ぶ。

PlayMemories Camera Appsのアカウント情報を確認する

MENUボタン → ■ (アプリケーション) → [アプリ一覧] → [アプリケーション管理] → [アカウント情報表示] を選ぶ。

ダウンロードアプリケーションを起動する

アプリケーションダウンロードサイト「PlayMemories Camera Apps」からダウンロードしたアプリケーションを起動します。

MENUボタン → ■ (アプリケーション) → [アプリ一覧] → 希望のアプリケーションを選んで起動する。

アプリケーションが起動します。

アプリケーションをすばやく起動するには

カスタムキーの設定で、[ダウンロードアプリ]、[登録アプリ一覧]を設定しておくと、撮影情報画面でカスタムキーを押すだけでアプリケーションを起動したり、アプリケーション一覧を表示できます。

ソフトウェアを使う

本機で撮影した画像をいっそうご活用いただくために、以下のソフトウェアをご利用ください。

- Image Data Converter
- PlayMemories Home
- Remote Camera Control

パソコンの推奨環境を確認する

ソフトウェアのパソコン環境は以下のURLよりご確認いただけます。
<http://www.sony.net/pcenv/>



Image Data Converterを使う

次のことができます。

- RAW画像を再生し、トーンカーブやシャープネスなど多彩な補正機能で編集
- ホワイトバランスや露出、クリエイティブスタイルなどの画像の調整
- 表示、編集した静止画をパソコンに保存
RAWデータのまま保存する方法と、汎用ファイルフォーマット形式で保存する方法があります。
- 本機で撮影したRAW画像/JPEG画像の表示、比較
- 5段階でランク付け
- カラーラベルの設定

詳しい使いかたはヘルプをご覧ください。

[スタート] → [すべてのプログラム] → [Image Data Converter]
→ [ヘルプ] → [Image Data Converter Ver.4]

Image Data Converterのサポート情報

<http://www.sony.co.jp/ids-sj/>

Image Data Converterをインストールする

1 パソコンのインターネットブラウザで以下のURLにアクセスする。

<http://www.sony.co.jp/ids-sj/>

2 画面の指示に従ってImage Data Converterをダウンロードしてインストールする。

ご注意

- Image Data Converterのインストールにはインターネット接続が必要です。

Image Data Converterガイドを見る

Image Data Converterの操作について詳しくは、Image Data Converterガイドをご覧ください。

Windows :

1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [Image Data Converter] → [ヘルプ] → [Image Data Converter Ver.4]

- Windows 8の場合は、[Image Data Converter Ver.4]を起動して、メニューの[ヘルプ]から[Image Data Converterガイド]を選択します。

Mac :

1 Finderを起動して[アプリケーション] → [Image Data Converter] → [Image Data Converter Ver.4] → メニューの[ヘルプ] → [Image Data Converterガイド]を選ぶ。

- Image Data Converterのサポートページ(<http://www.sony.co.jp/ids-sj/>)でも詳しい操作方法をご確認頂けます。

PlayMemories Homeを使う

撮影した静止画、動画を、パソコンに取り込んで閲覧や活用ができます。XAVC S動画やAVCHD動画をパソコンに取り込む場合はPlayMemories Homeが必要です。



取り込んだ画像を再生する



Windowsは以下の機能も使えます。



カレンダーで表示



動画ディスクを作成



ネットワークサービスにアップロード

PlayMemories Online™
で画像をシェア



- カメラとパソコンを接続し、PlayMemories Homeを起動して、[お知らせ]をクリックするとImage Data ConverterやRemote Camera Controlなどのソフトウェアがダウンロードできます。

ご注意

- PlayMemories Homeのインストールにはインターネット接続が必要です。
 - PlayMemories Online、各ネットワークサービスの利用にはインターネット接続が必要です。
 - Mac用アプリケーションについては以下のURLをご覧ください。
<http://www.sony.co.jp/imssoft/Mac/>
 - 2011年以前の機種に付属のソフトウェアPMB (Picture Motion Browser) がインストールされている場合、PMBはPlayMemories Homeに上書きインストールされます。
- PMBの後継ソフトウェアPlayMemories Homeをご使用ください。

- [**記録設定**]を[60p 28M(PS)]または[60i 24M(FX)],[24p 24M(FX)]にして撮影した動画は、PlayMemories HomeでのAVCHD記録ディスク作成時に変換され、そのままの画質でディスクを作成することはできません。変換には時間がかかります。そのままの画質で保存したいときは、ブルーレイディスクに保存してください。

PlayMemories Homeをインストールする

1 パソコンのインターネットブラウザで以下のダウンロードサイトにアクセスして、[インストール] → [実行]をクリックする。

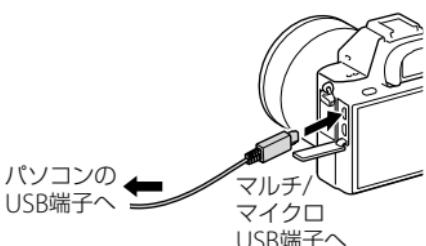
<http://www.sony.net/pm/>

2 画面の指示に従ってインストールを進める。

- PlayMemories Homeサポートページ
(<http://www.sony.co.jp/pmh-sj/>)で詳しい操作方法をご確認ください。

PlayMemories Homeで使用できる機能を追加する

本機とパソコンを接続すると、PlayMemories Homeに機能が追加される場合があります。すでにPlayMemories Homeがインストールされている場合でも、本機とパソコンを一度接続することをおすすめします。



Remote Camera Controlを使う

パソコンと本機を接続してRemote Camera Controlをご利用になると、次のことができます。

- 本機の設定、撮影をパソコンで行います。
- 撮影した画像を直接パソコンに記録します。
- インターバルタイマー撮影を行います。

MENUボタン →  (セットアップ) → [USB接続] → [PCリモート]にしてから使います。詳しい使いかたは、ヘルプをご覧ください。

Remote Camera Controlをインストールする

1 パソコンのインターネットブラウザで以下のURLにアクセスする。

Windows:

<http://www.sony.co.jp/imsoft/Win/>

Mac:

<http://www.sony.co.jp/imsoft/Mac/>

2 画面の指示に従ってRemote Camera Controlをダウンロードしてインストールする。

ご注意

- Remote Camera Controlのインストールにはインターネット接続が必要です。

本機とパソコンを接続する

USB接続方法を設定する

本機をパソコンなどとUSB接続するときの接続方法を設定します。

MENUボタン →  (セットアップ) → [USB接続] → 希望の設定を選ぶ。

オート	接続するパソコンやその他USB機器に応じて、MTPとマスストレージのどちらで接続するのか自動的に選択される。Windows 7、Windows 8の場合にはMTPで接続され、Windows 7、Windows 8特有の機能が使用できる。
マスストレージ	本機とパソコン、その他USB機器をマスストレージ接続する。
MTP	本機とパソコン、その他USB機器をMTP接続する。Windows 7、Windows 8の場合にはMTPで接続され、Windows 7、Windows 8特有の機能が使用できる。
PCリモート	Remote Camera Controlを使って、パソコンから撮影したり、撮影した画像をパソコン内に保存したりする。

ご注意

- [USB接続]を[オート]に設定しているときは、接続に時間がかかる場合があります。
- Windows 7、Windows 8接続時にデバイスステージ*が表示されない場合、[USB接続]を[オート]に設定してください。
* 接続されたカメラなどを管理できるメニュー画面(Windows 7、Windows 8の機能)です。

USB接続モードを設定する(USB LUN 設定)

本機をパソコンなどとUSB接続するとき、USB接続の機能を制限して互換性を高めます。通常は[マルチ]のまま使い、どうしても接続できない場合のみ、[シングル]に設定します。

MENUボタン → (セットアップ) → [USB LUN 設定] → 希望の設定を選ぶ。

マルチ	通常はこちらを選ぶ。
シングル	[マルチ]で接続できないときは、こちらを選ぶ。

パソコンと接続する

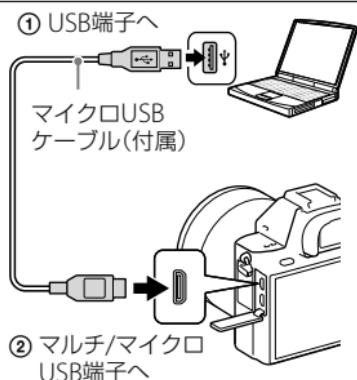
1 充分に充電したバッテリーを本機に入れる、またはACアダプター AC-PW20 (別売)を使い、本機とコンセントを接続する。

2 本機とパソコンの電源を入れる。

3 (セットアップ)の[USB接続]が[マスストレージ]になっていることを確認する。

4 本機とパソコンを接続する。

- 初回接続時のみ、パソコンが本機を認識するための作業を自動的に行います。作業が終わるまでお待ちください。



画像を取り込んで見る(Windows)

PlayMemories Homeを使うと、簡単に画像を取り込めます。

PlayMemories Homeを使わずに画像をパソコンに取り込むには

本機とパソコンを接続して自動再生ウィザードが起動したら、[フォルダを開いてファイルを表示] → [OK] → [DCIM]または[MP_ROOT]をクリックして、取り込みたい画像をパソコン内にコピーしてください。

ファイル名について

フォルダー	ファイルの種類	ファイル名
DCIMフォルダー	JPEGファイル	DSC0□□□□.JPG
	JPEGファイル(AdobeRGB)	_DSC□□□□.JPG
	RAWファイル	DSC0□□□□.ARW
	RAWファイル(AdobeRGB)	_DSC□□□□.ARW
MP_ROOTフォルダー	MP4ファイル(1440×1080 12M)	MAH0□□□□.MP4
	MP4ファイル(VGA 3M)	MAQ0□□□□.MP4

- （ファイル番号）は0001～9999の半角数字です。
- [**画質**]を[RAW+JPEG]で撮影した場合、RAWファイルとJPEGファイル名の数字部分は同じです。

ご注意

- XAVC S動画やAVCHD動画を取り込むなどの操作はPlayMemories Homeを使用してください。
- 本機とパソコンを接続した状態で、パソコンから本機のAVCHD動画ファイルやフォルダーを操作した場合、画像ファイルが壊れたり、再生できなくなることがあります。パソコンから本機のメモリーカード上のAVCHD動画を削除したり、コピーをしたりしないでください。このような操作をした結果に対し、当社は責任を負いかねます。

画像を取り込んで見る(Mac)

PlayMemories Homeを使うと、簡単に画像を取り込めます。

PlayMemories Homeを使わずに画像をパソコンに取り込むには

- 1 本機とパソコンを接続したら[デスクトップ画面上の新しく認識されたアイコン] → [取り込みたい画像の入ったフォルダ]の順にダブルクリックする。
- 2 画像ファイルをハードディスクアイコンにドラッグ&ドロップする。
ハードディスクに画像ファイルがコピーされる。
- 3 [ハードディスクアイコン] → [画像ファイル]の順にダブルクリックする。
画像が表示される。

Mac用ソフトウェアについて

その他Mac用ソフトウェアの詳細は以下のURLをご覧ください。

<http://www.sony.co.jp/imsoft/Mac/>

パソコンとの接続を切断する

以下の操作を行いたいときは、1～2の手順をあらかじめ行ってください。

- マイクロUSBケーブルを抜く。
- メモリーカードを取り出す。
- 本機の電源を切る。

1 タスクトレイの[■] (ハードウェアを安全に取り外してメディアを取り出す)をクリックする。

2 [ILCE-7M2の取り出し]をクリックする。

ご注意

- Mac使用時は、あらかじめメモリーカード、またはドライブのアイコンをゴミ箱にドラッグ＆ドロップしてください。パソコンとの接続が切断されます。
- Windows 7、Windows 8使用時は、切断アイコンが出ない場合があります。その場合は前記の手順を行わずに切断できます。
- アクセスランプが点灯しているときは、マイクロUSBケーブルを抜かないでください。データが壊れことがあります。

動画のディスクを作成する

本機に記録したAVCHD動画からディスクを作成することができます。

動画ディスクの作りかたを選ぶ

本機で記録したAVCHD動画からディスクを作成することができます。ディスクの種類によって再生可能な機器が異なります。お使いの再生機器に合わせて、作成するディスクの種類を選択してください。作成方法は、PlayMemories Homeを使ってパソコンで作成する方法(Windowsのみ)と、レコーダーなどのパソコン以外の機器を使って作成する方法を紹介します。

ご注意

- Mac版のPlayMemories Homeではディスクを作成できません。
- MP4、XAVC S動画からはディスクを作成できません。

ディスクの種類/目的	記録できる動画画質			再生機器
	PS	FX	FH	
 ハイビジョン画質で残したい	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	ブルーレイディスク再生機器 (ソニー製ブルーレイディスクプレーヤー、プレイステーション3など)
 ハイビジョン画質 (AVCHD記録ディスク)で残したい	<input type="checkbox"/> *	<input type="checkbox"/> *	<input type="radio"/>	AVCHD規格対応再生機器 (ソニー製ブルーレイディスクプレーヤー、プレイステーション3など)
 標準画質で記録して残したい	<input type="checkbox"/> *	<input type="checkbox"/> *	<input type="checkbox"/> *	一般的なDVD再生機器(DVDプレーヤー、DVD再生可能なパソコンなど)

- * [■■■記録設定]を[60p 28M(PS)]または[60i 24M(FX)],[24p 24M(FX)]にして撮影した動画は、PlayMemories HomeでのAVCHD記録ディスク作成時に変換され、そのままの画質でディスクを作成することはできません。変換には時間がかかります。そのままの画質で保存したいときは、ブルーレイディスクに保存してください。

ブルーレイディスクを作るには

パソコンに取り込んだAVCHD動画から、ブルーレイディスクを作成できます。

お使いのパソコンがブルーレイディスク作成に対応している必要があります。

ディスクは、BD-R（書き換え不可）、BD-RE（書き換え可）が使えます。
追加記録はできません。

ブルーレイディスクをPlayMemories Homeで作成するには専用のアドオンソフトウェアをインストールする必要があります。詳しくは、以下のURLをご覧ください。

<http://support.d-imaging.sony.co.jp/BDUJ/>

インストールには、お使いのパソコンをインターネットに接続する必要があります。

ご注意

- [60p 28M (PS)]で撮影した動画からPlayMemories Homeを使って作成したブルーレイディスクは、AVCHD規格 Ver.2.0に対応した機器でのみ再生できます。

PlayMemories Homeで使えるディスクの種類について

PlayMemories Homeでは以下の12 cmのディスクを使えます。ブルーレイディスクについては、「ブルーレイディスクを作るには」をご覧ください。

ディスクの種類	特徴
DVD-R / DVD+R / DVD+R DL	書き換えできない。
DVD-RW / DVD+RW	書き換えて再利用できる。

パソコン以外の機器で動画ディスクを作成する

ブルーレイレコーダーなどでもディスクを作成することができます。機器によって作成できるディスクの種類が異なります。

使用する機器	作成できるディスクの種類
 ブルーレイレコーダーを使ってブルーレイディスクや標準画質のディスクを作成する。	 Blu-ray  DVD ハイビジョン画質 標準画質
 HDDレコーダーなどを使って標準画質のディスクを作成する。	 DVD 標準画質

ご注意

- 作成方法の詳細は、お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。
- [60p 28M (PS)]で撮影した動画からブルーレイディスクを作成するには、AVCHD規格Ver.2.0に対応した機器が必要です。また、作成したブルーレイディスクを再生するには、AVCHD規格Ver.2.0に対応した機器が必要です。

困ったときは

困ったときは、下記の流れに従ってください。

❶ 240～248ページの項目をチェックし、本機を点検する。

❷ バッテリーを取りはずし、約1分後再びバッテリーを入れ、本機の電源を入れる。

❸ 設定リセットをする(54ページ)。

❹ **α**専用サポートサイトで確認する。
<http://www.sony.jp/support/ichigan/>

❺ 相談窓口に電話で問い合わせる。

バッテリー・電源

本機にバッテリーを入れられない。

- ・バッテリーの先端でロックレバーを押しながら入れてください(56ページ)。
- ・バッテリーはNP-FW50のみ使用できます。NP-FW50かどうか確認してください。

バッテリーの残量表示が正しくない。またはバッテリー残量表示が充分なのに電源がすぐ切れる。電源が入らない。

- ・温度が極端に高い、または低いところで使用しているときの現象です(254ページ)。
- ・バッテリーが消耗しています。充電されたバッテリーを取り付けてください(56ページ)。
- ・バッテリーの寿命です(260ページ)。新しいバッテリーと交換してください。
- ・バッテリーが正しく取り付けられているか確認してください(56ページ)。

電源が切れる。

- 本機やバッテリーの温度によっては、カメラを保護するために、自動的に電源が切れることができます。この場合は、電源が切れる前にモニターにメッセージが表示されます。

電池の消耗が早い。

- [リモコン]が[入]になっているときは、パワーセーブ機能が働きません。リモコン使用後は[切]にしてください。

充電できない。

- 本機の電源を切った状態で充電してください。

バッテリー充電中、充電ランプが点滅する。

- バッテリーはNP-FW50のみ使用できます。NP-FW50かどうか確認してください。
- バッテリーを取りはずし、もう一度同じバッテリーを本機に入れてください。
- 1年以上使用していないバッテリーは劣化の可能性があります。
- 充電に適した範囲外にあるため、充電の一時待機状態になっています。バッテリーの充電は周囲温度が10°C ~30°Cの環境で行うことをおすすめします。

電源を入れてもモニターがつかない。

- [FINDER/MONITOR]が[ファインダー]になっています。
[FINDER/MONITOR]を[オート]にしてください(209ページ)。

撮影する

ファインダーの画像がはっきりしない。

- 視度を正しく調整してください(21ページ)。

ファインダーに画像が映らない。

- [FINDER/MONITOR]が[モニター]になっています。
[FINDER/MONITOR]を[オート]または、[ファインダー]にしてください(209ページ)。
- ファインダーに接眼してください。

モニターに画像が映らない。

- [FINDER/MONITOR]が[オート]でウェストレベル撮影をする場合、アイセンサーが反応してモニターが消灯します。[FINDER/MONITOR]を[モニター]にしてください。

シャッターが切れない。

- 書き込み禁止スイッチまたは誤消去防止スイッチのあるメモリーカードを使用し、スイッチが「LOCK」になっています。解除してください。
- メモリーカードの空き容量を確認してください。
- レンズが正しく取り付けられていません。正しく取り付けてください(62ページ)。
- 本機を天体望遠鏡などに取り付けた場合は、[レンズなしレリーズ]を[許可]にして撮影してください(203ページ)。
- セルフタイマーになっている。

撮影に時間がかかる。

- ノイズ軽減処理機能が働いています(164ページ)。故障ではありません。
- RAWモードで撮影しています(152ページ)。RAWモードでの撮影はデータ量が大きいため、撮影に多少時間がかかる場合があります。
- オートHDR処理中です(139ページ)。
- マルチショットNR処理中です(137ページ)。

同じ画像が数枚撮影される。

- ドライブモードが連続撮影、またはプラケット撮影になっています。[1枚撮影]にしてください(121ページ)。
- 撮影モードが[プレミアムおまかせオート]になっていて、[プレミアムオート画像抽出]が[切]になっています(79ページ)。

ピント(フォーカス)が合わない。

- 被写体が近すぎます。レンズの最短撮影距離を確認してください。
- マニュアルフォーカスになっている。[フォーカスマード]を[マニュアルフォーカス]以外にしてください(101ページ)。
- 光量が不足している。

アイスターAFが動かない。

- アイスターAFはマウントアダプター LA-EA2/LA-EA4（別売）を使用したときのみ働きます。
- [アイスターAF]を[入]にしてください（46ページ）。
- シャッターボタンを半押ししてください。

正しい撮影日時が記録されない。

- 日付・時刻を合わせてください（66ページ）。
- エリア設定で現在地と異なる場所が設定されています。[エリア設定]を設定し直してください（66ページ）。

シャッターを半押しすると絞り値、シャッタースピード、測光インジケーターが点滅する。

- 被写体が明るすぎる、または暗すぎるため、本機の調整の範囲を超えていません。設定し直してください。

画像が白っぽくなる（フレア）。**光のにじみが現れる（ゴースト）。**

- 強い光源にカメラを向けるとレンズに余分な光が入ることで画像が白っぽくなったり（フレア）、光のにじみが現れたり（ゴースト）することがあります。故障ではありません。
- ズームレンズ使用時は、レンズフードを取り付けてください。また強い光源に向けないように構図を工夫して撮影してください。

画像の隅が暗くなる。

- フィルターやフードをご使用の場合は、いったん取りはずしてお試しください。フィルターの厚みやフードの不適切な取り付けにより、画像にフィルターやフードが写り込むことがあります。また、レンズの光学的な特性により、画像周辺部が暗く写る場合（光量低下）があります。この場合は[周辺光量補正]（210ページ）で補正することができます。

被写体の目が赤く写る。

- [赤目軽減発光]を[入]にしてください（129ページ）。
- 被写体に近づいてフラッシュ調光距離内で撮影してください。

モニターに点が現れて消えない。

- 故障ではありません。これらの点は記録されません（15ページ）。

モニターの表示が普段と異なる。

- DISPボタンを押して、モニターの表示をお好みの設定に変えてください(96ページ)。

画像がブレる。

- 暗いところでフラッシュを使わずに撮影したので、手ブレを起こしています。暗いところでの撮影はシャッタースピードが遅くなるので、三脚またはフラッシュの使用をおすすめします(128ページ)。
- [手ブレ補正]が[入]になっているか、確認してください。
- [手ブレ補正調整]を[マニュアル]でご使用している場合、正しい焦点距離が設定されているか確認してください。

音声が正しく記録されない。

- 録音レベルを調節して音量を最低に絞ると、音声は記録されません。
- 録音レベルを調節して音量を最大にすると、音声が割れやすくなります。

電源オン状態で、本体が振動する。

- 本体内手ブレ補正機構のため、イメージセンサーが上下左右に動きます。故障ではありません。

電源オフ状態で、本体を振ると音や振動を感じる。

- 手ブレ補正のイメージセンサーシフト機構が動くためです。故障ではありません。

画像を見る

再生できない。

- パソコンでフォルダー/ファイルの名前を変更したためです(234ページ)。
- パソコンで画像を加工したファイルや、本機以外で撮影した画像は本機での再生は保証いたしません。
- パソコン内の画像を本機で再生するにはPlayMemories Homeを使って画像をコピーしてください。
- USBモードになっています。USB接続を終了してください(236ページ)。

画像を削除する

削除できない。

- 画像のプロテクトを解除してください(192ページ)。

誤って消してしまった。

- 一度削除した画像は元に戻せません。誤消去を防止したい画像には、あらかじめプロテクトをかけてください(192ページ)。

パソコン

最新サポート情報は、**α**専用サポートサイトをご覧ください。

<http://www.sony.jp/support/ichigan/>

対応しているOSがわからない。

- 「パソコンの推奨環境」を確認してください(226ページ)。

本機がパソコンに認識されない。

- 本機の電源が入っているか確認してください。
- バッテリー残量が少ないときは、充電されたバッテリーを取り付けてください(56ページ)。
- 接続には、付属のマイクロUSBケーブルを使ってください(233ページ)。
- 一度パソコンと本機からUSBケーブルを抜いて再びしっかりと差し込んでください。
- パソコンのUSB端子に、本機/キーボード/マウス以外の機器が接続されているときは、取りはずしてください。
- USBハブ経由などでなく、本機とパソコンを直接接続してください(233ページ)。

画像をコピーできない。

- 本機とパソコンを正しくUSB接続してください(233ページ)。
- OSに対応した手順でコピーしてください(234、235ページ)。
- パソコンでフォーマットしたメモリーカードで撮影した場合、画像をパソコンへコピーできないことがあります。本機でフォーマットしたメモリーカードで撮影してください(211ページ)。

画像を再生できない。

- PlayMemories Homeをお使いの場合はPlayMemories Homeのヘルプをご覧ください。
- パソコンメーカーまたはソフトウェアメーカーにお問い合わせください。

USB接続をしたときにPlayMemories Homeが自動起動しない。

- パソコンの電源を入れた状態でUSB接続をしてください(233ページ)。

メモリーカード

本機に入らない。

- メモリーカードを入れる向きが違っています。正しい向きにして入れてください(60ページ)。

記録できない。

- メモリーカードの容量がいっぱいになっています。不要な画像を削除してください(76、195ページ)。
- 本機では使えないメモリーカードが入っています(61、257ページ)。

誤ってフォーマットしてしまった。

- フォーマットすると、メモリーカード内のデータはすべて削除され、元に戻せません。

プリントする

プリントできない。

- RAW画像はプリントできません。RAW画像をプリントするには、Image Data ConverterでJPEG画像に変換してください。

画像の色合いがおかしい。

- AdobeRGBで撮影した画像を、AdobeRGB (DCF2.0/Exif2.21)に対応していないsRGB環境下のプリンターで印刷すると、低彩度な画像になります(167ページ)。

両端が切れてプリントされる。

- プリンターによっては、画像の上下左右が切れることができます。特に横縦比が[16:9]のときは、左右が大きく切れることができます。
- お手持ちのプリンターでプリントする場合は、あらかじめトリミングやふちなしプリント機能を解除しておいてください。機能の有無は、プリンターのメーカーにお問い合わせください。
- お店でプリントする場合は、画像の両端が切れないようにプリントできるかどうか、あらかじめお店にお問い合わせください。

日付を入れてプリントできない。

- PlayMemories Homeを使ってプリントすると日付挿入ができます(229ページ)。
- お店でプリントするときは、日付挿入を希望すれば、日付を入れてプリントできます。

その他

レンズがくもる。

- 結露しています。電源を切って約1時間そのままにしてから使用してください(254ページ)。

電源を入れると、[エリア/日付/時刻を設定してください]というメッセージが表示される。

- バッテリーが消耗したまま、または本機のバッテリーを取り出したまま放置したため、日時の設定が失われました。バッテリーを充電して、日時を再設定してください(66、255ページ)。バッテリー充電のたびにリセットされる場合は、内蔵充電式バックアップ電池が消耗している場合があるため、相談窓口にお問い合わせください。

撮影残り画像数が減らなかったり、一度に2枚減ったりする。

- JPEG画像の場合、画像によって圧縮率や圧縮後のファイルサイズが変わることです(152ページ)。

リセット操作をしていないのに、設定内容がリセットされる。

- 電源スイッチが「ON」のままバッテリーを取り出すと、設定内容がリセットされることがあります。バッテリーを取り出すときは、電源スイッチを「OFF」にして、アクセスランプが点灯していないのを確かめてから取り出してください(22、59ページ)。

本機が正常に作動しない。

- 本機の電源を切ってバッテリーを一度取り出し、入れ直してください。温度が上がっているときには、いったんバッテリーを取りはずし、本機の温度が下がってからこれらの処置を行ってください。
- 別売のACアダプター使用時は、一度コードを抜いて、電源を入れ直してください。それでも直らない場合や何度も繰り返す場合は故障ですので、お買い上げ店または相談窓口にお問い合わせください。

画面に「--E-」が表示される。

- メモリーカードを一度取り出し、入れ直してください。それでも直らない場合は、メモリーカードをフォーマットしてください。

警告表示

画面には、次のような表示が出ることがあります。

エリア/日付/時刻を設定してください

- エリアと日付、時刻を設定する。長時間使用していない場合は内蔵の充電式バックアップ電池を充電する(66、255ページ)。

電池が少ないので実行できません

- イメージセンサーのクリーニングを実行しようとしたが、バッテリー残量が少ないので実行できない。バッテリーを充電するか、別売のACアダプターを使用する。

このメモリーカードは使えません フォーマットしますか？

- パソコンでフォーマットを行い、ファイルシステムを変更した。
[実行]を選んでフォーマットを行ってください。フォーマットをすると本機で使用できるようになりますが、カード内のデータはすべて削除されます。また、フォーマットに多少時間がかかることがあります。
それでもメッセージが出る場合は、カードを交換してください。

メモリーカードエラー

- 本機では使えないカードが入っている。または、フォーマットに失敗した。

メモリーカードを入れ直してください

- 本機では使えないメモリーカードが入っている。
- メモリーカードが壊れている。
- メモリーカードの端子が汚れている。

メモリーカードがロックされています

- 書き込み禁止スイッチまたは誤消去防止スイッチのあるメモリーカードを使用し、スイッチが「LOCK」になっている。解除する。

ノイズリダクション実行中

- 長秒時ノイズリダクション、高感度ノイズリダクションが機能した場合、シャッターが開いていた時間分だけ、ノイズ軽減処理を行う。この間は次の撮影はできない。

表示できない画像です

- 他のカメラで撮影した画像や、パソコンで画像を加工した場合は表示できないことがある。

レンズの装着を確認してください
非対応レンズの場合は、カスタム
設定メニューでレリーズを許可に
できます

- レンズが正しく装着されていない。またはレンズが取り付けられていない。
- 天体望遠鏡などにカメラを取り付ける場合は、
[レンズなしレリーズ]を[許可]にする。

DPOF指定できません

- RAW画像をDPOF指定しようとしている。

しばらく使用できません

カメラの温度が下がるまでお待ち
ください

- 連続撮影したため、本機の温度が上がった。

本機の電源を切って、本機の温度が下がり再び撮影可能になるのを待ってから撮影してください。

[E]

- 長時間撮影したため、本機の温度が上がった。撮影を終了してください。

この動画記録方式では 撮影できません

- [記録方式]を[MP4]にしてください。



- 本機で日付を管理できる枚数を越えている。



- 本機の管理ファイルへの記録ができない。PlayMemories Homeで、すべての画像をパソコンに取り込み、メモリーカードを修復してください。

カメラエラー 電源を入れなおす てください

システムエラー

- 本機の電源を切ってバッテリーを一度取り出し、入れ直す。何度も繰り返す場合は相談窓口にお問い合わせください。

管理ファイルに不整合が見つかり ました

修復しますか？

- 管理ファイルが破損しているため、AVCHD動画の撮影、再生ができない。画面の指示に従い修復してください。

拡大できません

回転できない画像です

- 他のカメラで撮影した画像は、拡大/回転できないことがある。

これ以上フォルダー作成できません

- 上3桁の番号が「999」のフォルダーがメモリーカード内にある。本機でこれ以上のフォルダーを作成できない。

本体のお手入れ

カメラ本体の清掃

- レンズ信号接点などマウントの内側にある本機の内部の部品には触れないでください。マウント内側のほこりは市販のプロアー*で吹き飛ばしてください。イメージセンサーの清掃は252ページをご覧ください。
* スプレー式のプロアーは故障の原因となりますので使用しないでください。
- その他、本体表面の清掃は、水やぬるま湯を少し含ませた柔らかい布で軽く拭いたあと、からぶきします。本機の表面が変質したり塗装がはげたりすることがあるので、以下のことは行わないでください。
 - シンナー、ベンジン、アルコール、化学ぞうきん、虫除け、日焼け止め、殺虫剤のような化学薬品類
 - 上記が手についたまま本機を扱うこと
 - ゴムやビニール製品との長時間の接触

レンズの清掃

- シンナーやベンジンなどの有機溶剤を含むクリーナーは絶対に使わないでください。
- レンズ面を清掃するときは、市販のプロアーでほこりなどを取り除いてください。汚れがひどい場合は、柔らかい布やレンズティッシュにレンズクリーナーを染み込ませ、レンズの中央から円を描くように軽くふいてください。レンズクリーナーを直接レンズ面にかけないでください。

イメージセンサーをクリーニングする

本機内にゴミやほこりが入ってイメージセンサー（光を電気信号に変える部分）に付着すると、撮影条件によっては、ゴミやほこりが画像に写り込むことがあります。付着した場合は、以下の手順でイメージセンサーの清掃を行ってください。

ご注意

- ・ 清掃はすみやかに行ってください。
- ・ スプレー式のプロアーは、水滴が本機内部に飛び散るので使用しないでください。

カメラで自動クリーニングを行う

1 バッテリー容量が充分にあることを確認する(59ページ)。

2 MENUボタン →  (セットアップ) →
[クリーニングモード]を選ぶ。

3 コントロールホイールの▲/▼で[実行]を選び、中央の●を押す。

イメージセンサーが短時間振動して、ゴミをふるい落とす。

4 本機の電源を切る。

プロアーを使って清掃を行う

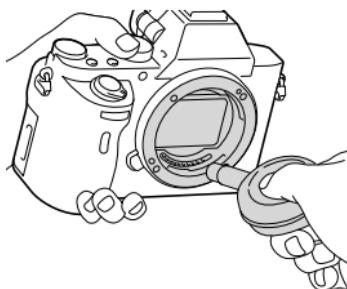
カメラで自動クリーニングを行ったあと、更に清掃が必要な場合には、以下の手順でプロアーを使った清掃を行ってください。

1 「カメラで自動クリーニングを行う」の1～4の手順でクリーニングモードを実行する。

2 レンズをはずす(63ページ)。

3 プロアーでイメージセンサー表面とその周辺のほこりを吹き飛ばす。

- プロアーの先端をイメージセンサーに当たないようにして、マウントより中に入れないでください。
- ほこりが下に落ちやすいよう、本機をやや下向きにして手早く行ってください。



4 レンズを取り付ける。

ご注意

- 上記の手順でクリーニングを行っても取れない場合は、相談窓口(裏表紙)にお問い合わせください。

使用上のご注意

使用/保管してはいけない場所

- ・異常に高温になる場所
炎天下や夏場の窓を閉め切った自動車内は特に高温になり、放置すると変形したり、故障したりすることがあります。
- ・直射日光の当たる場所、熱器具の近くでの保管
変色したり、変形したり、故障したりすることがあります。
- ・激しい振動のある場所
- ・強力な磁気のある場所
- ・砂地、砂浜などの砂ぼこりの多い場所
海辺や砂地、あるいは砂ぼこりが起ころうな場所などでは、砂がかからないようにしてください。故障の原因になるばかりか、修理できなくなることもあります。
- ・湿度の高い場所
レンズにカビが発生することがあります。

保管方法

使用しないときは、必ずレンズフロントキャップまたはボディキャップを付けてください。ボディキャップを付ける際には、本機内部にほこりが入るのを防ぐため、ボディキャップのほこりを落としてから付けてください。

持ち運び時のご注意

本機に三脚を取り付けたまま、持ち運ばないでください。
三脚取り付け部が破損するおそれがあります。

動作温度にご注意ください

本機の動作温度は約0～40℃です。動作温度範囲を超える極端に寒い場所や暑い場所での撮影はおすすめできません。

結露について

結露とは、本機を寒い場所から急に暖かい場所へ持ち込んだときなどに、本機の内部や外部に水滴が付くことです。この状態でお使いになると、故障の原因になります。

結露を起こりにくくするために

本機を寒いところから急に暖かい所に持ち込むときは、ビニール袋に本機を入れて、空気が入らないように密閉してください。約1時間放置し、移動先の温度になじんでから取り出します。

結露が起きたときは

電源を切って結露がなくなるまで約1時間放置し、結露がなくなつてからお使いください。特にレンズの内側に付いた結露が残ったまま撮影すると、きれいな画像を記録できませんのでご注意ください。

内蔵の充電式バックアップ電池について

本機は日時や各種の設定を電源の入/切や電池の有無に関係なく保持するため充電式バックアップ電池を内蔵しています。充電式バックアップ電池は本機を使用している限り常に充電されていますが、使う時間が短いと徐々に放電し2か月程度まったく使わないと完全に放電してしまいます。充電してから使用してください。ただし、充電式バックアップ電池が充電されていない場合でも、日時を記録しないのであれば本機を使うことができます。バッテリー充電のたびにリセットされる場合は、内蔵充電式バックアップ電池が消耗している場合があります。相談窓口にお問合せください(裏表紙)。

内蔵の充電式バックアップ電池の充電方法

本機に充電されたバッテリーを入れるか、ACアダプターを使ってコンセントにつないで、本機の電源を切ったまま24時間以上放置する。

メモリーカードについて

メモリーカードおよびカードアダプターにラベルなどを貼らないでください。故障の原因になります。

本機の廃棄/譲渡に関するご注意

個人情報保護のため、本機を廃棄、譲渡するときは以下の操作を行ってください。

- [設定リセット] → [初期化] (54ページ)

メモリーカードを廃棄/譲渡するときのご注意

本機やパソコンの機能による[フォーマット]や[削除]では、メモリーカード内のデータは完全には消去されないことがあります。メモリーカードを譲渡するときは、パソコンのデータ消去専用ソフトなどを使ってデータを完全に消去することをおすすめします。また、メモリーカードを廃棄するときは、メモリーカード本体を物理的に破壊することをおすすめします。

撮影・再生に関してのご注意

- 本機は防じん、防滴性に配慮して設計されていますが、防水性能は備えていません。雨中での使用時は、本機やレンズに雨がかからないようにしてください。使用後に汚れた場合は、本機を清掃してください。水、砂、ほこり、塩分などが本機に残っていると、故障の原因になります。
- 砂やほこりの舞っている場所でのご使用は故障の原因になります。
- 結露が起きたときは、結露を取り除いてからお使いください(254ページ)。
- 本機に振動や衝撃を与えないでください。誤作動したり、画像が記録できなくなるだけでなく、メモリーカードが使えなくなったり、撮影済みの画像データが壊れることができます。
- 本機や付属品などは乳幼児の手の届く場所に置かないでください。メモリーカードなどを飲みこむ恐れがあります。万一飲みこんだ場合は、直ちに医師に相談してください。

海外で使用するには

付属のACアダプターやACアダプターAC-PW20(別売)は全世界(AC100V~240V・50/60Hz)で使えます。ただし、地域によってはコンセントに差し込むための変換プラグアダプターが必要になる場合があります。あらかじめ旅行代理店などでおたずねのうえ、ご用意ください。

コンセント形状例					
地域	主に北米	主にヨーロッパ			
変換プラグアダプター	不要	必要			

ご注意

- 電子式変圧器(トラベルコンバーター)は不要です。故障の原因となるので使わないでください。

海外のテレビで見る(カラーテレビ出力方式)

本機で撮影した画像をテレビで見るとときは、本機と同じカラーテレビ方式(NTSC)のテレビが必要です。

NTSC方式

日本、アメリカ、エクアドル、カナダ、韓国、コロンビア、ジャマイカ、スリナム、台湾、中央アメリカ、チリ、パハマ、フィリピン、ベネズエラ、ペルー、ボリビア、メキシコ、など

PAL方式

イギリス、イタリア、インドネシア、オーストラリア、オーストリア、オランダ、クウェート、クロアチア、シンガポール、スイス、スウェーデン、スペイン、スロバキア、タイ、チェコ、中国、デンマーク、ドイツ、トルコ、ニュージーランド、ノルウェー、ハンガリー、フィンランド、ベトナム、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マレーシア、ルーマニア、など

PAL-M方式

ブラジル

PAL-N方式

アルゼンチン、ウルグアイ、パラグアイ

SECAM方式

イラク、イラン、ウクライナ、ギリシャ、フランス領ギアナ、フランス、ブルガリア、モナコ、ロシア、など

メモリーカードについて

メモリーカード使用上の ご注意

- ・強い衝撃を与えたたり、曲げたり、落としたりしないでください。
- ・以下のような場所でのご使用や保管は避けてください。
 - 高温になった車の中や炎天下などの気温の高い場所
 - 直射日光のあたる場所
 - 湿気の多い場所や腐食性のものがある場所
- ・長時間使用した直後のメモリーカードは熱くなっています。ご注意ください。
- ・アクセランプ点灯中は、絶対にメモリーカードを取り出したり、バッテリーを取りはずしたり、電源を切らないでください。データが壊れことがあります。
- ・強い磁気のそばにメモリーカードを近づけたり、静電気や電気的ノイズの影響を受ける場所で使用した場合、データが壊れることがあります。
- ・大切なデータは、パソコンのハードディスクなどにバックアップを取つておくことをおすすめします。
- ・メモリーカードの持ち運びや保管の際は、付属の収納ケースに入れてください。
- ・水にぬらさないでください。
- ・端子部には手や金属で触れないでください。

・書き込み禁止スイッチや誤消去防止スイッチが「LOCK」になっていると画像の記録や消去などができなくなります。この場合はロックを解除してください。

- ・パソコンでフォーマットしたメモリーカードは、本機での動作を保証しません。本機でフォーマットしてください。
- ・お使いのメモリーカードと機器の組み合わせによっては、データの読み込み/書き込み速度が異なります。
- ・メモエリアに書き込むときは、あまり強い圧力をかけないでください。
- ・メモリーカード本体にラベルなどを貼らないでください。
- ・分解したり、改造したりしないでください。
- ・小さいお子さまの手の届くところに置かないようにしてください。誤って飲みこむおそれがあります。

本機で使用できるメモリースティックについてのご注意

本機で使用できるものは下記のとおりです。ただし、すべてのメモリースティック PRO デュオの動作を保証するものではありません。

メモリースティック PRO デュオ¹⁾²⁾³⁾

メモリースティック PRO-HG デュオ¹⁾²⁾

メモリースティック XC-HG デュオ¹⁾²⁾

¹⁾ マジックゲート™搭載のメモリースティック デュオです。

“マジックゲート”とは、暗号化技術を使って著作権を保護する技術です。本機ではマジックゲート機能が必要なデータの記録/再生はできません。

²⁾ パラレルインターフェースを利用した高速データ転送に対応しております。

³⁾ 動画撮影時はMark2マークの付いたもののみ使えます。

- 使用可能なメモリースティックについての最新情報は、ホームページ上の「メモリースティック対応表」をご確認ください。

[http://www.sony.jp/
memorystick/compatible/](http://www.sony.jp/memorystick/compatible/)

メモリースティックマイクロ™(別売)使用上のご注意

- 本製品はメモリースティックマイクロ(M2)に対応しています。M2はメモリースティックマイクロの略称です。
- メモリースティックマイクロを本機でお使いの場合は、必ずメモリースティックマイクロをデュオサイズのM2アダプターに入れてからお使いください。デュオサイズのM2アダプターに装着されていない状態で挿入すると、メモリースティックマイクロが取り出せなくなる可能性があります。
- メモリースティックマイクロは小さいお子さまの手の届くところに置かないようにしてください。誤って飲み込むおそれがあります。

バッテリーの充電について

- NP-FW50以外のバッテリーを充電しないでください。指定以外のバッテリーを充電すると、バッテリーの液漏れ、発熱、破裂、感電の原因となり、やけどやけがをするおそれがあります。
- 充電終了後はACアダプターをコンセントからはずす、もしくは本体からUSBケーブルを抜いてください。そのまま取り付けていると、バッテリーの寿命を損なうことがあります。
- 本体側面の充電ランプには以下の2つの点滅パターンがあります。
速い点滅・・・約0.3秒の点灯と消灯を繰り返す
遅い点滅・・・約1.3秒の点灯と消灯を繰り返す
- 充電ランプが速い点滅をしている場合は充電中のバッテリーを取りはずし、もう一度同じバッテリーを確実に取り付ける、もしくはUSBケーブルを一度抜いてから挿し直してください。再び充電ランプが速く点滅した場合は、バッテリーの異常、または指定以外のバッテリーが挿入されている、ACアダプターやUSBケーブルの不具合が考えられます。指定のバッテリーかどうか、またはACアダプターおよびUSBケーブルに傷、破損がないか確認してください。指定のバッテリーを挿入している場合は、一度バッテリーを抜き、新品のバッテリーなど別のバッテリーを挿入して正常に充電できるか確認してください。

正常に充電できる場合はバッテリーの異常が考えられます。別のバッテリーを挿入しても正常に充電できない場合、ACアダプターもしくはUSBケーブルの不具合が考えられます。別のACアダプターまたはUSBケーブルに交換して正常に充電できるか確認してください。

• 充電ランプが遅い点滅をしている場合は充電を一時停止した待機状態になっています。充電に適した温度範囲外にある場合は自動的に充電を一時止め、待機状態になります。充電に適切な温度範囲に戻れば充電を再開し、充電ランプは点灯になります。バッテリーの充電は周囲温度が10℃～30℃の環境で行うことをおすすめします。

バッテリー使用上のご注意

- バッテリーはNP-FW50をご使用ください。
- 使用状況や環境によっては、残量表示は正しく表示されません。
- バッテリーは防水構造ではありません。水などにぬらさないようにご注意ください。
- 高温になった車の中や炎天下などの気温の高い場所に放置しないでください。

バッテリーの上手な使いかた

- 周囲の温度が低いと、バッテリーの性能は低下し、使用できる時間は短くなります。また、連写の速度も遅くなります。バッテリーをポケットなどに入れて温かくしておき、撮影の直前、本機に取り付けることをおすすめします。
- フラッシュ撮影や連続撮影、電源の入り切りなどを頻繁にしたり、モニターを明るく設定すると、バッテリーの消費が早くなります。

バッテリーの寿命について

- バッテリーには寿命があります。使用回数を重ねたり、時間が経過するにつれバッテリーの容量は少しづつ低下します。使用できる時間が大幅に短くなった場合は、寿命と思われますので新しいものをご購入ください。
- 寿命は、保管方法、使用状況や環境、バッテリーパックごとに異なります。

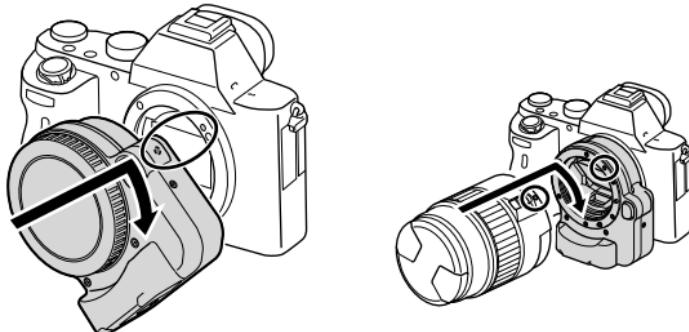
保管方法について

バッテリーを長持ちさせるためには、長時間使用しない場合でも、1年に1回程度充電して本機で使い切り、その後本機からバッテリーを取りはずして、湿度の低い涼しい場所で保管してください。

マウントアダプターについて

マウントアダプター(別売)を使うと、Aマウントレンズ(別売)も本機に取り付けられます。

詳しくは、マウントアダプターの取扱説明書をご覧ください。



マウントアダプターの種類によって使用できる機能が異なります。

機能	LA-EA1	LA-EA3
フルサイズ撮影	不可能	可能(フルサイズ対応レンズ装着時)
オートフォーカス	SAM、SSMレンズでのみ可能*	
AF方式	コントラストAF	
フォーカス切り換え	レンズのAF/MF切り替えスイッチ	
オートフォーカスマード	シングルAF	
手ブレ補正	ボディ内	ボディ内

機能	LA-EA2	LA-EA4
フルサイズ撮影	不可能	可能(フルサイズ対応レンズ装着時)
オートフォーカス	可能	
AF方式	位相差AF	
フォーカス切り換え	SAMレンズ：レンズ側の操作スイッチで切り替え SSMレンズ：レンズ側の操作スイッチで切り替え、レンズ側スイッチがAFのときのみメニューでも設定可能 それ以外のレンズ：メニューでのみ設定可能	
オートフォーカスマード	シングルAF/コンティニュアスAF	
手ブレ補正	ボディ内	ボディ内

* Aマウントレンズ装着時のオートフォーカスは、Eマウントレンズ装着時より遅くなります。(約2秒～約7秒(当社測定条件に基づいて撮影した場合)。被写体や撮影時の明るさなどにより変わることあります。)

マウントアダプターの種類によって、[フォーカスエリア]で選べる設定が異なります。

LA-EA1/LA-EA3

 (ワイド)	25個のフォーカスエリアのうち、どこをピント合わせに使うかを自動的に決定する。
 (ゾーン)	モニター上でピントを合わせたいゾーンの位置を選ぶ。ゾーンは9個のフォーカスエリアに分かれており、その中でピントを合わせるエリアを自動的に決定する。
 (中央)	常に中央部のフォーカスエリアでピントを合わせる。
 (フレキシブルスポット)	モニター上の好きなところに測距枠を移動し、非常に小さな被写体や狭いエリアを狙ってピントを合わせる。フレキシブルスポット画面で、コントロールホイールを回して、測距枠のサイズを変更できる。

LA-EA2/LA-EA4

 (ワイド)	15個のフォーカスエリアのうち、どこをピント合わせに使うかを自動的に決定する。
 (中央)	常に中央部のフォーカスエリアでピントを合わせる。
 (フレキシブルスポット)	15個のフォーカスエリアからピントを合わせるフォーカスエリアをコントロールホイールで選ぶ。

ご注意

- お使いいただけないレンズや、オートフォーカスできないレンズもあります。レンズの互換性は、「α」専用サイトをご確認ください。
<http://www.sony.jp/support/ichigan/>
- マウントアダプター使用中に動画を撮影するとき、オートフォーカスはシャッターボタンの半押しのみ有効です。
- Aマウントレンズ使用時は、AF補助光は発光しません。
- 動画記録中はカメラやレンズの作動音、操作音などが記録されてしまうことがあります。
MENUボタン →  (撮影設定) → [音声記録] → [切]で音声を記録しないように設定できます。
- お使いのレンズや被写体によっては、ピント合わせに時間がかかるたりピントが合いかにくい場合があります。
- レンズによってはフラッシュの光がさえぎられることがあります。

縦位置グリップ(別売)について

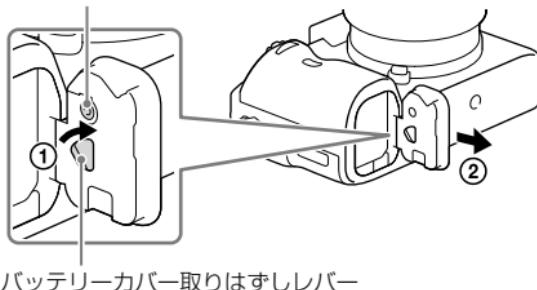
本機に、別売の縦位置グリップVG-C2EMを取り付けて、縦位置での撮影ができます。縦位置グリップ取り付け時は、バッテリーカバーを取りはずしてください。

縦位置グリップの取扱説明書もあわせてご覧ください。

バッテリーカバーを取りはずすには

本機のバッテリーカバー取りはずしレバーを矢印の方向に回します。バッテリーカバーの軸がバッテリーカバー内に収納されるので、横へ引き出します。

バッテリーカバー取り付けボタン



- 取りはずしたバッテリーカバーは、縦位置グリップに取り付けて保管できます。
- 縦位置グリップ取り付け時は、バッテリー残量が **1** **2** のように表示されます。

本機にバッテリーカバーを取り付けるときは、バッテリーカバー取り付け部の穴にバッテリーカバーのヒンジ部を当てて位置を決めてから、バッテリーカバー取り付けボタンを押して取り付けます。

ご注意

- 縦位置グリップを取り付けた状態では、下記のことはできません。
 - バッテリーの充電(バッテリーは、カメラ本体に入れて充電してください)
 - ACアダプター AC-PW20(別売)の使用

ライセンスについて

ライセンスに関する注意

本製品には、弊社がその著作権者とのライセンス契約に基づき使用しているソフトウェアが搭載されております。当該ソフトウェアの著作権者様の要求に基づき、弊社はこれらの内容をお客様に通知する義務があります。

ライセンス内容(英文)に関しては、本機の内蔵メモリー内に記載されています。

本機とパソコンをMassStorage接続し、[PMHOME] - [LICENSE]内にあるファイルをご一読ください。

本製品は、MPEG LA, LLC.がライセンス活動を行っているAVC PATENT PORTFOLIO LICENSEの下、次の用途に限りライセンスされています：

- (i) 消費者が個人的、又は他の報酬を受けていない使用目的で、MPEG-4 AVC 規格に合致したビデオ信号(以下、AVC VIDEOといいます)にエンコードすること。
- (ii) AVC VIDEO (消費者が個人的、又は他の報酬を受けていない目的でエンコードしたもの、若しくはMPEG LAよりライセンスを取得したプロバイダーがエンコードしたものに限られます)をデコードすること。

なお、その他の用途に関してはライセンスされていません。プロモーション、商業的に利用することに関する詳細な情報につきましては、MPEG LA, LLC.のホームページをご参照ください。

GNU GPL/LGPL適用ソフトウェアに関するお知らせ

本製品には、以下のGNU General Public License (以下「GPL」とします) または、GNU Lesser General Public License (以下「LGPL」とします) の適用を受けるソフトウェアが含まれております。お客様は添付のGPL/LGPLの条件に従いこれらのソフトウェアのソースコードの入手、改変、再配布の権利があることをお知らせいたします。ソースコードは、Webで提供しております。

ダウンロードする際には、以下のURLにアクセスしてください。

<http://www.sony.net/Products/Linux/>

なお、ソースコードの中身についてのお問い合わせはご遠慮ください。

ライセンス内容(英文)に関しては、本機の内蔵メモリー内に記録されています。本機とパソコンをMassStorage接続し、[PMHOME] - [LICENSE]内にあるファイルをご一読ください。

保証書とアフターサービス

必ずお読みください

記録内容の補償はできません

万一、カメラやメモリーカードなどの不具合などにより記録や再生されなかつた場合、記録内容の補償については、ご容赦ください。

保証書は国内に限られています

このカメラは国内仕様です。外国で万一、事故、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスおよびその費用については、ご容赦ください。

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容を正確かつ確かめの上、大切に保存してください。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

“困ったときは”の項を参考にして故障かどうかお調べください。それでも具合の悪いときは相談窓口にご相談ください(裏表紙)。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の交換について

この商品は修理の際、交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

部品の保有期間について

当社はカメラの補修用性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)を製造打ち切り後7年間保有しています。

ただし、故障の状況、その他の事情により、修理に代えて製品を交換する場合がありますので、ご了承ください。

ヘルプガイドについて



「ヘルプガイド」はオンラインで見るマニュアルです。パソコンやスマートフォンでご覧ください。
さらに詳しい使いかたをご覧いただけます。

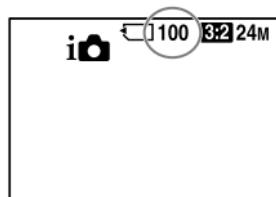
URL :

<http://rd1.sony.net/help/ilc/1450/ja/>



撮影可能枚数/時間を確認する

メモリーカードを入れて電源スイッチを「ON」にすると、画面に、撮影可能枚数(現在の設定で撮影を続けると、あと何枚撮影できるか)が表示されます。



ご注意

- 撮影可能枚数が「0」で黄色く点滅したときは、メモリーカードの容量がいっぱいです。メモリーカードを交換するか、メモリーカード内の画像を削除してください(60、195ページ)。
- 撮影可能枚数が「NO CARD」で黄色く点滅したときは、メモリーカードが入っていません。メモリーカードを入れてください。

1枚のメモリーカードで撮影できる枚数

本機でフォーマットしたメモリーカードに記録できる撮影枚数の目安は次のとおりです。当社試験基準メモリーカード使用時の枚数です。撮影状況および使用するメモリーカードによって記録可能枚数は異なります。

画像サイズ：[L: 24M]

横縦比3:2のとき*

本機でフォーマットしたメモリーカード

(単位：枚)

容量	2GB	4GB	8GB	16GB	32GB	64GB
スタンダード	280	560	1100	2250	4600	9200
ファイン	195	395	800	1600	3200	6400
エクストラファイン	105	215	435	870	1700	3450
RAW+JPEG	54	105	215	435	870	1750
RAW	74	145	295	600	1200	2400

* [横縦比]を[16:9]に設定しているときは、上記の枚数より多く記録できます(RAW設定時はのぞく)。

バッテリーの使用時間と撮影/再生可能枚数

		使用時間	枚数
静止画撮影	モニターモード時	—	約350枚
	ファインダーモード時	—	約270枚
実動画撮影	モニターモード時	約65分	—
	ファインダーモード時	約60分	—
連続動画撮影	モニターモード時	約100分	—
	ファインダーモード時	約100分	—
静止画再生		約280分	約5600枚

- ・ 使用時間や撮影枚数は満充電された状態での目安です。使用方法によって時間や枚数は減少する場合があります。
- ・ 使用時間や撮影可能枚数は以下の条件で撮影した場合です。
 - 温度が25°C
 - FE 28-70mm F3.5-5.6 OSSレンズ使用時
 - 当社製のメモリースティック PRO デュオ(別売)使用時
 - [ファインダー明るさ] : [マニュアル] [±0]
 - [モニター明るさ] : [マニュアル] [±0]
 - [表示画質] : [標準]
- ・ 静止画撮影時の数値は、CIPA規格により、以下の条件で撮影した場合です。
(CIPA : カメラ映像機器工業会、Camera & Imaging Products Association)
 - DISP : [全情報表示]
 - [フォーカスマード] : AF-S
 - 30秒ごとに1回撮影
 - 10回に一度、電源を入/切する

- 動画撮影時の数値はCIPA規格により、以下の条件で撮影した場合です。
 - 動画画質：60i 17M (FH)
 - 実動画撮影：撮影、ズーム、撮影スタンバイ、電源入/切を繰り返す。
 - 連続動画撮影：連続撮影の制限(29分)により撮影が終了したときは、再度MOVIE（動画）ボタンを押して撮影を続ける。ズームなどのその他の操作はしない。

動画の記録可能時間

本機でフォーマットしたメモリーカードに記録できる、動画ファイルの合計記録時間の目安です。[記録方式]が[XAVC S]と[AVCHD]の数値は、[同時ビデオ記録]を[切]で使用したときの数値です。

本機でフォーマットしたメモリーカード

記録方式 サイズ	容量	2GB	4GB	8GB	16GB	32GB	64GB
XAVC S 60p 50M	—	—	—	—	—	—	2時間 35分
XAVC S 30p 50M	—	—	—	—	—	—	2時間 35分
XAVC S 24p 50M	—	—	—	—	—	—	2時間 35分
AVCHD 60i 24M (FX)	10分	20分	40分	1時間 30分	3時間	6時間	
AVCHD 60i 17M (FH)	10分	30分	1時間	2時間	4時間 5分	8時間 15分	
AVCHD 60p 28M (PS)	9分	15分	35分	1時間 15分	2時間 30分	5時間 5分	
AVCHD 24p 24M (FX)	10分	20分	40分	1時間 30分	3時間	6時間	
AVCHD 24p 17M (FH)	10分	30分	1時間	2時間	4時間	8時間	
MP4 1440×1080 12M	20分	40分	1時間 20分	2時間 45分	5時間 30分	11時間	
MP4 VGA 3M	1時間 10分	2時間 25分	4時間 55分	10時間	20時間	40時間	

- 連続撮影可能時間は1回の撮影で約29分です(商品仕様による制限)。

ご注意

- 撮影シーンに合わせて動画の画質を自動調節するVBR (Variable Bit-Rate) 方式を採用しているため記録時間が変動します。動きの速い映像を記録する場合、メモリーの容量を多めに使用してより鮮明な画像を記録しますが、その分記録時間は短くなります。また、撮影環境や被写体の状態、画質/画像サイズの設定によっても記録時間は変動します。
- 表の数値は連続撮影時間ではありません。
- 撮影環境や使用するメモリーカードによって記録時間が異なる場合があります。
- 動画の再生については74ページをご覧ください。

動画の連続撮影についてのご注意

- イメージセンサーを使った高精彩な動画や高速で連写を行うには多くの電力を必要とします。そのため連続して撮影し続けることでカメラ内部、特にイメージセンサーの温度が上昇します。温度の上昇は画質への影響やカメラ内部に対して負荷が生じるので自動的に電源が切れる仕様となっています。
- しばらく電源を切った状態から撮影を開始した場合、下記の連続動画撮影が可能です(記録開始から停止するまでの時間です)。

環境温度	連続動画撮影時間
20°C	約29分
30°C	約29分
40°C	約29分

- 連続動画撮影時間は温度環境や動画撮影前の使用状況により変動します。カメラの電源を入れ、構図確認や静止画撮影を繰り返し使用していた場合には、カメラ内部の温度が上昇しますので、上記の動画撮影時間より短くなります。
- [!]が表示された場合は動画撮影を終了してください。

- 温度の上昇により動画撮影が停止した場合、電源を切ったまま数分間放置し、カメラの温度が下がってから撮影を再開してください。
- 以下の点に気を付けると、より長く動画を撮影することができます。
 - できるだけ直射日光を避ける
 - 使用しないときはこまめに電源を切る
- 動画の連続撮影は最長でも約29分で停止します。
- [■記録方式] が[AVCHD] の場合は、1つの動画ファイルは約2GBで制限されます。連続記録中のファイルサイズが約2GBになると、自動的に新しいファイルが作成されます。

困ったときは／本機について

主な仕様

本体

[形式]

カメラタイプ レンズ交換式デジタルカメラ

使用レンズ ソニー Eマウントレンズ

[撮像部]

撮像素子 35 mmフルサイズ(35.8 mm×23.9 mm)、CMOSイメージセンサー

カメラ有効画素数 約24 300 000画素

総画素数 約24 700 000画素

[手ブレ補正]

形式 イメージセンサーシフト方式(内蔵)

[アンチダスト]

システム 帯電防止コートとイメージセンサーシフト駆動の併用

[オートフォーカス]

形式 位相差検出方式/コントラスト検出方式

検出輝度範囲 EV-1 ~ EV+20 (ISO100相当、F2.0レンズ使用)

AF補助光 約0.3 m ~ 3 m(FE 28-70mm F3.5-5.6 OSSレンズ使用時)

[ファインダー]

形式 電子式ビューファインダー

総ドット数 2 359 296 ドット

視野率 100%

倍率 約0.71倍(50 mmレンズ、無限遠、視度 -1 m^{-1} 時)

アイポイント 最終光学面から約27 mm、接眼枠から約22 mm (視度 -1 m^{-1} 時)(CIPA規格準拠)

視度調整 -4.0 m^{-1} ~ $+3.0\text{ m}^{-1}$

[モニター]

液晶モニター	7.5 cm (3.0型) TFT駆動
ドット数	1 228 800 (640×4 (RGBW)×480) ドット

[露出制御]

測光方式	1200分割ライブビュー分析測光
測光範囲	EV-1 ~ EV+20 (ISO100相当、F2.0レンズ使用)
ISO感度(推奨露光指数)	静止画撮影時：ISO100 ~ 25600 (拡張ISO50)、オート (ISO100 ~ 6400、上限/下限設定可能) 動画撮影時：ISO200 ~ 25600相当、オート(ISO200 ~ 6400相当、上限/下限設定可能)
	マルチショットNR：オートISO100 ~ 51200 (1EVステップ)
露出補正	±5.0EV (1/3、1/2EVステップ切り換え可能) ダイヤル操作時：±3.0EV (1/3EVステップ)

[シャッター]

形式	電子制御式縦走りフォーカルプレーンシャッター
シャッタースピード範囲	静止画撮影時：1/8000 ~ 30秒、バルブ 動画撮影時：1/8000 ~ 1/4秒(1/3段ステップ)、AUTO時は1/60秒まで(オートスローシャッター 1/30秒まで)
フラッシュ同調速度	1/250秒

[連続撮影]

連続撮影速度	■ Hi : 每秒最高約5枚 / ■ Lo : 每秒最高約2.5枚 • 弊社測定条件による。撮影条件によっては連続撮影の速度が遅くなります。
連続撮影枚数	■ Hi : エクストラファイン50枚/ ■ Lo : エクストラファイン69枚

[記録方式]

静止画記録方式 JPEG (DCF Ver.2.0、Exif Ver.2.3、MPF Baseline)準拠、
RAW (ソニー ARW 2.3フォーマット)

動画記録方式(XAVC S方式)

MPEG-4 AVC/H.264 XAVC S ver.1.0規格準拠
映像：MPEG-4 AVC/H.264
音声：LPCM 2ch (48kHz 16bit)

動画記録方式(AVCHD方式)

AVCHD規格 Ver2.0準拠
映像：MPEG-4 AVC/H.264
音声：Dolby Digital 2ch
ドルビーデジタルステレオクリエーター搭載
• ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。

動画記録方式(MP4方式)

映像：MPEG-4 AVC/H.264
音声：MPEG-4 AAC-LC 2ch

[記録メディア]

メモリースティック PRO デュオ、SDカード

[入/出力端子]

マルチ/マイクロUSB端子*
USB通信 Hi-Speed USB (USB 2.0)

HDMI端子 HDMIタイプD マイクロ端子

マイク(マイク)端子 Ø 3.5 mmステレオミニジャック

ヘッドホン(ヘッドホン)端子 Ø 3.5 mmステレオミニジャック

* この端子にはマイクロUSB規格に対応した機器をつなぐことができます。

[電源]

バッテリー リチャージャブルバッテリーパックNP-FW50

消費電力(撮影時) FE 28-70mm F3.5-5.6 OSS*使用時
ファインダー使用時：約3.5 W
モニター使用時：約2.6 W
* ILCE-7M2Kに付属

[その他]

Exif Print	対応
DPOF	対応
PRINT Image Matching III	対応
外形寸法	126.9 mm×95.7 mm×59.7 mm（幅×高さ×奥行き、突起部を除く）
本体質量	約599 g（バッテリー、メモリースティック PRO デュオを含む） 約556 g（本体のみ）
動作温度	0°C～40°C

[ワイヤレスLAN]

対応規格	IEEE 802.11 b/g/n
使用周波数帯	2.4 GHz帯
セキュリティ	WEP/WPA-PSK/WPA2-PSK
接続方式	WPS (Wi-Fi protected Setup)/マニュアル
アクセス方式	インフラストラクチャーモード
NFC	NFCフォーラム Type 3 Tag準拠

Model No. WW328278

ACアダプター AC-UD10/AC-UUD11

定格入力	AC100 V～240 V、50 Hz/60 Hz、70 mA
定格出力	DC 5 V、1.5 A

困ったときは／本機について

リチャージャブルバッテリー^{パック} NP-FW50

使用電池	リチウムイオン蓄電池	
最大電圧	DC 8.4 V	
公称電圧	DC 7.2 V	
容量	公称容量	7.7 Wh (1 080 mAh)
	定格(最小)容量	7.3 Wh (1 020 mAh)

レンズ FE 28-70mmズームレンズ(ILCE-7M2Kに付属)

焦点距離	28 mm - 70 mm
レンズ群-枚	8-9
画角	75° - 34°
最短撮影距離*	0.3 m - 0.45 m
最大撮影倍率	0.19倍
最小絞り	F22 - F36
フィルター径	55 mm
外形寸法(最大径×長さ)	約 72.5 mm × 83 mm
質量	約 295 g
手ブレ補正機能	あり

* 撮像素子面から被写体までの最短距離を表します。

本機や付属品の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。ご了承ください。

画像の互換性について

- 本機は、(社)電子情報技術産業協会(JEITA)にて制定された統一規格“Design rule for Camera File system”(DCF)に対応しています。
- 本機で撮影した画像の他機での再生、他機で撮影/修正した画像の本機での再生は保証いたしません。

商標について

- メモリースティックおよび  はソニー株式会社の商標または登録商標です。
- XAVC Sおよび  はソニー株式会社の登録商標です。
- Blu-ray Disc™およびBlu-ray™はブルーレイディスクアソシエーションの商標です。
- AVCHD ProgressiveおよびAVCHD Progressiveロゴは、パナソニック株式会社とソニー株式会社の商標です。
- Dolby、ドルビー、およびダブルD記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。
- HDMI、HDMI High-Definition Multimedia Interface およびHDMI ロゴは、HDMI Licensing LLC の商標もしくは米国およびその他の国における登録商標です。
- Microsoft、Windowsは、米国 Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Macは米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
- iOSは、シスコの登録商標または商標です。
- iPadは、米国およびその他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
- SDXCロゴは、SD-3C, LLCの商標です。
- Android、Google PlayはGoogle Inc.の登録商標または商標です。
- Wi-Fi、Wi-Fiロゴ、Wi-Fi PROTECTED SET-UPはWi-Fi Allianceの登録商標または商標です。

- NマークはNFC Forum, Inc.の米国およびその他の国における商標あるいは登録商標です。
- Felicaプラットフォームマークは、フェリカネットワークス株式会社の登録商標です。
- 「おサイフケータイ」は、株式会社NTT ドコモの登録商標です。
- AOSSは、株式会社バッファローの商標です。
- DLNAおよびDLNA CERTIFIEDは Digital Living Network Allianceの商標です。
- Facebook、“f”ロゴはFacebook, Inc. の商標または登録商標です。
- YouTubeおよびYouTubeロゴは、 Google Inc.の商標または登録商標です。
- Eye-Fiは、Eye-Fi, Inc.の商標です。
- その他、本書に記載されているシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中には™、®マークは明記していない場合があります。



安全のために

→2ページもあわせてお読みください。



火災



感電

下記の注意事項を守らないと、火災、大けがや死亡にいたる危害が発生することがあります。

分解や改造をしない

火災や感電の原因となります。内部点検や修理は相談窓口にご依頼ください。



分解禁止

内部に水や異物(金属類や燃えやすい物など)を入れない

火災、感電の原因となります。万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、電池を取り出してください。ACアダプターやバッテリーチャージャーなどもコンセントから抜いて、相談窓口にご相談ください。



禁止

運転中に使用しない

自動車、オートバイなどの運転をしながら、撮影、再生をしたり、モニターを見るることは絶対おやめください。交通事故の原因となります。



禁止

撮影時は周囲の状況に注意をはらう

周囲の状況を把握しないまま、撮影を行わないでください。事故やけがなどの原因となります。



禁止

指定以外の電池、ACアダプター、バッテリーチャージャーを使わない

火災やけがの原因となることがあります。



禁止

機器本体や付属品、メモリーカードは、乳幼児の手の届く場所に置かない

電池などの付属品やメモリーカードなどを飲み込むおそれがあります。乳幼児の手の届かない場所に置き、お子様がわらぬようご注意ください。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師に相談してください。



禁止

電池やショルダーベルト、ストラップを正しく取り付ける

正しく取り付けないと、落下によりけがの原因となることがあります。



指示

また、ベルトやストラップに傷がないか使用前に確認してください。

電源コードを傷つけない

熱器具に近づけたり、加熱したり、加工したりすると火災や感電の原因となります。また、電源コードを抜くときは、コードに損傷を与えないように必ずプラグを持って抜いてください。



禁止

可燃性/爆発性ガスのある場所でフラッシュを使用しない



禁止



火災



感電

下記の注意事項を守らないと、火災、大けがや死亡にいたる危害が発生することがあります。

フラッシュやAF補助光などの撮影補助光を至近距離で人に向けない



禁止

- 至近距離で使用すると視力障害を起こす可能性があります。特に乳幼児を撮影するときは、1m以上はなれてください。
- 運転者に向かって使用すると、目がくらみ、事故を起こす原因となります。

カメラのファインダーや取りはずしたレンズを通して、太陽や強い光を見ない



禁止

視力障害や失明の原因となります。

長時間、同じ持ち方で使用しない



禁止

使用中に本機が熱いと感じなくとも皮膚の同じ場所が長時間触れたままの状態でいると、赤くなったり水ぶくれができたりなど低温やけどの原因となる場合があります。

以下の場合は特にご注意いただき、三脚などをご利用ください。

- 気温の高い環境でご使用になる場合。
- 血行の悪いかた、皮膚感覚の弱い方などがご使用になる場合。

ワイヤレス機能ご使用上のご注意

病院などの医療機関内、医療用電気機器の近くではワイヤレス機能を使用しない



禁止

電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。

航空機内ではワイヤレス機能を使用しない



禁止

電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。

本製品を使用中に他の機器に電波障害などが発生した場合は、ワイヤレス機能の使用を中止する



指示

電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。

困ったときは／本機について



火災



感電

下記の注意事項を守らないと、けがや財産に損害を与えることがあります。

水滴のかかる場所など湿気の多い場所やほこり、油煙、湯気の多い場所では使わない

火災や感電の原因になることがあります。



禁止

ぬれた手で使用しない

感電の原因になることがあります。



ぬれ手禁止

不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いた所に置いたり、不安定な状態で三脚を設置すると、製品が落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。



禁止

コード類は正しく配置する

電源コードやパソコン接続ケーブル、AV接続ケーブルなどは、足に引っ掛けると製品の落下や転倒などによりけがの原因となることがあるため、充分注意して接続・配置してください。



指示

通電中のACアダプター、バッテリーチャージャー、充電中の電池や製品に長時間ふれない

長時間皮膚が触れたままになっていると、低温やけどの原因となることがあります。



禁止

使用中は機器を布で覆ったりしない

熱がこもってケースが変形したり、火災、感電の原因となることがあります。



禁止

長期間使用しないときは、電源をはずす

長期間使用しないときは、電源プラグをコンセントからはずしたり、電池を本体からはずして保管してください。火災の原因となることがあります。



スラグをコンセントから抜く

フラッシュの発光部を手でさわらない

フラッシュ発光部を指・手袋などで覆ったまま発光しない。また、発光後しばらくは発光部に手を触れないでください。やけど、発煙、故障の原因となります。



禁止

フラッシュ発光部を正常な位置に上げない状態で使用しない

指定外のアクセサリーを装着した場合や、撮影時のスタイル等で、フラッシュ発光部が上がりきらない状態で発光させると、火災の原因となることがあります。



禁止

レンズやモニターに衝撃を与えない

レンズやモニターはガラス製のため、強い衝撃を与えると割れて、けがの原因となることがあります。



禁止



火災

感電

下記の注意事項を守らないと、けがや財産に損害を与えることがあります。

電池や付属品、メモリーカード、アクセサリーなどを取りはずすときは、手をそえる

電池やメモリーカードなどが飛び出すことがあり、けがの原因となることがあります。



指示

直射日光の当たる場所に放置しない

太陽光が近くの物に結像すると、火災の原因になります。やむを得ず直射日光下に置く場合は、レンズキャップを付けてください。



禁止

ヘッドホンを使用するような場合、大音量で長時間つづけて聞くかない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

呼びかけられたら返事ができるくらいの音量で聞きましょう。



禁止

△危険 電池についての安全上のご注意とお願い

漏液、発熱、発火、破裂、誤飲による大けがややけど、火災などを避けるため、下記の注意事項をよくお読みください。

△危険

- 乾電池型充電式電池・バッテリーパックは指定されたバッテリーチャージャー以外で充電しない。
- 電池を分解しない、火の中へ入れない、電子レンジやオーブンで加熱しない。
- 電池を火のそばや炎天下、高温になった車の中などに放置しない。このような場所で充電しない。
- 電池をコインやヘアピンなどの金属類と一緒に携帯、保管しない。
- 電池を水・海水・牛乳・清涼飲料水・石鹼水などの液体でぬらさない。ぬれた電池を充電したり、使用したりしない。



禁止

△警告

- 電池をハンマーなどでたたいたり、踏みつけたり、落とさせたりするなどの衝撃や力を与えない。
- バッテリーパックが変形・破損した場合は使用しない。
- アルカリ電池/ニッケルマンガン電池は充電しない。
- 外装シールをはがしたり、傷つけたりしない。外装シールの一部または、すべてをはがしてある電池や破れのある電池は絶対に使用しない。



禁止

△注意

- 電池は、+、-を確かめ、正しく入れる。
- 電池を使い切ったときや、長期間使用しない場合は機器から取り出しておく。



指示

リチウムイオン電池は、リサイクルできます。不要になったリチウムイオン電池は、金属部にセロハンテープなどの絶縁テープを貼ってリサイクル協力店へお持ち下さい。



Li-ion

リチウムイオン電池

お願い

充電式電池の回収・リサイクルおよびリサイクル協力店については、一般社団法人JBRCホームページ

<http://www.jbrc.net/hp/contents/index.html> を参照してください。

索引

ア行

- アイスタートAF 46
- アイセンサー 21
- アイピースカップ 70
- 赤目軽減発光 129
- アクセスポイント簡単登録 50
- アクセスポイント手動登録 50, 220
- 圧縮率 152
- アップロード設定(Eye-Fi) 214
- 後幕シンクロ 129
- 位相差AFエリア表示 108
- 一覧表示 188
- イメージセンサー 103, 252
- イラスト調 142
- 色温度(ホワイトバランス) 148
- 色空間 167
- 印刷 193
- インデックス 188
- エクストラファイン 153
- エリア設定 66
- オートHDR 139
- オートスローシャッター 170
- オートフォーカス 101, 113
- オートフレーミング 157
- オートホワイトバランス 147
- オートモード 78

- オートレビュー 203
- お手入れ 251
- おまかせオート 78
- 主な仕様 272
- 音声記録 176
- 音声出力タイミング 175
- 音声レベル表示 174
- 音量設定 52, 74

カ行

- 絵画調HDR 142
- 回転 190
- 顔検出 154
- 拡大 187
- 画質 152
- カスタムキー設定 205
- カスタム(ホワイトバランス) 148
- 画像サイズ 150
- カメラ内ガイド 55
- 画面表示 27, 96, 97
- カラーフィルター
(ホワイトバランス) 148
- 感度 136
- 管理ファイル修復 213
- 機器名称変更 50
- 強制発光 129
- 記録画像の回転表示 191

索引

記録可能枚数	267	削除確認画面	52
記録設定(動画)	172	撮影可能枚数	267
記録方式(動画)	171	撮影結果プレビュー	207
クイックナビ	32	撮影モード	77
グラフィック表示	98	シーンセレクション	80
クリーニングモード	252	自動発光	129
クリエイティブスタイル	143	視度調整	21
グリッドライン	203	絞り	88
黒つぶれ	99	絞りプレビュー	207
蛍光灯: 溫白色(ホワイト バランス)	147	絞り優先	88
蛍光灯: 昼光色(ホワイト バランス)	147	シャープネス	145
蛍光灯: 昼白色(ホワイト バランス)	147	シャッタースピード	89
蛍光灯: 白色(ホワイト バランス)	147	シャッタースピード優先	89
結露	254	シャッター半押しAEL	46
言語	14	シャッター半押しAF	46
高感度ノイズリダクション	164	充電	56
個人顔登録	156	情報表示なし	96
コンティニュアスAF	101	初期化	211
コンティニュアスAFエリア表示	109	初期値	54
コントラスト	145	白とび	99
サ行		シングルAF	101
再生	74, 187	人物ブレ軽減	82
彩度	145	水彩画調	142
削除	76, 195, 211	水準器	98
		水中オート	147
		スイングパノラマ	83
		ズーム	71, 161, 187
		ズーム設定	161
		ズームリング操作方向	163

スクロール再生	86	タイルメニュー	38
スタイルボックス	143	ダイレクトマニュアル	
スタンダード	153	フォーカス	112
スポーツ	80	縦位置グリップ	263
スポット測光	120	縦記録画像の再生	191
スマートズーム	161	縦横比	152
スマートフォン転送	49	中央重点	120
スマイル検出感度		中央(フォーカスエリア)	104
インジケーター	159	中央ボタン押しロックオンAF	
スマイルシャッター	159	105
スライドショー	190	調光補正	133
スローシンクロ	131	長秒時ノイズリダクション	164
静止画撮影	71	定常光	47, 117, 126
ゼブラ	118	ディスク作成	237
セルフタイマー	123	ディスプレイ	96
全画素超解像ズーム	161	デジタルズーム	161
全情報表示	98	手ブレ防止	67
操作音	52	手ブレ補正	68
ゾーン(フォーカスエリア)	104	手ブレ補正設定	68
測光インジケーター	92, 126	手持ち夜景	82
測光モード	120	デモモード	53
ソフトウェア	226	テレビ鑑賞(Wi-Fi)	49
ソフトハイキー	141	テレビやモニターにつなぐ	197
ソフトフォーカス	142	電球(ホワイトバランス)	147
夕行		電子音	52
ダイヤルの設定	49	電子先幕シャッター	207
ダイヤル/ホイールロック	49	電池	56, 259
ダイヤル露出補正	117	トイカメラ	141
太陽光(ホワイトバランス)	147	動画	73, 168
		動画音声記録	176

動画記録設定	172	バルブ撮影	93
動画記録方式	171	パワーセーブ	209
同時ビデオ記録	173	パワーセーブ開始時間	209
登録	216	半押し	71
登録呼び出し	217	ピーキング	110
時計合わせ	66	ピーキング色	111
ドライブモード	121	ピーキングレベル	110
曇天(ホワイトバランス)	147	日陰(ホワイトバランス)	147
ナ行			
日時設定	65	ピクチャーエフェクト	141
認証マーク表示	54	ピクチャープロファイル	176
ネットワーク設定リセット	50	飛行機モード	50
ノイズリダクション	137, 164	ヒストグラム	99
ハ行			
バージョン表示	218	日付	65
パートカラー	141	日付ビュー	187
ハイコントラストモノクロ	141	日付プリント	194
ハイスピードシンクロ撮影	129	瞳AF	115
背面モニター	96, 97	美肌効果	155
パソコン	226, 232	ビューモード	187
パソコン保存(Wi-Fi)	49	表示画質	208
発光禁止	129	表示切り替え	96, 97
バッテリー	56, 259	ピント	101
バッテリー残量	59	ピント拡大	111
パノラマ	83	ピント拡大時間	44
パノラマ：画像サイズ	151	ファイル番号	211
パノラマ再生	86	ファイン	153
パノラマ：撮影方向	86	ファインダー	21, 96
		ファインダー明るさ	208
		ファインダー色温度	52
		ファインダー撮影用(背面モニター)	97

ファインダー / モニター切換設定	209	プレミアムオート画像抽出	79
ファンクションボタン	36	プログラムオート	87
ファンクションメニュー設定	37	プロテクト	192
風音低減	176	ヘルプガイド	266
風景	81	ポートレート	80
フォーカスエリア	104	ポスタリゼーション	141
フォーカスセット	114	ポップカラー	141
フォーカス表示	102	ボリューム	52
フォーカスモード	101	ホワイトバランス	146
フォーカスロック	103	ホワイトバランスブラケット	127
フォーマット	211		
フォルダー形式	212	マ行	
フォルダー新規作成	213	マーカー設定(動画)	204
フォルダー選択	212	マーカー表示(動画)	204
フォルダービュー	187	マクロ	81
ブラケット	125	マスストレージ	232
ブラケット順序	47	マニュアルシフト	92
フラッシュブラケット	126	マニュアルフォーカス	110, 113
フラッシュ (ホワイトバランス)	147	マニュアル露出	91, 170
フラッシュモード	128, 132	マルチ	120
フラッシュ露出レベルロック	134	マルチインターフェースキー	23
ブラビアリンク	201	マルチショットノイズ	
ブリAF	108	リダクション	137
プリント	193	ミニチュア	142
プリント指定	193	ムービー	73, 168
フレキシブルスポット	104	メディア残量表示	54
プレミアムおまかせオート	78	メニュー	38

モードダイヤルガイド	78
モニター	96
モニター明るさ	208
モニター表示	27
モニターミュート	207

ヤ行

夜景	81
夜景ポートレート	82
夕景	81
横縦比	152

ラ行

ライブビュー表示	100
リッチトーンモノクロ	142
リモコン	166
レトロフォト	141
連写	122
レンズ	62
レンズなしレリーズ	203
レンズ補正(周辺光量)	210
レンズ補正(倍率色収差)	210
レンズ補正(歪曲収差)	210
連続撮影	122
ロー	152
録音レベル	174
露出設定ガイド	45
露出値ステップ幅	41
露出補正	116

露出補正值のリセット	118
露出補正の影響	117

ワ行

ワイド(フォーカスエリア)	104
ワイアレス(フラッシュモード)	130
ワンタッチ(NFC)	219

数字/アルファベット順

1枚撮影	122
1枚プラケット	125
4K静止画再生	202
A	88
AdobeRGB	167
AEL	119
AEロック	119
AF-C	101
AF/MFコントロール	113
AF/MFボタン	113
AF-S	101
AF微調整	107
AF補助光	107
APS-Cサイズ撮影	209
AUTO	71, 78
AVCHD	171
AVCHDビュー	187
DISP	96
DISPボタン(背面モニター)	96

DISPボタン(ファインダー)	96	PCIリモート	232
DMF	112	PlayMemories Home	229
DPOF指定	193	RAW	152
DRO/オートHDR	138	RAW+J	152
DROブラケット	127	Remote Camera Control	231
Dレンジオプティマイザー	138	S	89
Eye-Fi	214	SCN	80
FELロック	134	sRGB	167
FINDER/MONITOR	209	SSID・PWリセット	50
FINE	153	STD	153
Fn	36, 37	Super35mm撮影	170
HDMI	197	TC/UB設定	183
HDMI解像度	199	USB	232
HDMI機器制御	199	USB LUN 設定	233
HDMI設定	199	USB接続	232
HDR	138	WB	146
Image Data Converter	226	XAVC S	169, 171
ISO感度	136	X.FINE	153
JPEG	152		
M	91		
MACアドレス表示	50		
MENU	38		
MF	110, 113		
MFアシスト	112		
MOVIE	73, 168		
MOVIE(動画)ボタン	49, 73		
MP4	171		
MR	216		
MTP	232		
P	87		

